

SYLLABUS



令和 7 年度

独立行政法人国立病院機構
都城医療センター附属看護学校

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科目名	単位数	時間数	実務経験年数	所属
看護学概論	1	30	看護師16年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 教育主事
看護理論	1	30	看護師16年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 教育主事
			看護師18年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅰ	1	30	看護師11年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師18年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師16年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅱ	1	30	看護師14年 病院での勤務(病棟・手術室)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師16年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅲ	1	30	看護師18年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師27年 病院での勤務(病棟・外来)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅳ	1	30	看護師15年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
看護技術Ⅴ	2	60	看護師14年 病院での勤務(病棟・手術室)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師11年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師15年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
統合看護技術	1	30	看護師7年 病院での勤務(病棟)	都城医療センター附属看護学校 専任教員
			看護師16年 病院での勤務(病棟)および看護管理	都城医療センター附属看護学校 教育主事
合計単位数および時間数	9	270		

目次

【基礎分野】

1. 倫理学	1
2. 日本語表現法	3
3. 看護物理学	5
4. 情報科学	7
5. 心理学	9
6. 人間関係論	11
7. 家族関係論	12
8. 社会学	13
9. 生活文化論	15
10. 教育学	17
11. 基礎看護英語	19
12. 看護英会話	21
13. 生涯スポーツ論	22
14. スポーツ実技	23

【専門基礎分野】

1. 解剖生理学Ⅰ	24
2. 解剖生理学Ⅱ	27
3. 生化学	30
4. 栄養学	31
5. 看護生理学	33
6. 微生物学	35
7. 治療法総論	37
8. 病理学Ⅰ	40
9. 病理学Ⅱ	42
10. 病理学Ⅲ	45
11. 病理学Ⅳ	48
12. 病理学Ⅴ	51
13. 薬理学	54
14. 保健医療論Ⅰ	56
15. 保健医療論Ⅱ	58
16. 社会福祉	59
17. 公衆衛生学	62
18. 関係法規	64

【専門分野】

1. 看護学概論	66
2. 看護理論	68
3. 看護技術Ⅰ	70

4. 看護技術Ⅱ	73
5. 看護技術Ⅲ	77
6. 看護技術Ⅳ	80
7. 看護技術Ⅴ	82
8. 看護技術Ⅵ	87
9. 看護技術Ⅶ	90
10. 臨床看護総論	92
11. 地域看護概論	95
12. 地域看護方法論Ⅰ	97
13. 地域看護方法論Ⅱ	99
14. 地域看護方法論Ⅲ	102
15. 成人看護学概論	105
16. 成人看護方法論Ⅰ	107
17. 成人看護方法論Ⅱ	111
18. 成人看護方法論Ⅲ	115
19. 老年看護学概論	119
20. 老年看護方法論Ⅰ	122
21. 老年看護方法論Ⅱ	125
22. 小児看護学概論	128
23. 小児看護方法論Ⅰ	130
24. 小児看護方法論Ⅱ	132
25. 母性看護学概論	135
26. 母性看護方法論Ⅰ	138
27. 母性看護方法論Ⅱ	142
28. 精神看護学概論	145
29. 精神看護方法論Ⅰ	147
30. 精神看護方法論Ⅱ	149
31. 看護研究	152
32. 医療安全	154
33. 災害看護	157
34. 看護マネジメント論	159
35. 統合看護技術	161
36. 基礎看護学実習Ⅰ	163
37. 基礎看護学実習Ⅱ	165
38. 地域看護論実習Ⅰ	166
39. 地域看護論実習Ⅱ	167
40. 成人・老年看護学実習Ⅰ	168
41. 成人・老年看護学実習Ⅱ	169
42. 成人・老年看護学実習Ⅲ	170
43. 小児看護学実習	171
44. 母性看護学実習	173
45. 精神看護学実習	174
46. 看護総合実習	175

基礎分野

基礎分野

【科目】倫理学	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】中別府 温和	【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】元 宮崎公立大学教授		

【授業における到達目標】

- ・人間が活着ているとは何か、について「倫理学」の角度から自分のことばで語ることができる。
- ・よいとは何か、うつくしいとは何か、ただししいとは何かを問いつけることができるようになる。
- ・目的であると同時に義務でもあることを問いつけ、且つ、それを行うことができるようになる。

【授業の概要】DPは本学のディプロマ・ポリシーを表しています。

担当者が配付する講義資料を使用して行います。ことばで丁寧に筋道を立てて語れることを大事にしますので、哲学者（研究者）のことばに直にふれながら学び合い、倫理的な問題がどこにどのように横たわっているのかを問う糸口を身につけます（DP「論理的思考に基づいて自ら判断し行動できる能力」）。そして、患者とわたしが一人の人間として生きていく途のりで、倫理的な課題のどこにどこまで応答することができるのかの可能性を検討します（DP「看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在としてとらえるとともに、生活者として理解し、その人らしく充実した生活を送ることを支援できる能力」「生命を尊重する心（生命の尊厳）と人間愛を基盤とした豊かな人間性」）。

【アクティブ・ラーニング】

各講義において、担当者と受講生との簡単なやりとり（問答）を試みます。また、第2、第6、第8、第10、第11、第14講義では、10分～15分程度、受講生間の意見交換を行います。また、第2、第10、第14講義では、講義に先立ち受講生全員が提出したコメント（質問に対する意見）を講義内容に反映させる予定です。これらの主体的な学び合いを試みながら、本学のアドミッションポリシー「人に関心を持ち、人とかわるることができる」「いろいろな人の話を聞き受け止める柔軟性と、自分の考えを表現できる想像力を持つ人」「志を高く持ち、自分の成長のための努力をする」に向かって歩を進めて行きます。

【授業計画】

回数	内容	備考
1	「哲学・倫理学」に求められている「知」とは何か －「倫理学」を学ぶときの基本的な態度と方法－	コメント カード ①
2	「わたしが一人の人間として活着ている」ということ －このことをどこからどのように問うことができるか－	意見交換
3	「吟味のない生活というものは人間の生きる生活ではない」 －この発言の問うた意味はどこからどのように明らかにできるか－	
4	「知らないのに何か知っているように思っている」という最大の無知 －「知を愛し求めつづけて生きる」ということの意味は何か－	
5	「自分にとってよいと思われること」をしている自分と「自分が本当にのぞんでいること」をしている自分－医療倫理とディレンマの問題－	
6	「よいとは何か」「うつくしいとは何か」「ただししいとは何か」という問い －徳（人間としてよく生きることのもつ或るかたち）の再検討－	資料 1 意見交換
7	「…とは何か」という問い －問うことができる・問わなければならない・問いつけて生きる－	
8	「わたしが一人の人間として活着ている」ということ －「よいとされることをなせ」と「よいひとになれ」－ まとめて代えて	資料 2 意見交換

9	「目的」と「手段」という考え方はらむ問題 － 功利主義的な考え方の再検討－	コメント カード ②
10	「目的」としての幸福 － 「何のために」という問いへの最終的な答えとしての幸福－	意見交換
11	「内的で絶対的な自由」と倫理的であることについて － 「法」との対比による「忠実な家来の偽証」をめぐる譬えの再検討－	資料 3 意見交換
12	わたしの生を律しているものをどこからどのように問うことができるのか － 「自然法」のもつ倫理的な意味と「正義」の再検討も含めて－	
13	「内なる自由」と「意志」 － 「それ自体としてよいかわるいか」と問われること－	コメント カード ③
14	「義務であると同時に目的でもあること」とは何か － 「目的を達成する手段としての行為」と「目的そのものとしての行為」－	意見交換
15	「倫理的である」ということはどのようなことか － 「わたしたちはその人を尊敬しているのではなく、その人が打ち立てた倫理的な態度と方法を尊敬している」－ まとめて代えて	

【科目関連及び進度について】

ことばによって考え、表現し、伝え合い、分かり合おうとするので「日本語表現法」との結びつきは深い。さらに、自然と歴史と社会から成り立つ現実において、且つ、矛盾と明暗両面が重なり合う場所で、在るとは何か、知るとは何か、為すとは何かを個と集団の両面で問い続け判断し行動するので、「社会学」「人間関係論」その他の科目との結びつきも深い。

【試験・課題等の内容】

前半（第1～第8講義）および後半（第9～第15講義）の序論が終わった時点で、「試験問題（論述問題2題：前半1題と後半1題）」を公表します。
試験方法については、第7講義と第14講義において決定します。

【評価方法】

授業中の態度（出席および担当教員との簡単なやりとりや受講生によるコメントメモなどを含む）（15%）、受講生間の意見交換を主とするグループワーク（15%）、試験（70%）で総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは使用しません。テキストに代わる講義資料は各回配付します。この講義資料は最終的には小冊子の体裁（「岩波ジュニア新書」程度の分量）になります。

【参考文献】

講義資料の中で紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

特にありません。

基礎分野

【科目】日本語表現法	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】中武義弘	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】宮崎公立大学非常勤講師	【配当年次】1年

【授業における到達目標】

国語(書かれた内容)を正確に理解し、自分の思いを正しく伝えるために、正確に表現するための思考力や想像力及び言語感覚を、アクティブラーニングを通して養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

【授業の概要】

まずは、基本的な語句の使用について学習する。次に書かれた内容を正しく「読み取る」授業を展開する。最終的には、自分の思いを正しく相手に伝えるために「書く・話す・表現する」ことの授業へと移行したい。これらを完全なものにするために「言葉・表現技法」についても確認する。

【アクティブ・ラーニング】

授業課題も含め、積極的に「読み取り・考え・表現する」内容になるのは言うまでもない。授業者の講義を一方的に聞くのではなく、デベート等を導入し、常に学生が中心になって動く授業を組み立てたい。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	イ 自己紹介 ロ 授業の進め方について ハ 原稿用紙の正しい使い方 【課題】自己紹介の文章を書く
第2回	日本語表現の基礎を学ぶ ①「文末表現と副詞」 【課題】「短歌を詠む」
第3回	日本語表現の基礎を学ぶ ②「誤解を生む表現・特異な語の読み」 【課題】「作詞と作詩」
第4回	イ 短歌を推敲し清書する ロ 日本語表現の基礎を学ぶ ③「体の一部を使った表現（その1）」 【課題】「湖とシルエット」
第5回	日本語表現の基礎を学ぶ ④ 「ら」抜き言葉について 【課題】「パロディーを作る」
第6回	日本語表現の基礎を学ぶ ⑤ 「レトリック」「変換ミス正す」 【課題】「浦島太郎を考える」
第7回	日本語表現の基礎を学ぶ ⑥ 「表記ミス正す」「動物を使った表現（40）」 【課題】「格言から」
第8回	日本語表現の基礎を学ぶ ⑦ 「敬語表現」 【課題】「杜子春」
第9回	様々な文章を味わう ① 「日本語の言い回し前半30」・「三字熟語60」 【課題】「泣いた赤鬼を読み解く」

第 10 回	様々な文章を味わう ② 「日本語の言い回し後半 30」「医療に関する漢字前半 50」 【課題】「西行法師の和歌から」
第 11 回	正しく文章を書く ① 「短文で要約する」「数え方の単位」 【課題】「投稿作文を書く」
第 12 回	正しく文章を書く ② 「文章から結論を読み取る」「カタカナの文章を読み解く」 【課題】「帽子」
第 13 回	正しく文章を書く ③ 実践「投稿作品の推敲と清書」 【課題】「未来日記」
第 14 回	正しく文章を書く ④ 「医療に関する漢字後半 50」「ことわざ後半 40」 【課題】「随筆を書く」
第 15 回	正しく文章を書く ⑤ 「格言集 50」「授業まとめとテストについて」
第 16 回	終了試験(45 分)

【試験・課題等の内容】

表現に関わる課題を、次回の授業開始までに提出する。文章をできるだけたくさん書く課題に取り組んでほしい。評価の対象にするので、積極的な取り組みを期待したい。最終試験では、テーマに即して小論文を書く。内容は最後の授業で知らせる。

【評価方法】

授業終了時間に表現に関わる課題を出す。次回の授業開始までに提出。提出点を 20 点とする。最終試験では、小論文の記述試験を実施し 70 点で評価。残りの 10 点は、授業に臨む態度を評価し、合計を 100 点とする。

【テキスト】

準備する授業プリントで授業を進める。紛失しないようにプリント綴じ（ファイル）等の準備をすること。

【参考文献】

日ごろから新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを心がけること。現代社会はどのように動こうとしているのか、また、何が起きているのかに興味関心を持つことは、一社会人としても重要なことで、それらの課題に関して文章を書く場合も内容について不案内だと書けないということになる。

【授業外における学修方法及び時間】

授業内容でよく理解できないことや、私はこう思うというようなことがあれば、自由に、また積極的に書いて欲しい。

【科目】看護物理学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】野口 大輔	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校 物質工学科 教授	

【授業における到達目標】

- 1) 身体/身体ケアに関する力学的原理の基礎を説明できる。
- 2) 検査・治療・処置に関する科学的裏付けを理解し説明できる。

【授業の概要】

人間の生活に必要な物理学的原理の基礎を想起し、看護技術の科学的裏付けや医療機器の仕組みについて理解する。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に補足資料を配布し計算を必要とする問題を解いてもらう。その後、導いた具体的な解法をグループの学生に説明する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	移動動作に必要な力の加減と物の量を表す単位について スカラーとベクトル、ベクトルの加法減法、力の単位
第2回	体位変換に役立つトルクの知識 トルクとてこ
第3回	仕事とエネルギー 運動量と撃力
第4回	安定と不安定 重心の求め方、重心と安定性
第5回	力のつり合い：牽引 牽引療法、牽引と滑車、ラッセル牽引法
第6回	作用・反作用 反対牽引、作用・反作用
第7回	摩擦 摩擦の種類と方向、斜面に働く摩擦力
第8回	比熱 温度の単位、比熱の定義
第9回	圧力の基礎知識 圧力とは、圧力を高さで見る
第10回	動圧と側圧 圧力の応用、ベルヌーイの定理、血圧
第11回	酸素と圧力の関係 ボンベの種類、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則
第12回	比重 比重と密度、浮力、オートクレーブの原理
第13回	酸・アルカリと pH 酸性・アルカリ性、pH(ペーハー)、緩衝溶液

回数	内容（方法）
第 14 回	濃度 重量パーセント、容量パーセント、モル濃度、
第 15 回	浸透圧 Eq 濃度、浸透圧、浸透圧の求め方
	終了試験 (45 分)

【試験・課題等の内容】

定期試験は授業で使用した教科書および参考資料を中心に、重要語句の説明や計算問題を出題する。課題は適宜、計算問題を中心に行う。

【評価方法】

中間試験・終了試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

完全版ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学－ 学研メディカル秀潤社
物理課題(自作)

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

事前学習により、当該授業時間で進行する部分を高校基礎科学等の教科書にて復習すること。

基礎分野

【科目】情報科学	【単位数・時間】1単位・30時間
【担当講師】金澤 洋司、宮川 泰一、橋本 斉任	【開講時期】第1学期
【配当年次】1年	【所属・職位等】有限会社 システムランド

【授業における到達目標】

1. コンピューターの役割や仕組みを理解し、その活用方法を習得する。
2. コンピューターを活用した情報の取り扱いやコミュニケーションにおけるリテラシーを理解する。

【授業の概要】

情報の基本的な考え方、情報処理の実際を学ぶとともに、コンピューター操作について学ぶ。情報モラルとセキュリティ対策等を含むコンピューター活用の可能性を幅広く理解する科目である。

コンピューターの活用による統計処理の基本を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

実際にパソコン操作を行いながら、実践レベルでの学習を行う。また、パワーポイントの応用としてグループ学習を取り入れ、プレゼンテーションの技術を身につけられるように学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	情報モラル①（個人情報、コピー＆ペーストと引用の違い） パソコンの基本操作		【場所】 情報科学室
第2回	情報モラル②（個人情報） ワード基礎①（文章作成・編集）		
第3回	ワード基礎②（図の挿入、表の挿入）		
第4回	ワード基礎②（表現力を向上する機能）		
第5回	ワード応用①（長文作成、見出し等）		
第6回	ワード応用②（見出し、ページ番号） エクセル基礎①（画面の説明、特徴）		
第7回	エクセル基礎②（データ入力、編集、数式）		
第8回	エクセル基礎③（グラフ作成、データベース機能） 情報モラル③（著作権問題）		
第9回	エクセル応用①（3D集計、基本関数、表示形式）		
第10回	エクセル応用②（条件付き書式設定） エクセル評価テスト		
第11回	パワーポイント基礎① （画面構成、スライド作成、オブジェクトの挿入）		
第12回	パワーポイント基礎②（スライドの編集、特殊効果、印刷）		
第13回	パワーポイント応用 （スライドマスターの編集、ヘッダーフッター編集、スラ		

回数	内容（方法）	講師	備考
	イドショーに役立つ機能)		
第 14 回	プレゼンテーション実践（グループ発表）		
第 15 回	プレゼンテーションの実践 （終了試験含む）（45 分）		

【科目関連及び進度について】

看護研究、統合看護技術につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

必要時、課題を提示する。

【評価方法】

レポート課題および出席等により、総合的に評価する（100％）。

【テキスト】

情報リテラシー 総合編＜改訂版＞ Windows 10・Office 2016 対応

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

授業後に復習を行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

【その他】

USB の購入について、講義開始後に説明する。

基礎分野

【科目】心理学	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】神垣彬子 ¹⁾ ・保田浩美 ²⁾	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】1) 南九州大学 子ども教育学科 専任教員	【配当年次】1年
2) 一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 九州支部	

【授業における到達目標】

現代社会では多様な価値観や生活様式が認められており、それに伴い、医療現場における心理的ケアのニーズも複雑化しつつある。将来携わるであろう、対人スキルや客観的視点が重視される医療や福祉の現場で役立つ心理学の知識を習得することを目的とする。

【授業の概要】

医療現場で求められる人間の「こころ」に関する知識について、現代社会の特徴に重点を置きながら、社会心理学、教育心理学、臨床心理学、実験心理学の観点から講義する。客観的に物事を捉える視点を学び、医療現場における心理学の果たす役割について考える。

【アクティブ・ラーニング】

心理学の知識を必要とする、将来、直面することが想定される医療現場における場面に対するディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識に深めた上で習得できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	心理学を学ぶための心構えー心理学とは科学であるー	保田	
第2回	心理学とはなにかを知る①：人間の心の「分析」		
第3回	心理学とはなにかを知る②：心理学の歴史		
第4回	人間の感覚と心理学との関係について理解する①：物事の認識		
第5回	人間の感覚と心理学との関係について理解する②：記憶と忘却		
第6回	人間の感覚と心理学との関係について理解する③：知覚と感覚		
第7回	人間の成長を心理学的視点から捉える①：乳幼児期の発達		
第8回	人間の成長を心理学的視点から捉える②：児童期の発達		
第9回	人間の成長を心理学的視点から捉える③：青年期の発達	神垣	
第10回	人間の成長を心理学的視点から捉える④：成人期・高齢期の発達		
第11回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する①：性格とはなにか		
第12回	人間の性格や感情を心理学の理論を通して理解する②：感情とはなにか		
第13回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る①：集団心理		
第14回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る②：リーダーシップ		
第15回	社会における心理学的問題のメカニズムと対処方法を知る③：リフレーミングとアサーション		
	終了試験(45分)		

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく口頭にて説明した内容も含まれる。そのため、受講時にノートを取ることを推奨する。

【評価方法】

レポート課題（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100 点の結果で評価する。

【テキスト】

心理学・入門—心理学はこんなに面白い 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

授業後にノートの復習を必ず行い、前後の講義内容との関連性等に着目しながら学びを深める。

基礎分野

【科目】人間関係論	【単位数・時間】1 単位（15 時間）
【担当講師】保田浩美	【開講時期】第 1 学期
【配当年次】1 年	【所属・職位等】一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 九州支部

【授業における到達目標】

人と人とが信頼感を持ち、共に支え合って生活することができるために必要な知識や技術について理解し、さらに、その内容を自分の言葉で表現したり、医療や福祉の現場における様々な人間関係の構築に役立てたりすることができるようになることを目的とする。

【アクティブ・ラーニング】

ディスカッションやロールプレイングを通して、座学で学んだ知識を、実際の場面で応用可能な知識・技能に深めることを目指す。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
1	人間関係論について～コミュニケーションの構造～	
2	看護・医療におけるコミュニケーション	
3	コミュニケーションの効果～ジョハリの窓～	
4	コミュニケーションに影響を及ぼす自己理解	
5	人間関係を円滑に結ぶための知識と技術～カウンセリングマインド～	
6	組織におけるコミュニケーションの特徴	
7	チームマネジメントに必要な力	
	終了試験（45 分）	

【試験・課題等の内容】

試験・課題については、いずれも講義内容に即したものを出题する。講義内容には、板書だけでなく、配布資料や口頭にて説明した内容も含まれる。

【評価方法】

定期試験（基礎用語の理解と指定評価方法テーマに対する論述問題）100 点の結果で評価。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学〔2〕 医学書院
心理学・入門—心理学はこんなに面白い 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】適宜紹介

【授業外における学習方法及び時間】

授業後にテキストや、配布資料の復習を行い学びを深める。

基礎分野

【科目】 家族関係論	【単位数・時間】 1 単位(15 時間)
【担当講師】 金子 幸	【開講時期】 通年
【所属・職位等】 周南公立大学人間健康科学部 福祉学科	【配当年次】 3 年
准教授	

【授業における到達目標】

家族および家族関係について理解を深める。

【授業の概要】

講義やグループワーク、演習を行い、自らの考えを深める授業である。

【アクティブ・ラーニング】

グループワークや演習により自らの考えを述べたり、意見交換を通して考えをまとめたりする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回	1. 家族構造の理解 2. 現代の家族とその課題 ①現代家族の様相と課題 ②特別養子縁組	
第 2 回	1. 家族構造の理解 ジェノグラム、エコマップについて	
第 3 回	1. 家族の育児機能について	
第 4 回	1. 家族の発達段階と発達課題について	
第 5 回	1. きょうだい児支援の在り方	
第 6 回	1. 家族看護過程の展開 1) 家族を支える理論と介入法 (1) 家族を理解するための理論 (1) 家族発達理論 (2) 家族システム論 (2) 家族に変化をもたらすための介入 (1) 家族療法 (2) 家族を支える介入	
第 7 回	1. 家族看護視点での事例検討	
第 8 回	終了試験 (45 分)	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。適宜レポート課題あり。

【評価方法】

終了試験 70%、レポート課題 30%

【テキスト】

系統看護学講座 家族看護学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回、1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

【科目】社会学	【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)
【担当講師】 林田 康子	【開講時期】 第 2 学期
【配当年次】 1 年	【所属・職位等】 南九州大学 非常勤講師

【授業における到達目標】

- (1) 人間の行動や生活の仕方が社会的なものであることを理解できるようになる。
- (2) 社会学の方法を使って、人間の行動や生活の仕方を考察できるようになる。

【授業の概要】

「出生」「学ぶ／教える」「働く」「結婚・家族」「病い・老い」「死」など、人びとが人生で経験するできごとに沿って授業を進める。それぞれのできごとにおいて、これまでの社会学的研究が示してきた知見を通して、我々の行動や社会生活の仕方が、いかに社会とかかわりがあるのか理解を促す。また、各テーマの前半は量的研究、後半は質的研究の成果に基づいて説明を行うので、アプローチの違いによってどのようなことを明らかにできるのか、その違いの理解も促す。

【アクティブ・ラーニング】

基本的には講義の形態をとるが、随時学生に質問をし、意見を述べたり、データを分析してもらう。また、レポート作成を通して理解を深めてもらう。

【授業計画】

回数	内容・方法
第 1 回	社会学とは何か 基本的な方法論を示す
第 2 回	出生 なぜ出生率が下がったのかを考える
第 3 回	出生 妊娠・出産という経験が現在どうなっているのかを考える
第 4 回	学ぶ／教える 教育と社会全体の経済水準、教育と社会階層の関係について考える
第 5 回	学ぶ／教える 学校の内部の教育課程で何が行なわれているのかを考える
第 6 回	働く 「働くこと」の社会的位置づけの変化を考える
第 7 回	働く 具体的な社会状況（組織）のなかに埋め込まれた「働くこと」について考える
第 8 回	結婚・家族 近代化によって家族のあり方はどう変化してきたのか考える
第 9 回	結婚・家族 家族であるとはどのようなことであるのかについて考える
第 10 回	病い・老い 統計学を用いて病いや健康と社会的な要因との関係をみる考え方を紹介する

回数	内容・方法
第 11 回	病い・老い 病むこと・老いることはどのような経験か、当事者などの語りから考える
第 12 回	死 社会学は自殺をどう扱ってきたかを考える
第 13 回	死 死がどのようにして見えるものになるのか、その実践について考える
第 14 回	科学・学問 実証研究としての社会学の考え方を紹介する
第 15 回	科学・学問 科学的知識がどのようにつくられるのか、その実践について考える
	終了試験（45 分）

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業内容から出題する。また、適宜レポート課題を出す。

【評価方法】

終了試験 70%、レポート課題 30%で評価する。

【テキスト】

筒井淳也・前田泰樹著、2017 (初版), 『社会学入門—社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア。

【参考文献】

テキストに記載されている「ブックガイド」「参考文献」を参照のこと。

【授業外における学修方法及び時間】

- (1) 授業前にあらかじめテキストを読んで、概要を把握しておくこと。
- (2) 授業後は、授業中に取り上げた内容を振り返り、自分の経験や身近な事例で考えてみること。

基礎分野

【科目】生活文化論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】桑畑 洋一郎	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】国立大学法人 山口大学 人文学部人文学科	【配当年次】1年
准教授	

【授業における到達目標】

認知症等を患った高齢者に対する在宅医療・在宅看護をベースにして、①人の生と死により深く携わるために対象者の「生活文化」を把握することの重要性を理解すること、②「生活文化」を把握するために必要な姿勢や身構えを理解することの2点を到達目標とする。

【授業の概要】

在宅医療や在宅看護に関するドキュメンタリー映像を見ながら、「生活文化」を把握した上での医療・看護と、それによって人の生と死を豊かにすることを学んでいく。集中講義で実施する予定である。

【アクティブ・ラーニング】

授業中にコメント収集アプリを用いてコメントを集める。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	授業の概要の説明、この授業における「生活文化」とは何か
第2回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第3回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り①
第4回	第1日目の総括
第5回	「在宅医療」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第6回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り②
第7回	「認知症患者の在宅看護」に関するドキュメンタリーの視聴と振り返り③
第8回	第2日目の総括、授業全体の総括 *終了試験含む(45分)

【試験・課題等の内容】

2日間それぞれに、授業を受けての感想と考察を記述して提出してもらう。

【評価方法】

上記の感想と考察を元に評価を行う。

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて授業内で適宜呈示する。

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 関連しそうなことについての新聞やニュースを把握しておくこと。
- ・ 授業で取り上げた内容を、個人的経験や、今後実習等に参加した際の経験と照らし合わせてみること。

基礎分野

【科目】教育学	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】竹内 元	【開講時期】第1学期
【配当年次】1年	【所属・職位等】宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター 授業研究部門 部門長

【授業における到達目標】

本授業は、教育学の基礎的な認識を学ぶとともに、教育や看護を越境しつつ、人間が「教えること」や「学ぶこと」を支えるために必要な知識・技能を学びます。そのさい、具体的な事例を検討することを通して、問題定立のあり方や教育学の思考形式を身に付けるとともに、ワークショップを通して論理的なコミュニケーション力を形成します。

【授業の概要】

本授業は、具体的な事例を通して教育学の基礎的な知識や思考形式を学びます。みなさんにとって身近な看護臨床の指導事例や生活習慣への指導のあり方を題材としながら、多角的な視点から検討することを通して、これまで身に付けてきた教育観や指導観を学びほぐします。そのさい、ワークショップを通して、互いの考えをていねいに聴き合い、多角的なものの見方・考え方を身に付けます。

【アクティブ・ラーニング】

二列ワークやワールドカフェを通して、互いに考えを聴き合い、問いを生成させながら語り合う場を大切にします。さらに、「たとえば」「なぜなら」「言い換えると」「つまり」などの接続語を駆使し、論理的なコミュニケーションを豊かにする関係を形成することを通して、自らの囚われを学びほぐし、多角的なものの見方・考え方に会いながら、自己を豊かにしていく方法を学ぶ機会を保障します。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	それぞれの経験を語り合うワークショップを通して、経験を相対化するとともに、本講義の学習方法を学びます。	
第2回	ワールドカフェを通して、話しながら考えるワークショップを体験するとともに、教育学の基礎的な知識を学びます。	
第3回	看護臨床の事例をもとに、二列ワークやワールドカフェを経験しながら、教育学のものの見方・考え方を学びます。	
第4回	二列ワークやワールドカフェを経験しながら、教育学の論理を学び、教育学の認識を深めます。	
第5回	アクティビティを通して、教育学の現代的な課題を具体的に理解します。	
第6回	指導とは何か、「教えるー学ぶ」関係のあり方や学ぶことの意味や意義を理解するとともに、協調性を育みます。	
第7回	看護臨床の事例をもとに、グループディスカッションすることを通して、教育学の思考形式を学びます。	
第8回	二列ワークやワールドカフェを通して、論理的なコミュニケーションを経験しつつ、教育学の問題定立のあり方を深めます。	
第9回	教育領域の具体的な実践記録を多角的に読み解きながら、生活指導とは何かを学びます。	
第10回	二列ワークやワールドカフェを経験しながら、教育観や指導観を多角的に学び直します。	

回数	内容・方法	備考
第 11 回	「看護であること 看護でないこと」を生活指導の観点から読み解きながら、教育と看護の同型性を学びます。	
第 12 回	二列ワークやワールドカフェを通して、論理的なコミュニケーションを経験しつつ、三角ロジックを学びます。	
第 13 回	ライティング・ワークショップを通して、講義の学びを整理し、自己や他者の考えを多面的に認識します。	
第 14 回	教育学の思考形式を使って、自ら探究する看護師像を交流し、未来志向の考えを構築するあり方を学びます。	
第 15 回	試験	

【試験・課題等の内容】

試験は、レポート課題にて評価します。レポートそのものの評価規準は、以下の通りです。

- (1) 序論・本論・結論の構成で書かれているか。本論に段落があるか。
- (2) タイトルに、考えたことを一文で示しているか。タイトルは、レポート課題の問いを書くことではない。
- (3) 序論に、課題をどのように理解したか、どのように限定して述べるのかなど、レポート課題の解題が示しているかどうか。
- (4) 本論に、思うことではなく、考えたことを示しているか。主張、事例やデータ、論拠があるかどうか。「たとえば」「なぜなら」など2つ以上の接続詞が使えているかどうかなど。
- (5) 誤字・脱字、主語と述語のねじれなど、正しい日本語表記になっているか。自分の書いたレポートが推敲されているかどうか。

なお、試験は、持ち込みを可としています。授業中に配付した資料や授業中のメモを整理し、試験に持参してください。試験問題は、講義の内容から出題します。

【評価方法】

試験の成績と授業の参加にて評価します。 ・試験の成績：80％ ・授業の参加：20％

【テキスト】

- ・フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書－看護であること 看護でないこと（改訂第7版）』現代社、2022年。
 - ・竹内元・興津紀子・佐々敬政・藤本将人編著『教壇から見える景色のこと』鉾脈社、2025年
- なお、必要に応じて資料も配付します。

【参考文献】

必要に応じて文献を紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

予習や復習の課題を授業の中で示します。予習は、講義のディスカッションテーマをもとに、事前に調べたり、自分なりの考えを整理してきたりするものです。復習は、小児保健、成人看護など、看護学の専門科目をしっかりと復習し、講義の内容を看護学の知見と関連づけたり検証したりします。

基礎分野

【科目】基礎看護英語	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】西村 德行	【開講時期】通年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校 名誉教授	【配当年次】1年

【授業における到達目標】

- ・看護に必要な英語の意味が分かる。
- ・看護に必要な英語表現が使えるようになる。
- ・看護に関する英語文献を読んで理解できる。

【授業の概要】

- ・毎回の授業で「はじめての看護英語」の既習の語句・表現に関して復習テストを実施する。
- ・「看護系学生のための総合英語」については、与えられた英語の文章を一定時間内に読んで、内容を把握する練習を実施する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・「看護系学生のための総合英語」の読解練習では、二人ずつペアになって、与えられた内容把握の問題を考えていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	「はじめての看護英語」第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit1
第2回	「はじめての看護英語」第2回 復習テスト第1回 「看護系学生のための総合英語」Unit2
第3回	「はじめての看護英語」第3回 復習テスト第2回 「看護系学生のための総合英語」Unit3
第4回	「はじめての看護英語」第4回 復習テスト第3回 「看護系学生のための総合英語」Unit4
第5回	「はじめての看護英語」第5回 復習テスト第4回 「看護系学生のための総合英語」Unit5
第6回	「はじめての看護英語」第6回 復習テスト第5回 「看護系学生のための総合英語」Unit6
第7回	復習テスト第6回 「看護系学生のための総合英語」まとめ
第8回	中間試験 「はじめての看護英語」第7回
第9回	「はじめての看護英語」第8回 復習テスト第7回 「看護系学生のための総合英語」Unit7
第10回	「はじめての看護英語」第9回 復習テスト第8回 「看護系学生のための総合英語」Unit8
第11回	「はじめての看護英語」第10回 復習テスト第9回 「看護系学生のための総合英語」Unit9
第12回	「はじめての看護英語」第11回 復習テスト第10回 「看護系学生のための総合英語」Unit10
第13回	「はじめての看護英語」第12回 復習テスト第11回

回数	内容（方法）
	読解練習問題（１）
第 14 回	「はじめての看護英語」復習テスト第 1 2 回 読解練習問題（２）、「看護系学生のための総合英語」まとめ
第 15 回	終了試験

【試験・課題等の内容】

- ・「はじめての看護英語」：毎回配布する練習問題より選択して出題する。
- ・「看護系学生のための総合英語」：教科書の問題と毎回配布する練習問題より選択して出題する。

【評価方法】

毎回実施する復習テスト・中間試験・最終試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】

- ・ はじめての看護英語 医学書院
- ・ English for Nursing Students 看護系学生のための総合英語 南雲堂

【授業外における学修方法及び時間】

毎回実施する復習テストの学習に 1 時間程度要する

基礎分野

【科目】看護英会話	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】秦 節子	【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】		

【授業における到達目標】

- ・英語を使って患者さんを相手に的確な対応ができるようになる。
- ・医療現場で使用される英語の語彙、表現に慣れる。

【授業の概要】

- ・患者さんとの英語でのコミュニケーションを想定した演習を通して、重要語句、表現を身につけていきます。
- ・2回目の授業から、前回の学習事項に関する復習テストを実施します。

【アクティブ・ラーニング】

- ・リスニング、ライティングに関する演習、ペアワークを多く取り入れるので、積極的に授業に参加してください。
- ・演習の際は、間違いを恐れず、不安を抱える患者さんに寄り添う気持ち取り組んでください。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	Unit 1 Is this your first visit to this hospital?
第2回	復習テスト Unit 2 What's the matter?
第3回	復習テスト Unit 3 You need to see a Dermatologist.
第4回	復習テスト Unit 4 Let me direct you to Radiology.
第5回	復習テスト Unit 5 Let's check your height and weight.
第6回	復習テスト Unit 6 I need to ask you some questions.
第7回	復習テスト Unit 7 Can you describe the pain?
第8回	中間試験 Unit 8 Rest your arm on the armrest.
第9回	復習テスト Unit 9 Please make a follow-up appointment.
第10回	復習テスト Unit 10 Take this medicine after meals.
第11回	復習テスト Unit 11 Your operation will be this afternoon.
第12回	復習テスト Unit 12 Are you feeling more comfortable now?
第13回	復習テスト Unit 13 This is an emergency.
第14回	復習テスト Unit 14 Tests show you have high sugar levels.
第15回	最終試験・まとめ

【試験・課題等の内容】

授業時に指定する重要語句、表現、および各種練習問題から出題します。

【評価方法】

授業時に実施する復習テスト、中間試験、最終試験の結果を総合的に評価します。

【テキスト】

English For Nurses 看護系学生のための実践英語（朝日出版社）

【参考文献】

辞書をご用意ください。

【授業外における学修方法及び時間】

復習テストの準備および事前に配布される予習課題に取り組んでください。

基礎分野

【科目】生涯スポーツ論	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】榮樂 洋光	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】国立大学法人 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系 講師	

【授業における到達目標】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な尺度や計算方法を使用し指標を知るとともに、運動による心身への効果を理解できるようになる。

【授業の概要】

健康の保持増進や楽しみを目的とする生涯スポーツの意義を理解する。また、様々な運動による心身への効果について学び、実践を通じた効果についても学んでいく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施 授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	運動が健康に及ぼす影響 体力とは、体力の定義
第2回	運動が健康に及ぼす影響 POMS 尺度を用いた運動の効果
第3回	有酸素運動と無酸素運動 運動の種類
第4回	有酸素運動と無酸素運動 よい有酸素運動
第5回	健康に良いスポーツとは 適度な運動強度
第6回	体力と健康の関係
第7回	疲労の防止法 肥満とその解消方法
第8回	*終了試験(45分)

【試験・課題等の内容】

レポート課題を与えます。書式を揃えて提出してください。

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（60点）、レポート（40点）により評価します

【テキスト】

適宜、配布します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返り学習を実施し（与えられたテーマについて）、生涯スポーツの理解を深める（各回1時間）

基礎分野

【科目】スポーツ実技	【単位数・時間】1単位（15時間）
【担当講師】榮樂 洋光	【開講時期】第1学期 【配当年次】2年
【所属・職位等】国立大学法人鹿屋体育大学	スポーツ・武道実践科系 講師

【授業における到達目標】

生涯スポーツ論で運動による心身への効果について学習したことを活用し、様々なスポーツ種目の特徴をふまえ、ルールやマナーを守って楽しむ実技を目指す。そのためにも準備や片付け等についても、協力しながら実践してく。更に障害を持つ人のスポーツについて理解する。

【授業の概要】

様々な種類のスポーツを通して、スポーツが身体に及ぼす影響への理解を深めていく。また、使用場所や環境に応じたルールやマナーを理解していく。更にはスポーツを通して仲間とのコミュニケーション作りについても深めていく。

【アクティブ・ラーニング】

小テスト・アンケートの実施

授業実践前後によるグループ・全体トークの実施

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	体育館を活用したスポーツ①
第2回	体育館を活用したスポーツ①
第3回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第4回	ゴルフ（練習場における打球、マナー）の実践
第5回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第6回	障がい者スポーツの紹介と実践、イニシアティブゲームの紹介と実践
第7回	体育館を活用したスポーツ④
第8回	終了試験（45分間）

【試験・課題等の内容】

最終回にレポート課題

【評価方法】

授業への出席および取り組み状況（70点）とレポート評価（30点）により評価します。

【テキスト】

適宜、資料配付します。

【参考文献】

適宜、紹介します。

【授業外における学修方法及び時間】

各回のふり返し学習（種目、ルール等の学び、）を実施し、実践種目への理解を深める（各回1時間）

專門基礎分野

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅰ（解剖総論 ¹⁾ 、消化器系 ²⁾ 、呼吸器系 ³⁾ 、循環器系 ⁴⁾ 、腎泌尿器系 ⁵⁾ ）
【単位数・時間】2単位(45時間) 【配当年次】1年 【開講時期】第1学期
【担当講師】駒田直人 ¹⁾ 小林浩平 ²⁾ 白濱知広 ³⁾ 阿南隆一郎 ⁴⁾ 井上歩 ⁵⁾ 澤田朗 ⁶⁾
【所属・職位等】1)都城医療センター副院長 2)都城医療センター診療看護師
3)都城医療センター呼吸器内科医師 4)都城医療センター循環器科医師
5)都城医療センター泌尿器科医師
6)宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野 教授

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第1回～ 第2回	解剖 総論	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 人体の素材としての細胞・組織 2) 構造と機能からみた人体	駒田	
第3回～ 第4回		2. 老化のしくみ 3. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機能 3) 体温の調節機能		
第5回～ 第9回	消化 器系 他	3. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 (1) 口腔・舌・歯列・唾液腺の構造と機能 (2) 咽頭・喉頭の構造と機能 (3) 食道の構造と機能 (4) 咀嚼・嚥下機能 2) 腹部消化管の構造と機能 (1) 胃・小腸・大腸の構造 (2) 胃における消化 (3) 小腸における消化 (4) 栄養素の消化と吸収 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	小林	

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第10回～ 第13回	呼吸器系	4. 呼吸のはたらき 1) 呼吸器の構造と機能 (1) 上気道 (2) 下気道と肺 (3) 胸膜・縦隔 2) 内呼吸と外呼吸 3) 呼吸運動 4) 呼吸器量 5) ガス交換とガス運搬 6) 肺の循環と血流 7) 換気障害と拡散障害 8) 血液の組成と機能	白濱	
第14回～ 第18回	循環器系	6. 血液の循環とその調節 1) 心臓の構造 2) 心臓の拍出機能 (1) 心臓の興奮とその伝播 (2) 心電図 (3) 心臓の収縮 3) 末梢循環系の構造 (1) 血管の構造 (2) 肺循環の血管 (3) 体循環の動脈 (4) 体循環の静脈 4) 血液循環の調節 (1) 血圧 (2) 血液の循環 (3) 血圧・血流量の調節 (4) 微小循環 5) リンパとリンパ管 (1) リンパ管の構造 (2) リンパの循環	阿南	
第19回～ 第20回	腎泌尿器系	7. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能 3) 体液の調節 8. 生殖機能 1) 男性生殖器の構造と機能	井上	
第21回～ 第22回		解剖学示説見学実習	澤田	宮崎大学
第23回		終了試験(45分)		

【科目関連及び進度について】

微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：解剖総論（配点：20点）

単元：消化器系他（配点：25点）

単元：呼吸器系（配点：20点）

単元：循環器系（配点：25点）

単元：腎泌尿器系（配点：10点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

【参考文献】

・からだの地図帳 講談社 ・イメージできる解剖生理学 メディカ出版

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。ナーシングチャンネルの「人体の構造と機能」視聴を含む。

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅱ（神経系 ¹⁾ 、感覚器系：耳鼻 ²⁾ 、感覚器系：眼 ³⁾ 、内分泌系 ⁴⁾ 、身体の支持と運動 ⁵⁾ 、生殖器系 ⁶⁾ ）		
【単位数・時間】2単位(45時間)	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【担当講師】吉住秀之 ¹⁾ 外山勝浩 ²⁾ 宮田真奈 ³⁾ 石井隆雄 ⁴⁾ 吉川教恵 ⁵⁾ 淵脇和男 ⁶⁾		
【所属・職位等】1) 都城医療センター病院長・都城医療センター附属看護学校学校長 2) 都城医療センター耳鼻咽喉科部長 3) 宮田眼科医師 4) 都城医療センター内科医師 5) 都城医療センター整形外科医長 6) いそいち産婦人科医院院長		

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造と機能および各機能の関連性を理解する。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能を関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第1回	神経系	1. 神経系の構造と機能 1) 神経細胞と支持細胞 2) ニューロンでの興奮の伝導 3) シナプスでの興奮の伝導	吉住	
第2回		2. 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能		
第3回		3. 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄神経の構造と機能 2) 脳神経の構造と機能		
第4回		4. 脳の高次機能 1) 脳波と睡眠 2) 記憶 3) 本能行動と情動行動 4) 内臓調節機能 5) 中枢神経系の障害		
第5回		5. 運動機能と下行伝導路		
第6回		6. 感覚機能と上行伝導路		
第7回	感覚器系 耳鼻	1. 耳の構造 1) 外耳 2) 中耳 3) 内耳 2. 聴覚 1) 中耳の役割 2) 内耳での感音機構 3) 聴力の検査 3. 平衡感覚 1) 三半規管と耳石器 2) 眼振（ニスタグムス）	外山 勝浩	
第8回		4. 外気道 1) 鼻（外鼻、鼻腔、副鼻腔） 2) 咽頭 3) 喉頭 4) 発声と構音 5. 嗅覚と味覚 1) 嗅覚器（鼻）の構造と機能 2) 味覚器（舌）の構造と機能		
第9回	感覚器系 眼	1. 眼球の構造 2. 眼球附属器 1) 眼筋 2) 眼瞼および結膜 3) 涙器	宮田	
第10回		3. 視覚 1) 調節と屈折 2) 視細胞と視物質 3) 網膜での情報処理 4) 色覚 5) 暗順応と明順応 6) 視力と視野 7) 瞳孔と対光反射		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第 11 回	内分泌系	1. 自律神経による調節 1) 自律神経の構造と機能 2. 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン 2) ホルモンの化学構造と作用機序	石井	
第 12 回		3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部－下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺 6) その他の内分泌腺		
第 13 回		4. ホルモン分泌の調節 1) 神経性調節 2) 物質の血中濃度による自己調節 3) 促進・抑制ホルモンによる調節 4) 負のフィードバック 5) 正のフィードバック		
第 14 回		5. ホルモンによる調節の実際 1) ホルモンによる糖代謝の調節 2) ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3) ストレスとホルモン 4) 乳房の発達と乳汁分泌 5) 高血圧をきたすホルモン		
第 15 回	身体の支持と運動	1. 骨格とは 1) 人体の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 骨の組織と組成 4) 骨の発生と成長 5) 骨の生理的な機能	吉川	
第 16 回		2. 骨の連結 1) 関節 (1) 関節の一般構造 (2) 関節の正常と可動性 (3) 関節運動の障害 2) 不動性の連結		
第 17 回		3. 骨格筋 1) 骨格筋の構造 2) 骨格筋の作用 3) 骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 1) 脊柱 2) 胸郭 3) 背部の筋 4) 胸部の筋 5) 腹部の筋		
第 18 回		5. 上肢の骨格と筋 1) 上肢帯の骨格 2) 自由上肢の骨格 3) 上肢帯の筋群 4) 上肢の筋群 5) 前腕の筋群 6) 手の筋群 7) 上肢の運動		
第 19 回		6. 下肢の骨格と筋 1) 下肢帯と骨盤 2) 自由下肢の骨格 3) 下肢帯の筋群 4) 大腿の筋群 5) 下腿の筋群 6) 足の筋 7) 下肢の運動		
第 20 回		7. 頭頸部の骨格と筋 1) 神経頭蓋 2) 内臓頭蓋 3) 頭部の筋 4) 頸部の筋 8. 筋肉の収縮 1) 骨格筋の収縮機構 2) 骨格筋収縮の種類と特性 3) 不随意筋の収縮の特徴		
第 21 回	生殖系	1. 女性生殖器の構造と機能 1) 卵巣 2) 卵管・子宮・膣 3) 外陰部・会陰部 4) 乳腺 5) 女性の生殖機能	淵脇	
第 22 回		2. 受精と胎児の発生 1) 生殖細胞と受精 2) 初期発生と着床 3) 胎児と胎盤 (1) 胎盤と臍帯 (2) 生殖器の分化と発達 (3) 妊娠中の母体の変化 (4) 分娩 (5) 胎児の血液循環		
第 23 回		終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

微生物学や生化学の知識を基に本科目につなげ、さらに看護技術の学習進度を踏まえて授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：神経系（配点：30 点）

単元：感覚器系（耳鼻）（配点：10 点）

単元：感覚器系（眼）（配点：10 点）

単元：内分泌系（配点：15 点）

単元：身体の支持と運動（配点：25 点）

単元：生殖器系（配点：10 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート（サイオ出版）

ナーシング・サプリ イメージできる解剖生理学（メディカ出版）

からだの地図帳 講談社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。ナーシングチャンネルの視聴を含む。

専門基礎分野

【科目】生化学	【単位数・時間】1 単位 (30 時間)
【担当講師】高橋 利幸	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】都城工業高等専門学校物質工学科	教授

【授業における到達目標】

生体物質の基礎的知識とその物質代謝について理解する。

【授業の概要】

生命の維持のために必要な人体の細胞レベルでの物質代謝の基礎的な知識を学ぶ。また、本科目での学習内容を栄養学や各病態学における学習につなげる。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（解剖生理学、栄養学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第 1 回	生体の分子化学	
第 2 回	代謝の基礎と酵素	
第 3 回	代謝の基礎とビタミン・ミネラル	
第 4 回	糖質とその代謝	
第 5 回	脂質とその代謝	
第 6 回	タンパク質とその代謝	
第 7 回	核酸・ヌクレオチド・遺伝	
第 8 回	ホメオスタシスを維持するための情報伝達	
第 9 回	水・電解質のホメオスタシスの維持	
第 10 回	生体防御	
第 11 回	疾患の生化学	
第 12 回	消化・吸収と栄養価	
第 13 回	血液	
第 14 回	尿	
第 15 回	免疫系・運動系・消化器系	
	終了試験 (45 分)	

【科目関連及び進度について】

生化学の知識から病理学、栄養学・薬理学につながる科目である。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 80%、課題レポート 20%

【テキスト】

わかりやすい生化学（別冊ノート付）（ヌーベルヒロカワ）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎科目

【科目】栄養学	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】林 有里	
【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】都城医療センター栄養管理室長	

【授業における到達目標】

人体に必要な栄養素とその働きおよび健康状態に応じた栄養摂取の方法を学ぶ。

【授業の概要】

解剖生理学及び生化学で学習した知識をもとに、人間が発育・成長し、健全な生活を営むために必要な栄養の基礎を学ぶ。また、健康障害により栄養管理を必要とする人に対する臨床栄養や管理、栄養サポートチームについても学習する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（看護技術Ⅲ：食事）を想起しながら、栄養管理を必要とする人の看護へと発展していく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	1. 栄養学と看護 1) 栄養とは 2) 栄養素と人間の栄養状態 3) 保健医療における栄養学 4) 看護と栄養	週1回の間隔
第2回	2. 栄養素の種類と働き 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1) 食物の消化 2) 栄養素の吸収 3) 血漿成分と栄養素 4) 栄養素の代謝 5) 吸収・代謝産物の排泄	
第3回	4. エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー 2) 体内のエネルギー 3) エネルギー代謝の測定 4) エネルギー消費	
第4回	5. 食事と食品 6. ライフステージと栄養	
第5回	7. 臨床栄養 1) 病院食 2) 経腸栄養製品 3) 疾患・症状別食事療法 (1) 糖尿病患者の食事療法 (2) 腎臓病患者の食事療法 (3) 摂食・嚥下障害患者の食事療法	
第6回	7. 臨床栄養 1) 場面別の栄養管理 (1) 術前・術後の栄養管理 ①胃切除後②人工肛門造設後（大腸切除後） (2) がんの食事療法	
第7回	8. 健康づくりと食生活 9. 栄養サポートチーム（NST） 1) NSTの機能と役割 2) NSTにおける看護師の役割	
	終了試験(45分)	

【科目関連及び進度について】

前期に看護技術Ⅲ（食事）に食事の目的、食事援助について学習する。
生化学の開講後に開始。

【試験・課題等の内容】

授業で学習した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕栄養学 医学書院
糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版 日本糖尿病協会・文光堂

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる生化学・栄養学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】看護生理学	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】一柳 明日香	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師7年	

【授業における到達目標】

日常生活行動を実践し、身体の形態と仕組みについて自らの身体の変化をとおして理解する。

【授業の概要】

「動く」「話す・聞く」「食べる」では実際に行動し、身体の形態と仕組みについて自らの身体をとおし理解する。「トイレに行く」「お風呂に入る」「息をする」「眠る」では、日常生活行動を想起し身体の形態と仕組みについて自らの身体をとおし理解する。これらの理解をとおし、「恒常性維持」の仕組みを理解する。

【アクティブ・ラーニング】

身体の形態と仕組みについて、行動し調べ解明する。

【授業計画】

回数	内容	備考
1	「動く」 姿勢の保持、歩く、走るにおける神経・筋肉・骨格の動きと神経からの指令	解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
2	「食べる」 空腹、満腹感、渇きのメカニズム 食行動と消化吸収	解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動、消化器)が終了後
3	生命維持としての「食べる」一恒常性維持	
4	「トイレに行く」 尿意・便意のメカニズム・排泄行動のメカニズム	解剖生理学Ⅰ(腎泌尿器系)・Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
5	「トイレに行く」一恒常性維持	
6	「話す・聞く」 言葉の獲得、運動としての話す 「聞く」「話す」の脳の働き	解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
7	「眠る」 なぜ眠くなるのか 睡眠と覚醒のリズム生命維持としての	解剖生理学Ⅱ(神経系、感覚器系、身体の支持と運動)が終了後
8	「息をする」 安静時、運動時、睡眠時の呼吸のメカニズム	解剖生理学Ⅰ(呼吸器系)Ⅱ(神経系、身体の支持と運動)が終了後
9	生命維持としての「息をする」一恒常性維持	
10	「お風呂に入る」 入浴による皮膚の変化、温度の変化 入浴行動のメカニズム	解剖生理学Ⅰ(呼吸器系、循環器系)解剖生理学Ⅱ(神経系、身体の支持と運動)が終了後
11	生活行動と体温調節一恒常性維持	解剖生理学Ⅱ(神経系、身体の支持と運動、呼吸器系、循環器系)が終了後
12	生活行動と体液の流通と調節一恒常性維持	解剖生理学Ⅱ(神経系、内分泌)が終了後
13	生活行動と神経調節一恒常性維持	解剖生理学Ⅱ(神経系)が終了後
14	活動によるバイタルサインの変動のメカニズム	解剖生理学Ⅱ(神経系、呼吸器系、循環器系)が終了後
15	終講試験(45分)/まとめ	

【科目関連及び進度について】

解剖生理学の進度と関連しながら進める。
看護技術は本科目を基盤として教授する。

【試験・課題等の内容】

終了試験
課題レポート

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院

【参考文献】

看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社
形態機能学ワークブック 日本看護協会出版会

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門基礎分野

【科目】微生物学	【単位数・時間】1単位・30時間	
【担当講師】後藤義孝	【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】国立大学法人 宮崎大学 農学部獣医学科 名誉教授		

【授業における到達目標】

医療現場に必要な基礎知識として病原微生物はもとより、広く微生物の性状を理解し、多様化する感染症とその予防や診断、治療について学習することで質の高い看護を提供することを目指す。

【授業の概要】

看護者は、医療従事者媒介感染を起こさないための知識と技術、細心の注意と遵守が求められる。微生物が人体に影響を及ぼす影響を中心に、人体の免疫機能および感染症についての基本的な知識を教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（病理学Ⅰ、病理学Ⅴ：感染症、看護技術Ⅳ：感染防止の技術）と関連させながら学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回～ 第2回	微生物とは 1) 微生物の性質 2) 微生物と人間 3) 予防接種、ワクチン、抗毒素	
第3回	細菌の性質 1) 形態と特徴 2) 培養環境と栄養 3) 遺伝 4) 分類 5) 常在細菌叢 真菌の性質 1) 形態と特徴 2) 増殖 3) 分類 4) 栄養と培養	
第4回	原虫の性質 1) 特徴と基本構造 2) 病原原虫の種類 ウィルスの性質 1) 特徴 2) 構造と各部分の機能 3) 増殖 4) 分類	
第5回	感染と感染症 1) 微生物感染の機構 2) 感染の成立から発症・治癒まで 3) 細菌感染の機構 4) 真菌感染の機構 5) 原虫感染の機構 6) ウイルス感染の機構	
第6回	感染源・感染経路からみた感染症 1) 経口感染 2) 経気道感染 3) 接触感染 4) 経皮感染 5) 母児感染	
第7回	感染に対する生体防御機構	

回数	内容（方法）	備考
	1) 自然免疫のしくみ 2) 獲得免疫のしくみ 3) 粘膜免疫のしくみ 4) 感染の徴候と症状	
第 8 回	滅菌と消毒 1) バイオハザードとバイオセーフティー 2) 滅菌・消毒の意義と定義 3) 滅菌法 4) 濾過除菌 5) 消毒と消毒薬	
第 9 回	感染症の検査と診断 1) 病原体を検出する方法 2) 生体の反応から診断する方法	
第 10 回	感染症の治療 1) 化学療法の基礎 2) 各種化学療法薬	
第 11 回	病原細菌と細菌感染症 1 1) グラム陽性球菌 2) グラム陰性球菌 3) グラム陰性好気性桿菌 4) グラム陰性通性桿菌 5) カンピロバクター属	
第 12 回	病原細菌と細菌感染症 2 6) グラム陽性桿菌 7) 抗酸菌と放線菌 8) 嫌気性菌 9) スピロヘータ 10) マイコプラズマ 11) リケッチア目 12) クラミジア科	
第 13 回	病原真菌と真菌感染症 1) 深在性真菌症をおこす真菌 2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌 3) 表在性真菌症をおこす真菌 病原原虫と原虫感染症 1) 根足虫類 2) 鞭毛虫類 3) 孢子虫類 4) 纖毛虫類	
第 14 回	病原ウイルスとウイルス感染症 1 1) RNA ウィルス	
第 15 回	病原ウイルスとウイルス感染症 2 2) DNA ウィルス 3) ウィルスの臨床的分類	
	終了試験(45 分)	

【科目関連及び進度について】

看護技術Ⅲ 感染防止の技術につながるよう先行して開講する。

【試験・課題等の内容】

講義で学習した内容から、試験を出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】治療法総論（手術療法 ¹⁾ 、臓器移植 ²⁾ 、リハビリテーション療法 ³⁾ 、放射線療法 ⁴⁾ 、ME 機器を用いた治療）
【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【担当講師】横山 幸三 ¹⁾ 、中川 かな子 ²⁾ 、中里 あゆみ ³⁾ 、若山 晃輔 ⁴⁾ 、日野 祐一 ⁵⁾ 、作元 辰也 ⁶⁾
【開講時期】第 2 学期
【配当年次】1 年
【所属・職位等】
1) 株式会社キュア薬品 2) 公益財団法人宮崎県移植推進財団 臓器移植コーディネーター
3) 都城医療センター作業療法士 4) 都城医療センター理学療法士
5) 都城医療センター画像診断センター長 6) 都城医療センター臨床工学士

【授業における到達目標】

＜手術療法＞

健康障害に対して行われる手術療法及び麻酔法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

＜リハビリテーション療法＞

健康障害に対して行われるリハビリテーション療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

＜放射線療法＞

健康障害に対して行われる放射線療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

＜ME 機器を用いた治療＞

ME 機器の原理や取り扱い、管理の知識を習得する。

【授業の概要】

＜手術療法＞

手術療法では、手術侵襲が生体に及ぼす影響を教授する。

術前・術中・術後管理について呼吸管理、輸液・輸血管理、栄養管理を含めた内容で教授する。

＜リハビリテーション療法＞

リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、基礎看護学の看護技術Ⅰ（活動・体位・休息）と関連させながら教授する。

＜放射線療法＞

放射線療法の基本的な考え方や治療について教授する。

＜ME 機器を用いた治療＞

臨床現場で使用頻度の高い ME 機器を取り上げ、目的や原理や安全対策について教授する。

実際に ME 機器に触れながら、取り扱いや管理について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

＜手術療法＞

解剖生理学や臨床看護総論（急性期の看護）想起しながら、臨床看護総論（治療を受ける患者の看護）および成人看護方法論Ⅱ（急性期の看護）へとつなげていく。

＜リハビリテーション療法＞

肺理学療法、介助方法や松葉杖の使用については、実践やグループ活動を通して学ぶ。

＜放射線療法＞

関連する科目（臨床看護総論：治療を受ける患者の看護）へとつなげていく。

＜ME 機器を用いた治療＞

臨床現場で使用頻度の高い ME 機器を取り上げ、医療安全と関連させながら、自ら発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
1	手術療法	外科的治療とは 手術侵襲と生体の反応 手術侵襲と麻酔の役割	横山	
2		麻酔法 術前管理・術中管理・術後管理		
3		全身麻酔・局所麻酔		
4		呼吸管理 体液管理		
5		栄養管理 輸血療法		
6	臓器移植	移植の分類、移植免疫と拒絶反応、臓器保存と再灌流障害 移植の臨床 臓器移植を受ける患者、家族の思い 臓器移植に対する提供者、家族の思い 脳死判定基準の改定に伴う最近の動向	中川	
7	リハビリテーション療法	リハビリテーションの概念 回復過程とリハビリテーション	中里 若山	
8		リハビリテーションの方法 不動・低活動の予防 活動の促進に向けた援助		
9		肺理学療法 摂食嚥下訓練		3 回目は 実習室 使用
10	放射線療法	放射線とは 画像診断の役割 放射線治療の役割	日野	
11		X線診断の特徴と成り立ち CT検査の特徴と成り立ち MRI検査の特徴と成り立ち 核医学検査の特徴と成り立ち		
12		放射線治療の原理と基礎 正常組織の有害反応 放射線治療の特徴と目的 照射法 IVR		

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
1 3	ME 機器を用いた治療	ME 機器を用いた治療 1) 医療機器を安全に使用する環境	作元	
1 4		ME 機器を用いた治療 2) 測定用医療機器の原理、目的、保守点検		
1 5		ME 機器を用いる患者の管理 (演習) 1) ME 機器の仕組みと管理 (輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器 ・ 低圧持続吸引器)		
		終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

病理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・臨床看護総論、成人看護方法論Ⅱにつながる内容の科目である。

【試験・課題等の内容】

試験は、学習した内容から出題する

【評価方法】

単元：手術療法（配点：50 点）

単元：放射線療法（配点：25 点）

単元：ME 機器を用いた治療（配点：25 点）

【テキスト】

＜手術療法＞

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

＜リハビリテーション療法＞

看護学テキストシリーズ NiCE リハビリテーション看護 改訂第 3 版 南江堂

＜放射線療法＞

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

＜ME 機器を用いた治療＞

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論

【参考文献】

成人看護学 急性期看護Ⅰ 南江堂

成人看護学 急性期看護Ⅱ 南江堂

看護技術プラクティス 学研

新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

看護技術がみえる vol. 2 臨床看護技術

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

＜ME 機器を用いた治療＞

使用頻度の高い ME 機器に関する安全対策や原理を深めるための学習

【科目】病理学Ⅰ（病理学総論、腎・泌尿器系）	【単位数・時間】1単位 30時間
【担当講師】長安真由美 ¹⁾ 松下直樹 ²⁾	
【開講時期】通年	【配当年次】1年
【所属・職位等】1) 都城医療センター病理診断科医長	
2) 都城医療センター泌尿器科医師	

【授業における到達目標】

- ・人体における病的状態の原因、発生機序、経過について理解する。
- ・腎・泌尿器系統の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、炎症や循環障害、腫瘍など臓器の違いをこえて共通にみられる病気の原因や病気の成り立ちについて教授する。その後、腎・泌尿器系の代表的疾患の原因・特徴・病理的变化や反応について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑を行う。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	病理学総論	1. 病理学の領域 1) 看護と病理学 2) 病気の原因	長安	
第2回		2. 細胞・組織の傷害と修復、炎症 1) 細胞の損傷と適応 2) 組織の修復と創傷治癒 3) 炎症とその分類		
第3回		3. 免疫、移植と再生医療 1) 免疫と免疫不全 2) アレルギーと自己免疫疾患		
第4回		3. 免疫、移植と再生医療 1) 自己免疫疾患		
第5回		4. 感染症 1) 感染と宿主の防御機構 2) おもな病原体と感染症 3) 感染症の治療と予防		
第6回		5. 循環障害		
第7回		6. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害 3) 糖尿病 4) その他の代謝障害		
第8回		7. 老化と死 1) 個体の老化と老年症候群 2) 加齢に伴う諸臓器の変化 3) 個体の死と終末期医療		
第9回		8. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常 2) 遺伝子の異常と疾患 3) 先天異常・遺伝子異常の診断と治療		
第10回		9. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の広がりや影響		

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
		3) 腫瘍の発生病理 4) 腫瘍の診断と治療 5) 腫瘍の統計		
第 11 回		10. 生活習慣と環境因子による生体の障害 11. まとめ		
第 12 回	腎・泌尿器系	1. 慢性腎臓病・腎不全 1) 症状 2) 腎機能検査・尿検査 3) 薬物療法・食事療法・生活指導・透析療法・腎移植	松下	第 3 回 終了後 から開 講する
第 13 回		2. 腎炎・膀胱炎 1) 症状 2) 血液検査・腎生検・尿検査 3) 安静療法・食事療法・薬物療法		
第 14 回		3. 腎・尿路結石 1) 症状 2) 画像検査 3) ESWL・TUR・PNLなど		
第 15 回		4. 腎がん・尿管がん・膀胱がん 1) 症状 2) 膀胱鏡検査・排泄性腎盂造影・超音波検査・尿細胞診・ 経尿道的生検 3) 回腸導管造設術・放射線療法など		
		終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰ 第 1.2 回の終了後に、本科目第 1 回を開講する。

解剖生理学Ⅰ 第 19.20 回「体液の調節と尿の生成」終了後に、本科目第 12 回～15 回を開講する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：病理学総論（配点：70 点）

単元：腎・泌尿器系（配点：30 点）

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サブリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴も併用し、授業前後に 1 時間程度の学習を要する。

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅱ（呼吸器系 ¹⁾ 、循環器系 ²⁾ ）	【単位数・時間】1 単位 (30 時間)
【担当講師】今津善史 ¹⁾ 阿南隆一郎 ²⁾	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】1)都城医療センター呼吸器内科医長 2)都城医療センター循環器内科医師	

【授業における到達目標】

呼吸器系および循環器系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

本授業では、解剖生理学の知識をふまえ、呼吸器系・循環器系の代表的な疾患の原因・特徴・病理的变化や反応について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第 1 回	呼吸器系	1. 呼吸器感染症 1) 肺炎 (1) 症状と病態生理、分類、種類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：薬物療法、予防接種 2) インフルエンザ (1) 症状と病態生理、感染経路 (2) 主な検査：咽頭ぬぐい液・鼻腔ぬぐい液検査 (3) 主な治療法：薬物療法、予防接種	今津	週に 1 回のペースで講義を計画する。
第 2 回		2. 気道疾患 1) 気管支喘息 (1) 症状と病態生理、発作の種類 (2) 主な検査：呼吸機能検査、血液検査 (3) 主な治療法：薬物療法、吸入 2) 気管支拡張症 (1) 症状と病態生理 (2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT (3) 主な治療法：薬物療法、吸入療法、酸素療法、禁煙		
第 3 回		3. 慢性閉塞性肺疾患 1) 症状と病態生理 2) 主な検査：胸部 CT、呼吸機能検査 3) 主な治療：禁煙、薬物療法、呼吸リハ、在宅酸素療法		
第 4 回		4. 肺腫瘍 1) 肺癌 (1) 症状と病態生理、分類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：外科療法、放射線療法、化学療法		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第 5 回		5. 間質性肺炎 1) 主な症状と病態生理 2) 主な検査：胸部 CT、呼吸機能検査 3) 主な治療法：化学療法		
第 6 回		6. 肺結核 1) 症状と病態生理、感染経路、病型 2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT、喀痰検査、抗酸菌検査 3) 主な治療法：化学療法 4) 院内感染対策と予防 7. 自然気胸 1) 症状と病態生理、種類 2) 主な検査：胸部 X 線検査、胸部 CT 3) 主な治療法：外科療法		
第 7 回		8. 過換気症候群 1) 症状と病態生理 2) 主な治療法 9. 睡眠時無呼吸症候群 1) 症状と病態生理 2) 主な検査：ポリソムノグラフィー 3) 主な治療法		
第 8 回	循環器系	1. 虚血性心疾患 1) 狭心症 (1) 症状と病態生理、分類 (2) 主な検査：心電図、運動負荷心電図、心エコー (3) 主な治療法：薬物療法、 経皮的冠状動脈インターベンション	阿南	週 1 回のペースで講義を計画する。
第 9 回		1. 虚血性心疾患 2) 心筋梗塞 (1) 症状と病態生理、合併症 (2) 主な検査：心電図、心臓マーカー、心エコー、心臓カテーテル検査 (3) 主な治療法：再灌流療法 (PCI、CABG、血栓溶解療法) リハビリテーション		
第 10 回		2. 心不全 1) 症状と病態生理と分類、合併症 2) 主な検査：胸部 X 線検査、心電図、心エコー、BNP 測定 3) 主な治療法：薬物療法、補助循環装置		
第 11 回		3. 血圧異常 1) 症状と病態生理、基準と分類 2) 主な治療法：薬物療法、生活習慣への指導		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第 12 回		4. 不整脈 1) 症状と病態生理と種類 2) 主な検査：心電図、ホルター心電図 3) 主な治療法：薬物療法、ペースメーカー植え込み、 植え込み型除細動器、カテーテルアブレーション		
第 13 回		5. 弁膜症 1) 症状と病態生理と種類 2) 主な検査：胸部X線検査、心電図、心エコー 3) 主な治療法：薬物療法、手術療法		
第 14 回		6. 動脈系疾患 1) 大動脈解離 (1) 症状と病態生理と分類 (2) 主な検査：胸部X線検査、大動脈造影、CT (3) 主な治療法：薬物療法、手術療法		
第 15 回		7. 静脈系疾患 1) 深部静脈血栓症 (1) 症状と病態生理 (2) 主な検査：下肢静脈造影 (3) 主な治療法：抗凝固療法、静脈血栓摘出術 傘型フィルターによる下大静脈遮断術 2) 肺塞栓症 (1) 症状と病態生理と種類 (2) 主な検査 (3) 主な治療法：血栓溶解、抗凝固療法、血栓破砕吸引療法		
		終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度】

解剖生理学Ⅰ（呼吸器系）・（循環器系）の知識と関連させて、疾患、症状、検査、治療について学ぶ。なお、本科目における知識は、専門分野における看護で活用していく。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：呼吸器系（配点：50 点） 単元：循環器系（配点：50 点）

* 循環器系は中間試験及び終了試験の結果をもって評価する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間（900 分）

1. 呼吸器、循環器に関するナーシングチャンネル視聴
2. 病態・症状・検査・治療の理解を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅲ（消化器系 ¹⁾ 、内分泌系 ²⁾ 、生殖器系 ³⁾ ）	【単位数・時間】1 単位 (30 時間)
【担当講師】蔵元一崇 ¹⁾ 吉住秀之 ²⁾ 淵脇和男 ³⁾ 横山幸三 ⁴⁾	
【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】	
1) 都城医療センター外科医長	
2) 都城医療センター院長・都城医療センター附属看護学校学校長	
3) いそいち産婦人科医院院長	
4) 株式会社キュア薬品	

【授業における到達目標】

消化器系、生殖器系、内分泌系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	備考
第 1 回 第 2 回	消化器系	1. 食道・胃の疾患 1) 食道アカラシア、胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸潰瘍 3) 胃炎 4) 食道がん、胃がん 2. 主な検査及び治療法 1) 上部消化管内視鏡検査 2) 上部消化管造影 3. 主な治療法 1) 食道再建術 2) 内視鏡的ポリープ切除術 3) ピロリ菌除菌治療 4) 胃切除術 5) 胃全摘術	蔵元	週 1 回のペースで講義を計画する。
第 3 回 第 4 回		1. 腸・腹膜の疾患と病態生理 1) 大腸がん（結腸・直腸・直腸） 2) イレウス 3) 過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、 4) クローン病 4) 虚血性大腸炎、腹膜炎（急性・慢性）、虫垂炎 5) ヘルニア、憩室炎 2. 主な検査法 3. 主な治療法 1) 手術療法 2) 人工肛門造設術		
第 5 回		1. 肝臓の疾患 1) 肝炎（急性・慢性） 2) 肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全 3) 肝臓がん 2. 主な検査法 1) 門脈血管造影 3. 主な治療法		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
		1) 肝底護療法 2) インターフェロン療法 3) 内視鏡的硬化療法 4) 肝切除術 5) 肝移植		
第 6 回		1. 胆嚢・膵臓の疾患 1) 胆石症 2) 急性胆嚢炎・胆管炎 3) 胆管がん 4) 膵炎（急性・慢性） 5) 膵臓がん 2. 主な検査法 1) 内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERPD）、胆道造影 2) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影法 3. 主な治療法 1) 腹膜鏡下胆嚢摘出術		
第 7 回	生殖 器系	1. 性分化疾患 1) 主な疾患の病態生理 (1) 半陰陽 (2) 性染色体異常 (3) 遺伝子変異による性分化異常 2) 主な検査法 3) 主な治療 2. 臓器別疾患 1) 主な疾患の病態生理 (1) 外陰の疾患 (2) 膣の疾患 (3) 子宮の疾患 2) 主な検査法 3) 主な治療	淵脇	
第 8 回		2. 臓器別疾患 1) 主な疾患の病態生理 (4) 卵管の疾患 (5) 卵巣の疾患 (6) 骨盤内炎症性疾患 2) 主な検査法 3) 主な治療		
第 9 回		3. 機能的疾患 1) 疾患の病態生理 (1) 月経異常・月経随伴症状 (2) 更年期障害 (3) 不妊症 (4) 不育症 2) 主な検査法 3) 主な治療		
第 10 回		4. 乳腺の疾患 1) 疾患の病態生理 (1) 乳腺炎 (2) 乳腺症 (3) 線維腺腫 (4) 乳がん 2) 主な検査法 3) 主な治療	横山	
第 11 回	内分 泌系	1. 内分泌系疾患の病態生理と検査法・治療 1) 甲状腺疾患 (1) 甲状腺機能亢進 (2) 甲状腺機能低下症	吉住	週に 1 回 のペース で講義を

回数	単元	内容・方法	講師	備考
		(3) 甲状腺炎 (4) バセドウ病 2) 副甲状腺疾患 (1) 副甲状腺機能低下症 (2) 副甲状腺機能亢進症		計画する。
第 12 回		1. 内分泌系疾患の病態生理と検査法・治療 1) 副腎皮質・髄質疾患 2) 腫瘍 (1) 下垂体腫瘍 (2) 甲状腺癌		
第 13 回		2. 代謝異常の疾患の病態生理と検査法・治療 1) 糖尿病		
第 14 回		2. 代謝異常の疾患の病態生理と検査法・治療 1) 脂質異常症 2) 高尿酸血症、痛風		
第 15 回		3. 体液調節の疾患の病態生理と検査・治療 1) 水・電解質の異常 (1) 低ナトリウム血症 (2) 高カリウム血症 2) 酸塩基平衡の異常 (1) アシドーシス (2) アルカローシス		
		終了試験 (45 分)		

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：消化器系 (配点：40 点) 単元：内分泌系 (配点：35 点) 単元：生殖器系 (配点：25 点)

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器系 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学 (メディカ出版)

【授業外における学修方法及び時間】 ※15 時間 (900 分)

1. 消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患に関するナーシングチャンネル視聴
2. 消化器系疾患、女性生殖器系疾患、内分泌・代謝系疾患の病態・症状・検査・治療の理解を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅳ（脳神経¹⁾、骨・筋系²⁾、感覚器系：耳鼻³⁾、感覚器系：眼⁴⁾、感覚器系：歯⁵⁾ 6)、
感覚器系：皮膚⁷⁾） 【単位数・時間】2単位(45時間)

【担当講師】1)杉山崇史、2)吉川教恵 3)外山勝浩 4)宮田真奈 5)田畑雅士 6)新屋俊明
7)中山文子

【開講時期】第1学期

【配当年次】2年

【所属・職位等】

- 1)宮崎大学医学部附属病院 脳神経内科助教 2)都城医療センター整形外科医長
3)都城医療センター耳鼻科部長 4)宮田眼科医師 5)都城医療センター歯科・口腔外科部長
6)都城医療センター歯科・口腔外科医長 7)都城医療センター皮膚科医師

【授業における到達目標】

1. 脳・神経系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
2. 骨・筋系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
3. 皮膚の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
4. 眼の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
5. 耳鼻の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
6. 歯、口腔の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
脳神経系			
1 回目	主な症状・徴候と病態生理 1) 意識障害 2) 高次機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 自律性のある機能障害 6) 頭痛 7) めまい	杉山	
2 回目	脳血管障害（脳梗塞、脳出血） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
3 回目	筋疾患及び神経感染症疾患 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
4 回目	中枢神経脱髄性疾患（多発性硬化症など） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
5 回目	末梢神経障害（ギランバレー症候群など） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
6 回目	神経変性疾患Ⅰ（パーキンソン病と関連疾患など） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
7 回目	神経変性疾患Ⅱ（脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
骨・筋系			
8 回目	主な症状と病態生理 1) 疼痛 2) 形態異常 3) 関節運動異常 4) 神経障害 5) 異常歩行 6) 筋肉の障害	吉川	

回数	内容（方法）	講師	備考
9 回目	1. 骨折（大腿骨近位部骨折・上腕骨顆上骨折・腰椎圧迫骨折） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 脱臼 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	吉川	
10 回目	1. 脊髄損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 末梢神経損傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
11 回目	1. 自己免疫疾患（関節リウマチ） 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 変形性関節症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
12 回目	1. 椎間板ヘルニア 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 腰部脊柱管狭窄症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 骨粗鬆症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
13 回目	1. 骨肉腫 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
	終了試験 (45 分)		
感覚系：耳鼻咽喉			
14 回目	主な症状と病態生理 1) 聴覚障害 2) 平衡感覚障害 3) 味覚・臭覚障害 4) 嚥下障害	外山	
15 回目	1. 中耳炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. メニエール病 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 副鼻腔炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
16 回目	1. 舌がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 咽頭がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 咽頭炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 4. 扁桃炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
感覚器系：眼			
17 回目	1. 白内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 緑内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	宮田	
18 回目	1. 網膜剥離 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 網膜症 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		

回数	内容（方法）	講師	備考
感覚器系：歯・口腔			
19 回目	1. 齲蝕 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 辺縁性歯周炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	田畑	
20 回目	1. 口腔がん 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	新屋	
感覚器系：皮膚			
21 回目	1. アトピー性皮膚炎 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 熱傷 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療	中山	
22 回目	1. 白癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 2. 帯状疱疹 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療 3. 疥癬 1) 病態生理 2) 症状 3) 検査 4) 治療		
23 回目	終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した骨格、筋、脳神経、感覚器の解剖と生理を関連づけて学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する。終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記による終了試験 100%

①脳神経系、骨・筋系：100 点（脳神経系：50 点 骨・筋系：50 点）

②感覚器系：100 点（耳鼻 25 点 眼 25 点 歯 25 点 皮膚 25 点）

① 100 点と② 100 点の合計 200 点を 100 点換算する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳・神経 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯・口腔 医学書院

【参考文献】

病気がみえる 脳神経 メディックメディア

病気がみえる 運動器 メディックメディア

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復促進 病理学

系統看護学講座 人体の構造と機能 解剖生理学

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系

2. 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】	病理学Ⅴ（感染症 ¹⁾ 、血液・リンパ ²⁾ 、アレルギー ³⁾ 、膠原病 ⁴⁾ ）
【単位数・時間】	1 単位(30 時間)
【担当講師】	1)駒田直人 2)石井隆雄 3)中山文子 4)濱田浩朗
【開講時期】	通年 【配当年次】 2 年
【所属・職位等】	1)都城医療センター副院長 2)都城医療センター内科医師 3)都城医療センター皮膚科医師 4)都城医療センター整形外科医長

【授業における到達目標】

主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、感染症の病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学Ⅰ、病理学Ⅱ、病理学Ⅲ、薬理学）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
感染症			
1 回目	1. 症状と病態生理 1) 感染症とは 2) 感染の成立と免疫 3) 感染症の病態生理 4) おこりやすい症状	駒田	
2 回目	2. 主な検査法 1) 塗抹・培養検査 2) 抗原検査 3) 抗体検査 4) HIV 検査 5) 毒素の検査 6) 原虫・寄生虫検査		
3 回目	3. 主な治療法 1) 抗菌薬 2) 抗真菌薬 3) 抗ウイルス薬 4) 一次予防・二次予防 5) 予防接種		
4 回目	4. 主な疾患 1) 性感染症 2) HIV/AIDS 感染症 3) 悪性腫瘍・幹細胞移植・固形臓器移植に伴う感染症 4) 新興・再興感染症		
血液・リンパ系			
5 回目	1. 病態及び症状 2. 主な検査 1) 骨髄穿刺 2) 骨髄生検	石井	
6 回目	3. 主な疾患 1) 貧血 2) 白血球減少症 3) 白血病 4) 悪性リンパ腫 5) 成人T細胞白血病 6) 多発性骨髄腫		

回数	内容（方法）	講師	備考
	7) 免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) 8) 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 9) 血友病 10) 播種性血管内凝固 (DIC)		
7 回目	4. 主な治療 1) 化学療法 2) 輸血 3) 造血幹細胞移植 4) 文化誘導療法 5) 分子標的療法 6) 遺伝子治療		
アレルギー			
8 回目	1. 病態及び症状 1) 免疫反応と疾患 2) アレルギーに関与する免疫担当細胞と化学物質 3) アレルギーのしくみ (分類) Ⅰ型アレルギー Ⅱ型アレルギー Ⅲ型アレルギー Ⅳ型アレルギー	中山	
9 回目	2. 主な検査 1) 血液検査 2) 皮膚テスト		
10 回目	3. 主な治療 1) 薬物療法		
11 回目	4. 主な疾患 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) 接触性皮膚炎 4) アナフィラキシーショック		
膠原病			
12 回目	1. 病態生理と症状 1) 膠原病とは 2) 自己免疫疾患とその機序 3) 関節痛・関節炎 4) レイノー現象 5) 皮膚・粘膜症状 6) タンパク尿 7) 筋力低下 8) 血管炎に伴う症状	濱田	
13 回目	2. 主な検査 1) 一般検査 2) 血清・免疫学的検査		
14 回目	4. 主な治療 1) 一般療法 2) 薬物療法		
15 回目	3. 主な疾患 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス 3) 抗リン脂質抗体症候群 4) シェーグレン症候群 5) 全身性強皮症 6) 多発性筋炎 7) ベーチェット病		
	終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した血液・リンパ系の解剖と生理、病理学の免疫機能、感染防御機能を関連づけて学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する。終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

単元：感染症（配点：25 点）

単元：血液・リンパ系（配点：25 点）

単元：アレルギー（配点：25 点）

単元：膠原病（配点：25 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

各病態学に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】薬理学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】日高 彰紀保	【開講時期】第1学期
【配当年次】2年	【所属・役職等】都城医療センター薬剤師

【授業における到達目標】

薬物の特性と薬物療法の概要を理解し、主な治療薬・麻酔薬の薬理作用を理解する。

【授業の概要】

薬物および薬物療法全体に共通する内容について学ぶ。薬理作用、薬物動態、薬物使用の有益性と危険性については、解剖生理学と関連付けながら学ぶ。更に、解剖生理学や生化学、病理学を基盤とし、系統別治療薬について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（解剖学、薬理学、看護技術（与薬）などを想起しながら、学ぶ。また、事前学習や復習を多内、授業では自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	薬物の特性 ・薬が作用するしくみ（用量と作用の関係、標的分子） ・副作用（有害事象） ・与薬方法 ・薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄） ・治療において重要となる薬物動態の指標（分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態と薬物動態の指標、薬物血中濃度モニタリング）		
第2回	抗感染症薬 1) 抗菌薬 2) 抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 3) 感染症の治療における問題点 4) 薬剤耐性		病理学Ⅴ（感染症）の学習進度を考慮して計画する。
第3回	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬の種類 3) 分子標的薬		
第4回	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 2) 予防接種薬 3) 免疫増強薬		
第5回	抗アレルギー薬・抗炎症薬 1) 抗アレルギー薬 2) 消炎鎮痛薬		病理学Ⅴ（アレルギー）の学習進度を考慮して計画する。
第6回	末梢神経に作用する薬 1) 交感神経作用薬 2) 副交感神経作用薬 3) 筋弛緩薬・局所麻酔薬		
第7回	中枢神経に作用する薬 1) 全身麻酔薬 2) 麻薬性鎮痛薬		

回数	内容（方法）	講師	備考
第 8 回	中枢神経に作用する薬 1) 気分安定薬・抗うつ薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) パーキンソン症候群治療薬 4) 抗てんかん薬 5) 抗精神病薬		精神看護方法論 I（疾患・治療・検査）の学習進度を考慮して計画する。
第 9 回	循環器系に作用する薬 1) 強心薬、抗不整脈 2) 狭心症治療薬 3) 抗血栓薬		
第 10 回	循環器系・腎臓に作用する薬 1) 降圧薬、昇圧薬 2) 利尿薬 3) 電解質平衡治療薬 4) 神経因性膀胱と治療薬 5) 前立腺肥大症と治療薬		
第 11 回	呼吸器系に作用する薬 1) 気管支ぜんそく治療薬 (副腎皮質ステロイド薬、気管支拡張薬、抗アレルギー薬)		
第 12 回	消化器系に作用する薬 1) 消化性潰瘍治療薬 2) 下剤、止痢薬		
第 13 回	物質代謝系に作用する薬 1) ホルモンとホルモン拮抗薬（糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン製剤、骨粗鬆症治療薬） 2) 治療薬としてのビタミン		
第 14 回	漢方薬 漢方医学の基礎知識、生薬・方剤と漢方薬の剤型、主な漢方薬 漢方薬の有害作用、漢方薬の有効性に関するエビデンス		
第 15 回	薬物管理 ・ 禁忌 ・ 保存、管理方法 ・ 薬理効果に影響する要因 薬と法律 ・ 医薬品に関する法律 (劇薬・毒薬、麻薬・向精神薬、覚醒剤)		
	終了試験(45 分)		

【科目関連及び進度について】

- ・ 病理学との関連が深い科目であることから、病理学の学習進度を踏まえ授業計画を立案する。

【試験・課題等の内容】

- ・ 学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

- ・ 終了試験 100%

【テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】吉住 秀之	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】都城医療センター院長・都城医療センター附属看護学校学校長	

【授業における到達目標】

医学・医療の歴史的変遷について理解し、これからの時代における望ましい医療の在り方について学ぶ。また、国立病院機構及び母体病院での医療の特徴を理解する。

【授業の概要】

医学や医療の現状と課題について学ぶことから、看護の学習へ発展させる。また、国立病院機能の役割と機能を理解し、さらに当院における医療の特徴と地域で担う役割について学ぶことで、地域のニーズに応じた医療について深めていく。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	1. 医学・医療の歴史 1) 医学・医療の歴史 2) 医学の進歩と発展 2. 人の生活を支える医療 1) ライフステージからみる病 2) 家族形態の変化と医療 3) 女性・男性の性別役割と疾病との関係	
第2回	3. 健康と疾病 1) 健康の概念 2) 疾病の概念 3) 生活と健康	
第3回	4. 医学と医療 1) 医学と医療の違い 2) 医療における医師の義務と看護師の役割 3) 多職種連携 4) 医療機関の連携	
第4回	5. グローバル化と健康への影響 1) グローバル化と感染症 2) 日本国内に住む外国人の健康問題 3) 日本の医療の国際展開	
第5回	6. 国が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 診療事業 (1) 5 疾病 がん・精神・脳卒中、糖尿病・急性心筋梗塞	
第6回	7. 国が担う医療 1) 診療事業 (1) 5 事業 救急医療・災害医療・周産期医療・小児医療・小児救急・へき地医療 (2) セーフティネット分野の医療	
第7回	8. 国が担う医療 1) 臨床研究事業 2) 都城医療センターの医療 (1) 都城医療センターの特徴 (2) 都城医療センターが地域で担う役割	
第8回	終了試験(45分)	

【科目関連及び進度について】

医療の現状と課題について学ぶことから、保健医療全般についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、看護学概論の学習進度が進んだ段階で計画する。

【試験・課題等の内容】

課題は適宜提示する。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 ぎぎカルイト社

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅱ	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】吉住 秀之	
【開講時期】第2学期	【配当年次】2年
【所属・職位等】都城医療センター院長・都城医療センター附属看護学校学校長	

【授業における到達目標】

1. 生命に対する価値観や倫理観を養う。
2. 我が国の医療供給体制、および医療をめぐる諸問題をとらえ、生命に対する価値や倫理について理解できる。

【授業の概要】

保健医療論Ⅰに基づいて、生命に対する価値や倫理について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	医療保険制度、提供体制	
第2回	医療倫理	
第3回	患者の権利、説明と同意	
第4回	臨床医学研究と医療倫理	
第5回	告知・終末期医療	
第6回	先端医療と医療倫理	
第7回	医療安全と医療倫理	
第8回	終了試験（45分）	

【科目関連及び進度について】

看護学概論、社会学が終了した後に開講する。また、看護研究や各看護学の学習へつなげられるように進度を計画する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 めがカルピット社

【授業外における学修方法及び時間】

保健医療に関する講義内容を深めるための学習

【科目】社会福祉	【単位数・時間】2 単位 (45 時間)
【担当講師】安藤 実和子	
【開講時期】通年	【配当年次】1 年
【所属・職位等】社会福祉士	

【授業における到達目標】

現代の医療・福祉を取り巻く諸問題・環境について把握し、社会福祉制度や社会福祉サービスについての現状と課題について学習する。また、医療従事者として必要な社会福祉の仕組みや知識等を理解し、制度や多職種・機関等との連携・協働についても知ることができる。

【授業の概要】

1. 生活と社会福祉
2. 社会保障制度と社会福祉
3. 社会保険制度
4. 社会福祉の歴史と動向
5. 社会福祉の諸制度と施策
6. 社会福祉行政のしくみと民間活動

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義に関する事前課題提示
- ・グループワーク（演習を含む）
- ・校外学習
- ・DVD等の視聴

【授業計画】

回数	内 容 等	
第1回	・「生活と社会福祉」	①社会福祉の意義 ②生活基盤と社会福祉
第2回	・「生活と社会福祉」	①ライフサイクル・家族観の多様化 ②社会福祉援助技術と集団の役割
第3回	・「社会保険制度と社会福祉」	①社会保障制度の目的・機能・構成 ②社会保障制度の現状と課題
第4回	・「社会保険制度」(1)	①社会保険制度の役割と変遷 ②医療保険制度の概要（健康保険）
第5回		①医療保険制度（国民健康保険・高齢者医療制度） ②わが国の医療提供体制としくみ
第6回	・「社会保険制度」(2)	①介護保険制度の創設 ②介護保険制度の概要
第7回		③介護保険制度保険給付のしくみ ④介護保険財政と苦情解決のしくみ ⑤介護保険の現状と今後の課題
第8回	・「社会保険制度」(3)	①年金保険制度の概要・体系等 ②年金保険制度の現状と課題

回数	内 容 等	
第 9 回	・「社会保険制度」(4)	①雇用保険制度 ②労働者災害補償保険制度
第 10 回	・「社会福祉の歴史と動向」	①社会福祉の歴史変遷と社会福祉基礎構造改革 ②社会福祉の現状と今後の課題への取り組み
第 11 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(1)	①生活保護制度に関する法と施策 ②生活保護制度の概要と実施
第 12 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(2)	①生活困窮者自立支援制度 ②障害者福祉の概要
第 13 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(3)	①障害者総合支援法の体系と施策 ②障害種別の施策と関係法
第 14 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(4)	①障害児福祉制度に関する法と施策 ②児童福祉制度の概要と施策
第 15 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(5)	①児童福祉制度（子育て支援・社会的養護） ② " （児童虐待・ひとり親の支援等）
第 16 回		③児童福祉の最近の制度改正と課題 ④校外学習に向けての事前学習
第 17 回	・ 校外学習	都城市社会福祉協議会での校外学習 ①社会福祉協議会の役割
第 18 回		②地域福祉について ③地域における医療との連携
第 19 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(6)	①高齢者福祉に関する法と施策 ②高齢者福祉実施体制のしくみ
第 20 回	・「社会福祉の諸制度と施策」(7)	①高齢者福祉の施策と関係法 ②老人福祉の現状と課題
第 21 回	・「福祉行政のしくみと民間活動」	①社会福祉の実施体制と財政 ②社会福祉の関わる機関と専門職・民間活動
第 22 回	・ 科目のまとめ、振り返り	
第 23 回	終了試験 (45 分)	

【科目関連及び進度について】

「保健医療論Ⅰ」にて、医学・医療の歩みや医療の提供について学習した内容と連動させながら、「人」の生活と社会福祉を関連させ学習を進める。

【試験・課題等の内容】

・ 社会福祉全般に関するもの（講義にて使用するプリント）・国家試験等を参考にした問題

【評価方法】

- ・ 科目終了時客観試験 70%
- ・ レポート 20% (校外学習のレポート 10%、SDGs への取り組みに関するレポート 10%)
- ・ 講義への取り組み姿勢に対する評価 10%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 メヂカルフレンド社

【参考文献】

- ・ 国民の福祉と介護の動向
- ・ 福祉系雑誌、新聞等の時事問題に関する記事

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 校外学習（社会福祉協議会へ）についての事前学習

専門基礎分野

【科目】公衆衛生学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】峯田 孝子	【開講時期】第1学期
【所属・職位等】元 行政保健師	【配当年次】2年

【授業における到達目標】

疾病予防に関する概念を理解し、人が健康な生活を送るための公衆衛生学的アプローチを学ぶ。

【授業の概要】

授業計画のとおり

【アクティブ・ラーニング】

教室内でのグループ・ディスカッション

【授業計画】

回数	内 容 (方 法)	講師
第1回	公衆衛生のエッセンス ヘルス（衛生・健康）とはなにか グループワーク	峯田
第2回	公衆衛生の活動対象	峯田
第3回	公衆衛生のしくみ	峯田
第4回	集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計	峯田
第5回	環境と健康	峯田
第6回	感染症とその予防対策、国際保健	峯田
第7回	公衆衛生看護とは、母子保健	峯田
第8回	成人保健、歯科保健	峯田
第9回	高齢者保健	峯田
第10回	精神保健、障害者保健、難病保健	峯田
第11回	学校と健康	峯田
第12回	職場と健康	峯田
第13回	健康危機管理・災害保健	峯田
第14回	保健所見学（都城保健所）	都城保健所 担当者
第15回	保健所見学（都城保健所）	都城保健所 担当者
	終了試験(45分)	

【科目関連及び進度について】

公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策、生活者の健康増進について学ぶことから、1年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論、2年次の関係法規と関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

講義でふれた内容（制度やしきみ、法律や統計など）

【評価方法】

終講時客観試験 100 点

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2 医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習・復習について1時間程度の自己学習に取り組む。

専門基礎分野

【科目】関係法規	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】八重尾 龍	
【開講時期】第1学期	【配当年次】2年
【所属・役職等】八重尾法律事務所 弁護士	

【授業における到達目標】

・看護師としての役割を遂行するためには看護関係法令の理解が必要であり、法律を理解したうえで看護実践ができる。質の高い看護を提供するため、医療の現場で必要とされる医療に関する法律や関係職種に関する法律を理解する。

【授業の概要】

法の概念と看護職種に関する法律等、具体的事例を示しながら法律の理解を促す。

【アクティブ・ラーニング】

・授業においては関連する科目（社会学、社会福祉、看護学概論）などを想起しながら理解する。また、事前学習や復習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
第1回	法の概念 日本国憲法の成立 基本的人権	
第2回	保健師助産師看護師法	
第3回	保健師助産師看護師法	
第4回	看護師等の人材確保の促進に関する法律	
第5回	医事法	
第6回	医事法	
第7回	保健衛生法	
第8回	保健衛生法	
第9回	薬務法	
第10回	社会保険法	
第11回	福祉法	
第12回	福祉法	

回数	内容（方法）	備考
第 13 回	労働法	
第 14 回	環境法	
第 15 回	まとめ 終了試験(45 分)	

【科目関連及び進度について】

医療や看護に関連する法律について学ぶことから、社会の動向についての理解を深め、看護の学習へ発展させる内容であるため、保健医療論Ⅱと同時進行で学習し、1 年次の保健医療論Ⅰ、社会福祉、看護学概論などと関連づけて学習する。

【試験・課題等の内容】

- ・ 学生の理解度を確認しながら適宜課題を提示する。
- ・ 終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

- ・ 筆記試験 100 点満点

【テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院
- ・ 看護六法 新日本法規

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回 1 時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門分野

【科目】看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】山本 真由美	【開講時期】第 1 学期
【所属・職位等】教育主事	【配当年次】1 年
	【実務経験】看護師 16 年

【授業における到達目標】

看護をとらえる様々な視点を学び、看護に対する自らの考えを述べることができる。

看護をとらえる視点は、①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③看護倫理 ④看護理論家の考え ⑤多職種との連携 ⑥看護の歴史

【授業の概要】

①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③看護倫理 ④看護理論家の考え ⑤多職種との連携 ⑥看護の歴史の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会が多くする。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回	看護を定義する構成要素を理解する 「環境」とは 「人間」とは	
第 2 回	看護を定義する構成要素を理解する 「健康」とは 「生活」とは	
第 3 回	看護ケアとは 看護の感性、看護の質保証	
第 4 回	保健統計からみる健康や看護	
第 5 回	看護理論家の考え ナイチンゲール	
第 6 回	看護理論家の考え ヘンダーソン	
第 7 回	看護理論家の考え ロイ	
第 8 回	看護理論について	発表会
第 9 回	看護者の倫理綱領について理解する	
第 10 回	看護倫理について理解できる(グループワーク) 人間関係に必要な倫理についてこれまでの経験から自らの考えを明確にし、それを基盤に看護倫理について理解する	
第 11 回	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する	
第 12 回	看護の歴史	

回数	内容・方法	備考
第 13 回	看護の歴史	
第 14 回	「看護」について考える (グループワーク・全体発表)	
第 15 回	「看護」について考える (グループワーク・全体発表)	
	終了試験 (45 分)	

【科目関連及び進度について】

基礎分野「心理学」「社会学」「人間関係論」や専門基礎分野「関係法規」等と関連があり、本科目の内容は、看護学を学ぶ基礎となる。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験 80%、レポート 20%

【テキスト】

新体系看護学全書 基礎看護学 1 看護学概論 (メヂカルフレンド)

看護覚え書 (現代社)

看護学テキストシリーズ NiCE 看護倫理 (南江堂)

看護の基本となるもの (日本看護協会出版社)

【参考文献】

国民衛生の動向

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】看護理論	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】山本真由美 ¹⁾ 、西元智子 ²⁾	【開講時期】第1学期
【配当年次】2年	【所属・職位等】1)教育主事 2)専任教員
【実務経験】1)看護師16年 2)看護師18年	

【授業における到達目標】

1. 看護において理論を学ぶ意義をとらえ、各看護理論の概要が理解できる。
2. 看護の具体的場面について看護理論を用いて意味づけすることができる。

【授業の概要】

理論とは何かをとらえ、各看護理論の概要を理解し、看護理論を活用し実際の看護場面について意味付けする。

【アクティブ・ラーニング】

看護理論の概要を理解したのち、看護理論を活用して実際の看護場面について各自検討し発表する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当
第1回	1.理論とは何か 2.理論の種類—広範囲理論、小範囲理論、中範囲理論	西元
第2回	ローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書』が看護に示すもの	
第3回	人間の基本的ニードと看護：ヴァーグ・ニア・ヘンダーソン	
第4回	1. 患者の援助へのニードを満たすとは：アーネスティン・ウィーデンバック 2.看護場面への応用	
第5回	1.人間関係理論における看護師患者関係：ヒルバーグ・ガード・ハップロフ 2.看護場面への応用	
第6・7回	1.セルフケアできる人間と看護：ド・ロセ・オレム 2.看護場面への応用	
第8・9回	中範囲理論 保健行動的：行動変容ステージモデル 認知的：自己概念・自己尊重・ボディイメージ 統合的：コンフォート理論・症状マネジメント	
第10・11回	1.看護師の臨床技能の習得段階と看護の創造：パトリシア・ベナー 2.看護場面への応用（グループワーク）	山本
第12・13回	1. 看護過程記録・プロセスレコードによる相互作用の分析：アイダ・オランダ、ウィーデンバック 2. 実習場面をとりあげた自己分析	
第14・15回	看護理論を用いた看護実践の検討	
	終了試験(45分)	

【科目関連及び進度について】

看護概論や看護技術Ⅴ(看護過程)で学んだ内容を、看護理論という視点で統合する。新たに登場する看護理論も多いが、1年次の基礎看護学実習Ⅰ、2年次の基礎看護学実習Ⅱでの体験を、看護理論を使い意味づけする。そのため、第12・13回目は、基礎看護学実習Ⅱ終了後に計画する。

本科目での学びが看護実習に用いることとなる。3年次の課題研究演習では、看護理論を用いることとなる。

【試験・課題等の内容】

グループワークに取り組むため、事前にレポート課題を提示する。
提出されたレポートは、個別指導を実施する。

【評価方法】

課題レポート 100% (100 点) 担当講師ごとに (各 50 点) 出題する。

【テキスト】

看護理論 20 の理解と実践への応用 (南江堂)
看護覚え書 (現代社)
看護の基本となるもの (日本看護協会)
看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (学研)

【参考文献】

やさしく学ぶ看護理論 日総研
超入門 事例で学ぶ看護理論 学研
ペプロウ 人間関係の看護論 医学書院
ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 医学書院
ベナー 看護論 新訳版 医学書院
セルフケア概念と看護実践 へるす出版 他

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は文献検討、グループでのディスカッション、資料の作成等の時間とする。

専門分野

【科目】看護技術Ⅰ（看護技術の概念¹⁾、看護行為に伴う法的根拠²⁾、コミュニケーション技術³⁾、安全の確保⁴⁾）

【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】1)今田南生人¹⁾、2)永田歩²⁾、3)後藤広行³⁾

【開講時期】第1学期 【配当年次】1年

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】1)看護師11年、2)看護師18年、3)看護師16年

【授業における到達目標】

- ・看護の対象である人間を理解し、対象の生命と生活を守るための法律及び基本的技術を理解することができる。

【授業の概要】

- ・この授業では技術の本質概念から人間を対象とした技術について学び、患者の生命と生活を守るための法律や基本的な技術について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・演習では、テーマについて事例を用いてグループワークを行い、全体で検討する機会をもつ。
- ・授業では、問いについて考え、表現する機会をもつ。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	担当	備考
1	看護技術の概念	技能とは、技術とは 技術の本質概念から人間を対象とした技術について考える	今田	看護学概論2回目終了後より開始。 看護技術Ⅱの講義が始まる前に開始。
2	看護行為に伴う法的根拠	看護学生は免許がないのになぜ看護行為を行えるのかを保健師助産師看護師法から考える	永田	
3		刑事裁判の事例をもとに患者の生命と生活を守るための看護行為について考える		
4	コミュニケーション技術	コミュニケーションの意義と目的	永田	
5		コミュニケーションの構成要素と成立過程 文化とコミュニケーション 看護理論とコミュニケーション		

回数	単元	内容（方法）	担当	備考
6	コミュニケーション技術	対人関係のプロセス 対人関係の成立に不可欠な要件としての自己理解と他者理解		
7		関係構築のためのコミュニケーションの基本 コミュニケーションのプロセスと影響する要因		
8		効果的なコミュニケーションの実際 医療における信頼関係とコミュニケーション		
9		コミュニケーション障害がある人への対応 オンラインコミュニケーション		
10	安全の確保	看護事故の構造と看護事故防止 医療現場におけるインシデント	後藤	
11		生物学的特性、認知的特性、社会心理学的特性からみる人間の特性 人間の行動モデルと医療安全		
12		安全確保の技術 ① 誤薬防止 ②チューブ類の管理 ③誤認防止		
13		安全確保の技術 ④転倒・転落防止 ⑤薬剤・放射線暴露の防止		
14		感染防止の基本的知識 1)感染、感染症 2)感染成立の条件 3)院内感染の防止 4)標準予防策(スタンダードプリコーション) 5)感染予防における看護師の責務と役割		
15		-演習- 標準予防策(スタンダードプリコーション) 1)手指衛生 2)個人防護用具の着脱		
		終了試験(45分)		

【科目関連及び進度について】

「人間関係論」「心理学」「社会学」「看護学概論」と関連付けて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

演習の前には各自で事前課題に取り組む。

【評価方法】

[看護技術の概念] なし

[看護行為の法的根拠] 終了試験 20%

〔コミュニケーション技術〕 終了試験 40%

〔安全の確保〕 終了試験 40%

【テキスト】

- ①新体系看護学全書 基礎看護学1 看護学概論（メヂカルフレンド）
- ②系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
- ③系統看護学講座 看護の統合と実践〔2〕 医療安全（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

授業前に事前テキストにて事前学習を行い、授業後には振り返りを行う。

15時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルを視聴したり、テキストを用いながら、技術練習を行う。技術の習得ができるまで反復練習を要する。

専門分野

【科目】看護技術Ⅱ（環境 ¹⁾ 、活動・休息 ²⁾	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】西裕也 ¹⁾ 、後藤広行 ²⁾	
【開講時期】第1学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】1)看護師14年 2)看護師16年

【授業における到達目標】

1. 患者の生活環境を整える意義と根拠に基づいた環境調整技術を習得できる。
2. 人間の身体構造や機能、効率的な動作を行うための身体を使う技術を習得できる。
3. 生活を整えるための活動、睡眠・休息を促す援助技術を習得できる。
4. 苦痛を軽減し、安楽を促す援助技術を習得できる。

【授業の概要】

- 1) 環境や環境調整技術の基本的知識を学習し、その知識を活用しながらベッドメイキング、臥床患者のリネン交換の援助技術を習得する。
- 2) 基本的活動の知識を学習し、その知識を活用して人間の基本的な生活行動である移動の援助技術を習得する。
- 3) 睡眠・休息の基本的知識を学習し、環境や活動で得た知識を統合しながら休息を促す援助技術を習得する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・グループワークを通して意見交換を行い看護の方法を深める
- ・演習では気づきや学びを共有し、学びを深める。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回 (環境1)	1) 環境とは 2) 療養環境の特徴 3) 環境調整する意義 4) 快適な療養環境の条件 5) 病室（個室、多床室）の特徴	西	
第2回 (環境2)	1) 病人にとっての快適な生活環境とは 2) 病棟・病室の構造・機能 3) 環境整備の視点・方法		
第3回 (環境3)	環境調整の援助の実際 1) ベッドサイドの環境整備 2) ベッドメイキング、リネン交換の目的・方法		
第4回 (活動・休息1)	活動の援助 1. 基本的活動の基礎知識	後藤	

回数	内容（方法）	講師	備考
	1) よい姿勢 2) ボディメカニクス 2. 体位 体位の種類と特徴		
第5回 (環境4)	ベッドメイキング、環境整備（演習）	西	20名づつ
第6回 (環境5)	ベッドメイキング（技術チェック）		
第7回 (活動・休息2)	活動の援助 3. 移動 1) 体位変換 体位変換の基礎知識 2) 歩行の援助 ①自力歩行 ②杖歩行 ③歩行器 3) 車椅子での移送援助 4) ストレッチャーでの移送援助	後藤	* 車いす移送は体験レポートを課す。
第8回 (活動・休息3)	活動の援助 演習1：体位変換 1) 水平移動 2) 仰臥位から側臥位 3) 仰臥位から長坐位 4) 長坐位から端坐位		20名づつ
第9回 (活動・休息4)	活動の援助 演習2：移乗の介助 1) 車いすへの移乗と移送 2) ストレッチャーへの移乗と移送		20名づつ
第10回 (活動・休息5)	活動の援助 技術チェック：仰臥位にある患者の車いすへの移乗		第9回から2週間後
第11回 (活動・休息6)	睡眠・休息の援助 1. 睡眠・休息の基礎知識 2. 睡眠・休息を促す援助		
第12回 (活動・休息7)	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 体位保持の基礎知識 2. 廃用症候群を予防する援助 1) 体位保持（ポジショニング） 2) 関節可動域訓練		

回数	内容（方法）	講師	備考
	3. 電法 4. リラクセーション		
第13回 （活動・休息8）	苦痛の緩和・安楽確保の技術 体位保持（ポジショニング）の実際（演習）		
第14回 （環境6）	臥床患者のリネン交換（演習）	西	
第15回 （環境7）			
	終了試験（45分）		

【科目関連及び進度について】

看護物理学第6回履修後から本科目第4回を履修するのがのぞましい。

解剖生理学Ⅱ（身体の支持と運動）履修後から、本科目第7回を履修するのがのぞましい。

【試験・課題等の内容】

演習に臨むにあたりテキストと動画を活用し、技術の根拠、要点、必要物品等の事前学習を必要とする。技術チェックは、十分に自己練習に取り組んで受験することを課す。

【評価方法】

＜環境＞【試験】記述 50%

【技術チェック】「ベッドメイキング」

＜活動・休息＞【試験】記述 30%・レポート 20%

【技術チェック】「車いすへの移乗」

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

＜環境＞

看護覚え書 フローレンスナイチンゲール

＜活動、睡眠・休息＞

- 1) 学ぶ・活かす・共有する看護ケアの根拠と技術 第3版（医歯薬出版株式会社）
- 2) 新訂版 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス（インターメディカ）
- 3) からだの地図帳 新版（講談社）
- 4) 完全版 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー（Gakken）

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は、本科目に関連するナーシングチャンネルの視聴、テキストを用いて技術練習を行う。技術の習得ができるまで反復練習を要する。

専門分野

【科目】看護技術Ⅲ（食事¹⁾・排泄²⁾）

【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】¹⁾永田歩、²⁾脇田由紀子

【開講時期】第1学期

【配当年次】1年

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】1) 看護師 18 年、2) 看護師 27 年

【授業における到達目標】

—食事—

1. 身体的・心理的・社会的側面から食の意味について考え、食生活を支えることの必要性が分かる。
2. 食生活を整えるための視点が分かる。
3. 食べること・飲むことに必要な機能について理解する。
4. 基本的な食事介助の方法を理解し、実践できる。
5. 非経口での栄養摂取の方法と管理について理解する。

—排泄—

6. 身体的・心理的・社会的側面から排泄の意味について理解できる。
7. 排泄のメカニズムや観察の視点が分かる。
8. 排泄援助の方法について理解できる。
9. 床上排泄における基本的な援助方法が実施できる。
10. 排泄の援助を受ける対象の心身の苦痛について考えることができる。

【授業の概要】

この授業では看護の対象を生活者として捉え、解剖生理学や看護生理学で学習したことを活用し、根拠をもって「食べる」「排泄する」ことに関する対象の生活を整えるための基本的技術を学ぶ。

演習では、事前課題をもとに「食べる」「排泄する」援助について、看護師役・患者役を体験することで、援助場面における倫理的課題についても検討する。

【アクティブ・ラーニング】

食べる・排泄することに関する自己の生活体験をもとに、からだの構造・機能の知識を統合し、それぞれがどのように援助したらよいのか根拠とともに考え、発言することが多い授業である。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	食事	1. 食の意義（身体的・心理的・社会的意義） 2. 現代社会の食生活 1) 日本における食の変遷 2) 食事に影響を与える因子 3) 食育について 3. 食べることにに関するアセスメントの視点 1) 栄養状態の評価（SGA・ODA） 2) 食事摂取に関する身体機能（運動機能・認知機能・感覚機能） 3) 食欲や食に対する認識 4) 食事の環境	永田	解剖生理Ⅰを終講の後に開講する
第2回		4. 食べること・飲むことのメカニズム 1) 摂食・嚥下のメカニズム（5期モデル） 5. 摂食・嚥下訓練について		

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第3回		6. 自力摂取できない場合の看護 1) 食事介助の方法、留意点 ①食事の準備(患者の準備、環境調整) ②食事用自助具の選択 ③誤嚥防止の介助方法 ④食事中、食後の観察 2) 非経口的栄養摂取 ①経管(経腸)栄養法 ②経鼻胃チューブ挿入について ③経静脈栄養法(TPN、PPN)		
第4回		食事介助の技術【演習】 1) 自力摂取できない場合の座位での食事介助 2) 自力摂取できない場合のベッド上での食事介助		
第5回		非経口的栄養摂取の援助【演習】 1) 経鼻胃チューブの挿入 2) 経管栄養の方法と管理について		
第6回	排泄	1. 排泄の意義(身体的・心理的・社会的意義) 2. 排泄の援助を行う際の基本的姿勢 3. 排尿・排便に関する機能とメカニズム 1) 排尿のメカニズム 2) 排便のメカニズム 3) 排泄機能と排泄行動	脇田	
第7回		4. 排泄に関する観察とアセスメントの視点 1) 排泄物の観察 2) 身体的アセスメントの視点 3) 心理的アセスメントの視点 4) 社会的アセスメントの視点(生活習慣、排泄に関する価値観)		
第8回		5. 自然排尿および自然排便を促す援助の方法 1) トイレでの排泄介助 2) ポータブルトイレでの排泄援助 3) 床上排泄(尿器・便器)の援助 4) おむつによる排泄の援助		
第9回		床上排泄の援助(尿器)【演習】		
第10回		床上排泄の援助(便器)【演習】		
第11回		6. 排泄障害への援助 1) 尿失禁・便失禁 2) 尿失禁・便失禁の原因と対応		
第12回		7. 排便障害への援助 1) 便秘への援助 2) 摘便について 3) 浣腸について		
第13回		浣腸の援助【演習】		

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第 14 回 第 15 回		8. 排尿障害への援助【講義・デモスト】 1) 尿閉について 2) 導尿（一時的導尿・持続的導尿）の方法 導尿時の無菌操作について（滅菌物の取り扱い・滅菌手袋の装着方法）、留意点 3) 持続的導尿の管理について		
		終了試験（45 分）		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰ（消化器系、腎・泌尿器系）が終了した後に開講する。
看護生理学にて「食べる」「排泄する」と関連させながら学ぶ。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。
グループディスカッションおよび演習の前後にはレポート課題を提示する。

【評価方法】

単元：食事（配点：50 点）

単元：排泄（配点：50 点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）

看護技術がみえる2（メディックメディア）

【授業外における学修方法及び時間】

- ・次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
- ・ナースングチャンネルの視聴（60 分）

専門分野

【科目】看護技術Ⅳ（清潔・衣生活）	【単位数・時間】1 単位（30 時間）
【担当講師】田尻朝恵	
【開講時期】第 1 学期	【配当年次】1 年
【実務経験】看護師 15 年	【所属・職位等】専任教員

【授業における到達目標】

1. 身体の清潔の意義を理解し、清潔・衣生活の援助の目的、方法について理解する
2. 清潔・衣生活のニーズを満たすための援助の方法を理解する
3. 安全・安楽に留意しながら、清拭、寝衣交換、洗髪の方法を習得する

【授業の概要】

清潔の意義とその援助の目的を理解し、対象の日常生活行動（ADL）に合わせた清潔・衣生活の援助を考える基礎的知識を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義、課題については自ら思考する機会とする。
- ・演習では、講義で学んだことをもとに視聴覚教材で学習し、根拠に基づいた具体的な方法を理解する。
- ・看護技術の習得に向けて、学生同士で学び合い、気づきを共有し、事例に応じた看護技術の方法を習得する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
1	清潔の意義 （生活を営む中での清潔の意義や清潔の文化的背景をふまえて考える）	週に 1 回のペースで講義を計画する。
2	清潔に影響を及ぼす因子 援助方法の種類	
3	整容の意義とその援助	
4	口腔ケアの意義とその援助	
5	衣服を用いることの意義と選択 （生活・文化的背景をふまえて考える）	
6	援助の実際 病衣・寝衣交換（演習）	実習室使用
7	援助の実際 入浴・シャワー浴、清拭	週に 1 回のペースで講義を計画する。
8	援助の実際 部分浴（足浴・手浴）・陰部洗浄	
9	援助の実際 清拭（演習）	実習室使用
10	清拭の技術チェック/ 患者の状態に合わせた清潔援助の状態判断	第 9 回終了後、2 週間以上間隔をあけて第 10 回を計画する

回数	内容（方法）	備考
11	援助の実際 洗髪	週に1回のペースで講義を計画する。
12	援助の実際 洗髪（演習）	実習室使用
13	洗髪の技術チェック	第12回終了後、2週間以上間隔をあけて第13回を計画する
14	患者の状態に合わせた清潔の援助の判断（講義・演習）	第14・15回は2コマ続きで計画する
15		
	終了試験（45分）	

【科目関連及び進度について】

解剖生理学Ⅰで学んだ皮膚の構造と機能、生体の防御機能と関連させて学ぶ。

また、演習時には、看護技術Ⅱ（環境）で学んだ療養環境調整に関する技術や看護技術Ⅱ（活動・体位・休息）で学んだ安楽な姿勢・体位の保持や体位変換、ボディメカニクスに関する知識を用いて演習を行う。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

洗髪、清拭の技術習得

【評価方法】

終了試験 100%（100点）

※洗髪の技術、清拭・寝衣交換の技術についてはチェックに必要な講義、演習が終了後に行う。

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

【参考文献】

看護技術プラクティス（学研）

新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）

看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術（メディックメディア）

看護技術ベーシック（医学芸術新社）

【授業外における学修方法及び時間】

15時間の自己学習時間は、本科目に関連するナースングチャンネルの視聴、技術練習等に取り組む。

専門分野

【科目】看護技術Ⅴ（感染防止¹⁾、創傷管理²⁾、検査時の看護³⁾、学習支援⁴⁾、
与薬の看護・呼吸管理⁵⁾、救命救急処置⁶⁾）

【単位数・時間】2単位 60時間

【担当講師】西 裕也^{1) 2) 3) 6)}、今田 南生人⁴⁾、田尻 朝恵⁵⁾

【開講時期】通年 【配当年次】2年

【所属・職位等】1)2)3)4)5)6)都城医療センター附属看護学校教員

【実務経験】1)2)3)6)看護師 14年、4)看護師 11年、5)看護師 15年

【授業における到達目標】

1. 感染防止の必要性を理解し、感染予防に関する知識・技術を習得することができる。
2. 与薬における看護の役割と責務を理解し、薬物による生体の反応から人体への影響を理解し、安全に確実に与薬する技術を習得することができる。
3. 検査における看護の役割と責務を理解し、安全に正確に検査時の援助について理解できる。
4. 呼吸調整を行う意義を理解し、対象者に安全かつ安楽な技術を理解できる。
5. 急性の疾病や外傷により生命の危機状況にある対象に対して、速やかに呼吸及び循環を補助し、救命するために行われる処置について理解できる。
6. 創傷治癒過程とその影響要因を理解し、創傷による苦痛を緩和し、治癒を促進するための援助技術について習得することができる。
7. 健康に関わる学習を支援する看護技術について習得する。

【授業の概要】

この授業では、診療の補助技術の中の感染防止、与薬、検査、救命救急処置、創傷と健康に関わる学習に対する支援に関する基礎知識や看護技術を講義、演習を通してことを学ぶ。また、演習では、看護師役、患者役を体験することで、援助場面における対象が安楽に安心して援助を受けることについても検討する。

【アクティブ・ラーニング】

演習時は、根拠や評価基準に則り、学生同士協働しながら、気づきや考えを共有しながら、技術を習得できるようにする。講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。

【授業計画】

回数	内容(方法)		講師	備考
第1回	感染防止	1. 感染経路 2. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策	西	
第2回		・洗浄・消毒・滅菌 ・無菌操作		
第3回	感染防止	感染性廃棄物の取り扱い 針刺し防止策 医療施設における感染管理		
第4回		演習 ・標準予防策(スタンダードプリコーション) 1) 手指衛生 2) 個人防護用具の着脱	西	

回数	内容(方法)		講師	備考
第5回		演習 ・無菌操作 1) 清潔区域 2) 滅菌物の受け取り・渡し 3) 消毒の仕方 (消毒薬による消毒法(清拭法)) 4) 滅菌手袋の着脱		
第6回	創傷管理	創傷管理の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治癒のメカニズム 3) 汚染創と感染創 4) 創傷治癒の種類 創傷治癒のための環境づくり 1) 術後一次縫合創とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) テープによる皮膚障害 4) 包帯法	西	
第7回		創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 1) 創傷処置・創傷ケア 2) 創部のアセスメント・評価 熱傷患者の看護 1) アセスメント 2) 看護の実際		病理学Ⅳ感覚器系(皮膚)終了後より開講
第8回		褥瘡予防 1) 褥瘡発生メカニズム 2) 褥瘡のリスクアセスメント 3) 褥瘡の予防 4) 褥瘡のアセスメント 5) 治療 6) 褥瘡の処置・ケア		
第9回	検査時の看護	・臨床検査とその役割 1) 診療における臨床検査の役割 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の場面と目的 ・臨床検査の流れと看護師の役割 1) 臨床検査の流れ 2) 臨床検査の準備 3) 検査を受ける対象への説明と注意 4) 検体の採取方法、保存、移送方法 5) 検査に伴う危険とその防止 6) 検査結果の取り扱い	西	
第10回		・画像検査時の看護援助 1) X線検査 2) コンピューター断層撮影(CT) 3) 磁気共鳴画像(MRI) 4) 心電図検査 5) 超音波検査 6) 肺機能検査 7) 核医学検査		
第11回		・侵襲的検査時の看護援助 1) 内視鏡検査 2) 腰椎穿刺 3) 骨髄穿刺 4) 胸腔穿刺 5) 腹腔穿刺 ・検体検査時の看護援助 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 4) 血液検査		
第12回		演習 モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血		
第13回		技術チェック モデル人形を用いた真空採血管による静脈血採血		講義2週間後に技術チ

回数	内容(方法)		講師	備考
				エック
第 14 回	学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における学習支援の背景 <ol style="list-style-type: none"> 1)健康教育における歴史とその型 2)学習理論 ・行動変容、行動強化に関する理論 (保健信念モデル、自己効力感) ・認識の変容に焦点を当てた理論 (エンパワメント、成人教育 (アンドラゴジー、) リフレクション) ・学習支援における看護師の役割 ・健康に生活するための学習支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭 2) 学校 3) 職場 4) 地域 ・健康状態の変化に伴う学習支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来 2) 入院時 3) 退院時 	今田	
第 15 回		<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1)内容と方法の決定 2) 個人または集団へのアプローチの実際 3) 発達段階における特徴 4) 支援の評価 ・学習支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1)個人を対象とした支援 2)家族を対象とした支援 3)集団を対象とした支援 		
		終了試験(45 分)		
第 16 回	与薬	与薬の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1)与薬方法の種類 2)薬物動態 3)薬の管理(毒薬・劇薬・麻薬) 4)与薬のプロセス 与薬における医療安全 <ol style="list-style-type: none"> 1)誤薬防止の基礎知識と実際 2)患者誤認防止 3)チューブ類の事故防止 	田尻	
第 17 回		経口薬の援助の実際(経口) <ol style="list-style-type: none"> 1)経口与薬 2)口腔内与薬 外用薬の援助の実際(外用薬) <ol style="list-style-type: none"> 1)吸入 2)点眼 3)点鼻 4)経皮的与薬 5)直腸内与薬 		
第 18 回		注射法の援助の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1)注射方法の種類 2)注射の準備(アンプル、バイアル) 3)皮下注射 4)皮内注射 5)筋肉内注射 		
第 19 回		演習① 筋肉内注射時の援助		講義後 2～3 週間後にチェック
第 20 回		演習② 筋肉内注射時の援助		
第 21 回		技術チェック 筋肉内注射のチェック		2～3 週間後に再チェック
第 22 回		1. 輸液療法を受ける対象者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)輸液療法の目的 2)輸液療法の特徴(生理的ニーズ、安全・安楽のニーズ) 3)インフォームドコンセントと患者支援 4)日常生活に対する援助(食事・栄養、排 		

回数	内容(方法)		講師	備考
		泄、清潔、活動と休息・睡眠) 2. 輸液療法の援助の実際 1) 目的と特徴 2) 静脈内注射 3) 点滴静脈内注射 4) 中心静脈内注射 5) 輸液の管理		
第 23 回		安全で確かな輸液療法の実施 1) カテーテル関連血流感染対策 2) 針刺し防止策 3) 針刺し後の対応 4) 予定外抜去の予防 5) 抗がん剤暴露の防止 6) 血管外漏出の防止		
第 24 回 第 25 回		演習 点滴静脈内注射時の援助		筋肉内注射 の再チェック 後より開講
第 26 回		輸血療法時の看護 1) 輸血用血液製剤の種類と主な適応 2) 輸血業務のプロ セス 3) 輸血の副作用 4) 輸血ミスの予防		
第 27 回	呼吸 管理	呼吸管理 1) 呼吸を整える援助 (1) 呼吸を楽にする姿勢 (2) 呼吸法 2) 気道内分泌物の排出の援助 (1) 体位ドレナージ (2) 咳嗽介助 3) 酸素療法 (1) 目的 (2) 酸素供給方法 (3) 酸素吸入器具の種類 (4) 援助時の観察・アセスメント、合併症 (5) 方法 (4) 吸引 ① 目的、② 援助時の観察及びアセスメント、③ 方法	田尻	
第 28 回		呼吸管理に必要な看護技術 一時的吸引法の実際(演習) 気道内加湿法の実際(演習)		
第 29 回	救急救 命処置	・救急救命処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 救急・急変時の初期対応 ・心肺蘇生法 1) 心肺蘇生の基礎知識 2) 一次救命処置の実際 3) 小児・乳児の心肺蘇生法	西	
第 30 回		・止血法 ・院内急変時の対応 1) エマージェンシーカート 2) 院内救急コール		
		終了試験(45 分)		

【科目関連及び進度について】

微生物学、病理学Ⅳ感覚器系（皮膚）、薬理学、治療法総論（ME 機器）と関連する科目である。
与薬と検査時に看護の講義は、関連する科目である。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。
適宜、事前課題を要する。

【評価方法】

筆記試験（1：100点 2：100点 200点満点を100点換算とする）

1. 感染防止：30点、検査時の看護：30点、創傷管理：20点、学習支援：20点

2. 与薬の看護：60点、呼吸管理：20点、救命救急処置：20点

技術チェックについては、評価基準に則り、評価を行う。

学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論（医学書院）

系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔12〕 皮膚（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

看護過程に沿った対症看護 第4版（学研）

【参考文献】

系統看護学講座 別巻 臨床検査

看護技術がみえる vol.1 臨床看護技術

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

看護技術プラクティス 学研

看護技術ベーシックス 医学芸術新社

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
- ・ ナーシングチャンネルの視聴（60分程度）

【救命救急、基礎看護技術マスターシリーズ（与薬、褥瘡、血液の検査と静脈血採血、）臨床における感染防止対策、穿刺と看護、看護師が行う静脈注射】

専門分野

【科目】看護技術Ⅵ（フィジカルアセスメント、記録・報告）	
【単位数・時間】1単位(30時間)	【担当講師】後藤広行
【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師16年

【授業における到達目標】

1. 看護記録の目的と留意点と構成及び、報告の目的と基本的知識を理解できる。
2. バイタルサイン測定（体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定）の必要性を理解し、原理原則に基づき正確に実施できる。
2. 全身の正確なフィジカルイグザミネーションを実施できる。
3. 系統別フィジカルアセスメントを理解できる。

【授業の概要】

1. 看護師が取り扱う看護記録や、実践する報告の意義や特徴を医療チームメンバーの視点から学習する。
2. 講義・演習を組み合わせながらすすめ、既習学習を活かしながら状況設定下にある患者の状態を判断し、必要な援助を導くプロセスを踏みながら学習する。

【アクティブ・ラーニング】

特に演習では経験したことを表現し、経験と知識を関連付けながら学びを深めていく。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	1. 看護記録の基礎知識 2. 看護記録の記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 4. 報告の基礎知識	
第2回	1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントの関係 2) 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 3) 全体の概観 (1) フィジカルアセスメントに必要な技術 ①問診 ②視診 ③触診 ④聴診 ⑤打診 (2) 全身状態・全体印象の把握 (3) 計測	
第3回	3) 全体の概観 (4) バイタルサインの観察とアセスメント ①体温測定：体温とは、体温の正常と異常の判断、体温測定方法	

	②脈拍測定：脈拍とは、脈拍の正常と異常の判断、脈拍測定方法 ③呼吸測定：呼吸とは、呼吸の正常と異常の判断、呼吸測定方法	
第4回	演習1（症状・生体機能管理技術） バイタルサイン測定 -体温測定・脈拍測定・呼吸測定の実際-	
第5回	3) 全体の概観 (4) バイタルサインの観察とアセスメント ④血圧測定：血圧とは、血圧の正常と異常の判断、血圧の影響因子 血圧測定方法	
第6回	演習2（症状・生体機能管理技術） バイタルサイン測定 -血圧測定の実際-	
第7回	技術チェック：バイタルサイン測定 ①体温測定 ②脈拍測定 ③呼吸測定 ④血圧測定	第6回から2週間後に行う。
第8回	脳神経系のフィジカルアセスメント	
第9回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	
第10回	脳神経系のフィジカルイグザミネーション（演習）	
第11回	腹部のフィジカルアセスメント	
第12回	腹部のフィジカルイグザミネーション（演習）	
第13回	呼吸のフィジカルアセスメント	
第14回	循環器系のフィジカルアセスメント	
第15回	循環器系のフィジカルイグザミネーション（演習）	
	終了試験(45分)	

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、看護生理学、看護技術Ⅶ、臨床看護総論との関連が深く、その科目の進度と調整しながら進める。

【試験・課題等の内容】

講義・演習前に課題を提示する。

【評価方法】

筆記試験 100%

※バイタルサインの技術については演習1・2終了後に行う。

技術チェックは、評価基準に則り評価を行う。学生は、技術チェックについては必ず年度内に合格する。

【テキスト】

- 1) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる（医学書院）
- 2) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

3) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 (医学書院)

【参考文献】

1) フィジカルアセスメントがみえる 第1版 (メディックメディア)

2) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 (医学書院)

【授業外における学修方法及び時間】

必要時、事前課題及び事後課題を提示する。

専門分野

【科目】看護技術Ⅶ（看護過程展開技術）	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】西元智子	【開講時期】第2学期
【配当年次】1年	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師18年	

【授業における到達目標】

看護過程の一連のプロセスを理解し、事例を用いて看護過程を展開することができる。

【授業の概要】

本授業では、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクションなどの看護過程を展開する際に基盤となる考え方をもとに看護過程展開技術について学ぶ。また、ロイ適応看護モデルの枠組みを用いて、実際に看護過程を展開し、情報収集や情報の分析・解釈、診断、計画立案、実施、評価の一連のプロセスについて学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

事例を用いた看護過程の展開では、グループワーク・個人ワークを取り入れながら展開し、全体での検討も行う。授業においては、自らの考えを発言する機会を多く取り入れていく。

【授業計画】

回数	内容・方法	講師	備考
第 1 回	1.看護過程展開技術 2.学習方法	西元	
第 2 回	3.ロイ適応看護モデルとは		
第 3 回	4.情報収集、行動のアセスメント（生理的適応様式） 事例：心不全の事例		
第 4 回			
第 5 回			
第 6 回			
第 7 回	5.行動のアセスメント（自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式）		
第 8 回			
第 9 回	6.刺激のアセスメントと看護診断		
第 10 回			
第 11 回	7.関連図		
第 12 回			
第 13 回	8.看護目標設定と看護計画立案		
第 14 回	9.看護計画に基づいた実施 事前情報からの患者の状態のロールプレイング演習） 10.実施後の評価の考え方		
第 15 回			

【科目関連及び進度について】

看護過程については、解剖生理学や病理学、看護技術、臨床看護総論などの知識を活用して

理解につなげる。フィジカルアセスメントや症状別看護、治療論総論（手術療法）と並行し、進度を計画する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

課題・レポート評価 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

ザ・ロイ適応看護モデル（医学書院）

看護過程に沿った対症看護（学研メディカル秀潤社）

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図（医学書院）

看護診断ハンドブック第12版（医学書院）

【参考文献】

からだの地図帳（講談社）

エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版（中央法規出版）

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回事前学習を要する。

専門分野

【科目】臨床看護総論(経過別¹⁾、主要症状別²⁾、治療処置別³⁾)
 【単位数・時間】1単位(30時間) 【担当講師】脇田由紀子¹⁾、田尻朝恵²⁾³⁾
 【開講時期】第1学期 【配当年次】1年 【所属・職位等】専任教員
 【実務経験】1)看護師27年、2)3)看護師15年

【授業における到達目標】

1. 各経過期の概念と患者の特徴を理解し、各経過期に応じた必要な看護について理解する。
2. 主な症状のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。
3. 治療を受ける患者の特徴を理解し、看護目標と援助方法について理解する。
4. 手術療法や化学療法、放射線療法による有害事象のメカニズムと患者の特徴をふまえた看護について理解する。

【授業の概要】

解剖生理や疾患の理解をふまえ、疾患により各経過期をたどる患者の特徴及び看護について理解できるよう教授する。また、各疾患によって生じる症状のメカニズムと必要な看護について享受し、主な治療として手術療法、放射線療法、化学療法について学び、患者の特徴と必要な看護について教授する。

【アクティブラーニング】

グループワークや授業中の発問や討議により、臨床判断に基づいて自ら思考する機会とする。

【授業計画】

回数		内容(方法)	講師	備考
1回目	経過別 看護	健康状態の維持・増進を目指す看護 健康状態の経過に基づく看護	脇田	
2回目		急性期における看護 1) 急性期の特徴 2) 患者のニーズ(身体的・心理的・社会的) 3) 家族のニーズ 4) 急性期にある患者への援助		
3回目		回復期における看護 1) 回復期の特徴 2) 患者のニーズ(身体的・心理的・社会的) 3) 家族のニーズ 4) 回復期にある患者への援助		
4回目		慢性期における看護 1) 慢性期の特徴 2) 患者のニーズ(身体的・心理的・社会的) 3) 家族のニーズ 4) 慢性期にある患者への援助		
5回目		終末期における看護 1) 終末期の特徴 2) 患者のニーズ(身体的・心理的・社会的) 3) 家族のニーズ 4) 終末にある患者への援助		
6回目	主要症状別 看護	・呼吸困難のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護		
7回目		・動悸のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状		

回数		内容（方法）	講師	備考
		3) アセスメント 4) 看護		
8 回目		<ul style="list-style-type: none"> 浮腫のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護 発熱のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護 痛み（がん性疼痛、胸部痛、頭痛、関節痛）のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護 	田尻	
9 回目		<ul style="list-style-type: none"> 排泄障害のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズム 3) メカニズムと特徴 4) 随伴症状 5) アセスメント・ 悪心・嘔吐のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護 		
10 回目		<ul style="list-style-type: none"> 脱水のある対象の看護 1) 定義 2) メカニズムと随伴症状 3) アセスメント 4) 看護 		
11 回目 12 回目	治療処置別 看護	手術療法を受ける患者の看護 手術療法の目的と看護師の役割 周手術期の看護援助	田尻	
13 回目		集中治療を受ける患者の看護		
14 回目		放射線療法を受ける患者の看護		
15 回目		化学療法を受ける患者の看護		
		終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病態生理学、治療法総論、フィジカルアセスメントの学びを関連付け、臨床判断に基づいて思考する。

進度については、「経過期に応じた看護」「症状に応じた看護」については、解剖生理学、病態生理学、フィジカルアセスメント、看護生理学の進度を考慮して開講する。また、「治療を受ける患者の看護」については、治療法総論が終了後に開講する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

- ① 単元：経過別看護 30 点
- ② 単元：主要症状別看護 40 点
- ③ 単元：治療処置別看護 30 点

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院）
看護過程に沿った対症看護（学研）
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院）

【参考文献】

病気がみえる7 脳・神経（メディックメディア）
病気がみえる8 腎・泌尿器（メディックメディア）

【授業外における学修方法及び時間】※15 時間

15 時間の自己学習時間は、本科目に関連するナーシングチャンネルの視聴、講義前後の課題に取り組む。

専門分野

【科目】地域看護概論	【単位数・時間】2単位(30時間)
【担当講師】西元 智子	【開講時期】第1学期
【配当年次】1年次	【所属・職位等】専任教員
【実務経験】看護師18年	

【授業における到達目標】

1. 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活に及ぼす影響を説明できる。
2. 生活と健康をめぐる社会の動向をとらえ、地域におけるケアの必要性について説明できる。
3. 地域・在宅看護論の目的、機能、対象、活動の場・内容について説明できる。
4. 地域で暮らす人々の健康を支援する多職種について説明できる。
5. 地域共生と地域包括ケアシステムについて説明できる。
6. 地域・在宅看護に関連する法と制度について説明できる。
7. 地域・在宅看護の基本となる倫理について、説明できる。

【授業の概要】

本科目の目的は、地域で生活する人々とその家族の健康を支援するために基盤となる考え方を学ぶことである。

身近な人々の生活から地域社会の理解と人々の生活のありようを学ぶ。

地域における生活と健康を支えるための法や制度の概観を踏まえた上で、地域・在宅看護の機能、対象、理念、地域における看護実践の変遷や基本倫理について理解する。

【アクティブ・ラーニング】

地域で生活する人々の理解について、学校周辺の地域について調べ検討会を行う。

また、人口・世帯、健康、保健・医療提供体制に関する動向については、各種統計データを分析し、自己の考えを述べる等積極的に学ぶ。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1・2	地域の人々の生活と健康（演習） ①地域の物理的環境、②社会的環境、③地域の文化・人々の関係性、④人々の生活や健康への影響について		フィールドワーク
3・4	生活と健康をめぐる動向（演習） ①人口・世帯、健康、保健・医療提供体制に関する動向（各種統計データの分析） ②人口や疾病構造の変化に伴う生活への影響 ・子どもを産み育てる、学ぶ、働く、疾患を治す、療養する、最期を迎えることがどのように変わるのか検討		
5	地域・在宅看護の位置づけ、地域・在宅看護の機能、提供機関、対象、対象を理解するためのモデルについて		
6	在宅療養者のいる家族の理解と健康課題 家族の定義、家族の機能、キーパーソン、家族発達論、家族システム論、生活様式		
7・8	地域・在宅看護の理念の基本 地域・在宅看護の理念（地域共生社会、アドボカシー、ノーマライゼーション、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワメント）の基本事項と看護実践との関連について		

回数	内容（方法）	講師	備考
9	地域・在宅看護の変遷 地域・在宅看護に関する制度：医療保険制度、障害者支援制度		
10	地域・在宅看護に関する制度：介護保険制度 ケアマネジメントの概念と機能		
11・12	地域包括ケアシステムの概要 （目的、構成要素、介護予防、生活支援、社会参加）		
13	地域の多様な場における看護職の役割 訪問看護の役割、訪問看護の制度		
14	地域・在宅看護における倫理 在宅療養者の権利擁護、虐待防止、個人情報の保護と管理 サービス提供者の権利の保護 看護における倫理の4原則を踏まえ、地域・在宅看護論における倫理的課題の特徴と人々の尊厳と権利を守る解決法について考える。		
15	まとめ 終了試験（45分）		

【科目関連及び進度について】

生活文化論にて、「生活文化」について学んだ後に開講する。第13回目以降は、社会福祉の「介護保険制度」と同時期に学習することが望ましい。

本科目での学びを2年次の「公衆衛生学」や3年生の「家族関係論」へつなげる。本科目における「地域で暮らす人々の生活と健康を支えるケア」の学びを土台に各看護論の社会の動向、対象理解、ケアを考える。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

試験の成績、演習への参加度＋レポート課題にて評価する。

終了試験 90％＋レポート課題 10％

【テキスト】

系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2（医学書院）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【参考文献】

看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版 （メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスで授業範囲を確認し、テキストを読んで授業に臨む。

居住する地域のことや社会の動向に日ごろから関心を寄せる。ニュースや新聞記事に目を向け、学習に役立てる。

演習課題に対しては、授業時間内だけでなく、自己学習時間を活用しレポートにまとめる。

【科目】地域看護方法論Ⅰ(地域で生活する人々の理解¹⁾,地域で生活する人々の健康・支援地域看護活動^{1) 2) 3)})
 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】久保 良美¹⁾、泉 京子²⁾、和田 智美³⁾
 【開講時期】1学期 【配当年次】2年次 【所属・職位等】専任教員
 【実務経験】1) 株式会社ライフファクトリー ライフデイサービス丸谷 社会福祉士・看護師
 2)3) 都城医療センター医療ソーシャルワーカー

【授業における到達目標】

＜地域で生活する人々の理解＞

1. 地域の多様な特性が、そこに暮らす人々の健康に影響していることが理解できる。
2. 地域看護の対象者の各ライフステージの特徴とその多様性が理解できる。
3. 地域看護の対象者は、さまざまな健康レベルにあることが理解できる。
4. 地域看護の対象である家族について基本的な理解ができる。

＜地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動＞

1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズと、看護の役割が理解できる。
2. 各ライフステージにある人々の特徴を理解し、ライフステージに応じた看護の役割を理解する。
3. 暮らしにおける環境の重要性を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割について考える。

【授業の概要】

本講義では、地域・在宅看護において欠かすことのできない「予防の視点」に着目し、地域で生活する人々の健康の保持・疾病の予防に関わる看護について学ぶ。また、リスクの低減をめざす個別指導における健康行動理論の活用について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

地域の特性や人々のニーズについて自らの考えを他者に伝え討議・検討しながら講義をする。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	地域で生活する人々の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしと健康の関係 暮らしのなかで生じる健康問題と影響、家族の暮らしと健康 ・人々の健康に対する認識やニーズ（多様性）と人々の健康ニーズに応える看護 ・健康を考える看護の視点 	久保	
第2回		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の対象者① 地域による多様性の理解（地域社会の構造、構成要素） ライフステージによる多様性（小児期の対象者、成人期の対象者） 		
第3回		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の対象者② ライフステージによる多様性（老年期の対象者） 健康レベルの多様性 		
第4回		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の対象者③ 家族の理解 ①日本における家族の現状（世帯状況、婚姻状況、介護状況） ②日本における家族とその変遷（家族形態の変化、世帯の変化、家族の多様化） ③新しい家族の定義 		
第5・6回		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護の対象者④ 地域・在宅看護の対象としての家族 		

		家族を捉える視点—家族発達理論、家族システム理論の活用—		
第7回	地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす対象者の理解と看護（事例をもとに考える） <ul style="list-style-type: none"> ①地域社会を考慮した個人を対象とした看護 ②地域社会をよりよくするための看護 	久保	
第8回		<ul style="list-style-type: none"> ・健康な暮らしの支援とは <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりと疾病予防システムの手法 (ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、アウトリーチ) ・セルフケア理論、健康行動理論を活用したセルフケアを引き出す支援 ・健康づくり、疾病予防システムの実践 (①情報提供、②インテーク、③地域交流、④連携) 		
第9回		<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの環境を整える看護 <ul style="list-style-type: none"> 生活空間を整える 日常生活行動を整える 人との関係を整える サービス・社会資源の活用・調整 ・地域の健康づくり、疾病予防のための健康教育指導案企画（演習） 1年次「地域看護概論」（1回～4回）に調べ学習した内容から、組みたいテーマを選択し、グループ編成する。 		
第10回		・地域の健康づくり、疾病予防のための健康教育指導案企画（発表）		
第11回		・地域での暮らしや療養に関わる法・制度・施策（地域支援事業、年金保険、雇用保険、生活保護）の活用例	泉	
第12回		・地域での暮らしや療養に関わる法・制度・施策 障害者総合支援法、各種保健（母子、学校、産業、成人）の活用例	和田	
第13回・第14回		<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるライフステージに応じた看護（実践例の検討） ライフステージと人々の暮らし ライフステージによる健康課題と予防 	久保	
第15回		<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・終講時試験（45分） 		

【科目関連及び進度について】

本科目においては、地域で生活する人々とその家族の健康を支援する方策について学習する。

1年次に学習する「生活文化論」の学びをもとに対象者の理解をすすめる。また、地域での暮らしや療養に関わる法制度、施策については「社会福祉」や「公衆衛生学」と関連が深い科目である。

本科目で学習する「ライフステージに応じた看護」を小児看護学、母性看護学、老年看護学へ発展させる。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

単元：地域で生活する人々の理解（配点：50点）

単元：地域で生活する人々の健康支援・地域看護活動（配点：50点）

【テキスト】

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版（メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回1時間ほどの時間を要する

専門分野

【科目】 地域看護方法論Ⅱ(地域・在宅看護における生活ケアの援助技術¹⁾²⁾,
在宅看護における医療ケアの援助技術³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾,在宅看護における安全と健康危機管理¹⁾)
【単位数・時間】 1単位 30時間
【担当講師】 一柳明日香¹⁾、郡元晴喜²⁾、児玉久美³⁾、平野香奈⁴⁾
【開講時期】 1学期 【配当年次】 2年次
【所属・職位等】 1)専任教員、2)ホームクリニックみまた院長、3)都城医療センター地域医療連携部副部長、4)都城医療センター副看護師長皮膚排泄ケア認定看護師
【実務経験】 1)看護師 7年

【授業における到達目標】

＜地域・在宅看護における生活ケアの援助技術＞

1. 暮らしの場で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションについて理解する。
2. 暮らしの場で看護を行うために必要な日常生活援助技術について理解する。

＜地域・在宅看護における医療的ケアの援助技術＞

1. 暮らしの場で看護を行うために必要な医療的ケア技術について理解する。

＜地域・在宅看護における安全と健康危機管理＞

1. 暮らしのなかにあるリスクについて学び、看護の役割について理解する。
2. 災害対策における地域・在宅看護の役割を理解する。

【授業の概要】

本科目では、地域で生活する人々の生活と健康を支える生活援助技術と療養者（児）・家族に対する医療処置と看護について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

基礎看護技術で学習した日常生活援助や医療的ケア技術をもとに、生活環境にあわせた工夫や配慮について、グループワーク検討会を行い、思考を深める。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	地域・在宅看護における生活ケアの援助技術	【地域における暮らしを支える看護実践の基本的な考え方】 コミュニケーションと意思決定支援 【在宅での暮らしを継続するための日常生活支援】 身体の整理機能を整える 日常生活を維持する 家族なりのやり方をサポートする ケアチームでの連携と協働	一柳	
第2回		【地域・在宅ケアの実践】	郡山	
第3回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ①地域・在宅看護における療養環境調整 ②活動・休息に関する地域・在宅看護技術	一柳	
第4回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ③食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 ・在宅における食生活の特徴、環境の準備、社会資源の活用 ・経管栄養法	一柳	

		・在宅中心静脈栄養法とその管理		
第5回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ④排泄に関する地域・在宅看護技術 ・排泄環境のアセスメント ・セルフケアのための援助 ・機能の向上・維持を目指す援助	一柳	
第6回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑤清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 ・清潔の文化・習慣と療養者に合わせた援助 ・療養環境に応じた援助 ・介護者に対する支援	一柳	
第7回	在宅看護における医療的ケアの援助技術	【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑥呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ・呼吸・循環のフィジカルアセスメント ・日常生活の状況と活動・参加のアセスメント ・セルフモニタリングの支援 ・呼吸法・呼吸リハビリテーション ・排痰ケアと吸引	児玉	
第8回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑥呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ・在宅酸素療法（HOT）を受ける療養者の援助 ・在宅人工呼吸療法（HMV）を受ける療養者の援助 ・非侵襲的陽圧換気（NPPV）を受ける療養者の援助 ・気管切開下陽圧換気（TPPV）を受ける療養者の援助	児玉	
第9回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑦創傷管理に関する地域・在宅看護技術 ・テープ類による皮膚トラブルの予防とケア ・褥瘡の予防とケア ・スキンケアの予防とケア	平野	
第10回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ・尿道留置カテーテルの管理とケア ・ストーマ管理とケア ・腹膜透析（CAPD と APD）の管理とケア		
第11回		在宅で使用する医療器具の活用方法 業者との連携の実践	一柳	
第12回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑧与薬に関する地域・在宅看護技術 ・処方から与薬の流れとさまざまな人の関わり ・セルフケア力と残薬管理、事故防止 ・与薬方法ごとの在宅ケアのポイント（中心静脈栄養法）	児玉	
第13回		【療養環境調整に関する地域・在宅看護技術】 ⑨苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術	児玉	
第14回	在宅看護における安全と健康危機管理	【地域・在宅看護における安全をまもる看護】 ・地域での暮らしにおけるリスク ・できる限り安全に暮らしつづけるための援助 【地域・在宅看護における安全をまもる看護】 ・地域での暮らしにおける災害対策 ・地域・在宅看護と災害対策	一柳	
第15回		終講時試験（45 分）		

	まとめ		
--	-----	--	--

【科目関連及び進度について】

1 年次・2 年次に学習した基礎看護技術を基本とし、生活の場で看護を適応させるためにどのような工夫や配慮が必要かを学ぶ。そのため、「基礎看護技術」や「診療の補助技術」と関連が深い科目である。また、日々の生活におけるリスクや災害対策については、3 年次の「災害看護」へと学びを発展させる。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：地域・在宅看護における生活ケアの援助技術（配点：45 点）

単元：在宅看護における医療的ケアの援助技術（配点：45 点）

単元：在宅看護における安全と健康危機管理（配点：10 点）

【テキスト】

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4 版（メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスで、テキストの該当する範囲を確認し授業に臨む。

自身の生活や家族の生活の様子に今一度目を向け、家庭にあるものを日常生活援助技術で利用したり、工夫して活用したりすることができないか、日頃の周囲の環境や物品に関心を寄せる。

専門分野

【科目】地域看護方法論Ⅲ(地域・在宅における経過別、症状別看護、
地域・在宅における看護過程の展開、地域で生活を継続するための看護)
【単位数・時間】2単位60時間
【担当講師】西元智子¹⁾、一柳明日香²⁾、後藤広行³⁾、栗山誓子⁴⁾、田上淑子⁵⁾、川東梨恵⁶⁾、久保良美⁷⁾
【開講時期】2学期 【配当年次】2年次
【所属・職位等】1)2)3)専任教員、4)訪問看護ステーションなごみ訪問看護師、5)社会医療法人如月会
若草病院理事 在宅部門部長、6)特別養護老人ホーム霧島荘 居宅介護支援事業所
介護支援専門員、7) 株式会社ライフファクトリー ライフデイサービス丸谷
社会福祉士・看護師
【実務経験】1)看護師 18 年、2)看護師 7 年、3) 看護師 16 年

【授業における到達目標】

＜地域・在宅における経過別、症状別看護＞

1. 外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を理解する。
2. 地域・在宅看護がロングタームケアであることを理解する。

＜地域・在宅における看護過程の展開＞

1. 地域・在宅看護過程の特徴、各段階におけるポイントを理解する。
2. 地域・在宅看護の特性を踏まえた地域・在宅看護過程の展開方法を理解する。
3. 看護を展開するプロセスを通して、地域・在宅看護を発展させる視点について考える。

＜地域で生活を継続するための看護＞

1. 多様な療養者と家族の背景、歴史があり、それに応じた看護があることを理解する。
2. 対象者や家族の「物語」に合わせ、暮らしや思い、人生の経過を理解し、対象者や家族の価値観にそって看護を展開する活動であることを理解する。
3. 地域での生活を支援する多職種と連携し、地域で暮らす人々の生活を包括的に支援する方法について理解する。
4. 看護師が創造した地域・在宅看護活動の展開例を学び、地域・在宅看護活動の創造とはなにかを考えることができる。

【授業の概要】

本科目では、地域における生活を支援する多職種と連携し、地域で暮らす人々の生活を包括的に支援する方法について学ぶ。病院から地域生活に移行する人、地域で暮らす療養者、障がい者（児）など看護を必要とする人がどのような支援を必要としているかアセスメントし、多職種で解決していく看護実践のプロセスを学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

地域で暮らす人々の生活支援について、事例を用いて各自が具体的に思考し、グループワークや意見交換を行い、主体的に学ぶ。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	地域・在宅における経過別、症状別看護	・外来受診期における看護 ・入院時の看護	西元	
第2回		・在宅療養準備期（退院前）の看護 退院調整と退院支援 在宅療養生活への移行における包括的支援 ・在宅療養移行期の看護		
第3回		・在宅療養安定期の看護 ・急性増悪期の看護 ・終末期の看護	栗山	

		・在宅療養終了期の看護		
第4回		【在宅療養児と家族の理解と地域・在宅看護のポイント】 ・医療的ケア児と家族への看護 医療的ケア児の理解、医療的ケア児を支えるケアシステム 人工呼吸器装着児の在宅移行支援	栗山	
第5回		【難病を患う療養者の理解と地域・在宅看護のポイント】 ・筋委縮性側索硬化症（ALS）の療養者の看護	一柳	
第6回		・パーキンソン病の療養者の看護 ロングタームでのケア	一柳	
第7回		【精神疾患を有する人の理解と地域・在宅看護のポイント】 ・統合失調症の療養者の看護 地域生活の継続に向けた支援	後藤	
第8回		【高齢者の理解と地域・在宅看護のポイント】 ・認知症高齢者の看護 一人暮らしで身寄りが少ない療養者の支援	田上	
第9回		【がん治療中の療養者の理解と地域・在宅看護のポイント】 ・がん終末期の療養者の看護 在宅での見取りの支援	栗山	
第10回		終講時試験(45分)		
第11回	地域・在宅における看護過程の展開	【地域・在宅看護における看護過程①】（講義） ・地域・在宅看護における看護過程の基本 ICFモデル、家族システム理論と地域・在宅看護過程 ・地域・在宅看護過程の構成要素とその特徴	西元	
第12・13回		【地域・在宅看護における看護過程②③】 ・地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント（演習）		
第14・15回		【地域・在宅看護における看護過程④⑤】 ・事例患者家族の在宅療養移行の看護（演習）		
第16・17回		【地域・在宅看護における看護過程⑥⑦】 ・在宅看護における看護目標の設定・計画立案（演習） 優先順位の検討		
第18・19回		【地域・在宅看護における看護過程⑧⑨】（ロールプレイ） ・地域・在宅看護の実施		
第20回		【地域・在宅看護における看護過程⑩】 ・地域・在宅看護の評価		
第21回	地域で生活を継続するための看護	【地域・在宅看護をさらに発展させる視点】 ・制度の谷間にあるニーズを拾うケアに目を向けていく取組 ・複雑困難事例を支えるケアシステム ・複雑困難事例への支援	川東	
第22回		【地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働の実際①】 ・地域・在宅看護における多職種チーム ・地域共生社会の実現に向けた連携・協働 ・地域・在宅看護の現場における連携・協働 （訪問看護における連携・協働、医師との連携・協働、介護支援専門員との連携・協働、保健師との連携・協働、介護職との連携・協働）		
第23回		【地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働の実際②】 ・連携・協働のための会議（地域ケア会議、サービス担当者		

		会議) ・医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 ・地域資源の可視化と地域資源開発のプロセス		
第 24 回		【地域・在宅看護マネジメント①】 ・マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント ・地域・在宅看護マネジメントの捉え方 ・多様な場における地域・在宅看護マネジメント ー病棟で行う地域・在宅看護マネジメントー (地域連携クリティカルパス活用)	久保	
第 25 回		【地域・在宅看護マネジメント②】 ・多様な場における地域・在宅看護マネジメント ー外来における地域・在宅看護マネジメントー ー介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメントー		
第 26 回		【地域・在宅看護マネジメント③】 ・地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント		
第 27～ 29 回		【地域・在宅看護活動の創造】（演習） ・「暮らしの保健室」の実践例をもとに、地域住民とともに あるような地域・在宅看護について考える。	西元	
第 30 回		まとめ 終講時試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

成人看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学で学習した内容をもとに、学習をすすめる。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

レポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

単元：①地域・在宅における経過別、症状別看護（配点：100 点）

単元：②地域・在宅における看護過程の展開（配点：50 点）

単元：③地域で生活を継続するための看護（配点：50 点）

*①100 点、②③100 点の 200 点満点を 100 点換算とする。

【テキスト】

新体系看護学全書 地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版（メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

系統看護学講座 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回シラバスを確認し、テキストの該当する範囲の事前学習を行う。

看護過程の展開においては、演習が主となる。計画的・積極的に課題に取り組む姿勢と講義前後に

1 時間程度の学習時間の確保が必要である。事例展開を行うため疾患の学習やレポートの追加・修正を行う。

専門分野

【科目】成人看護学概論	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】今田南生人	【開講時期】通年
【所属・職位等】専任教員	【配当年次】1年
	【実務経験】看護師 11年

【授業における到達目標】

1. 成人期にある対象を理解するために各期の身体的、精神的、社会的特徴を理解する。
2. 成人期にある対象を取り巻く社会の環境や生活の影響による健康課題を理解する。
3. 成人の健康の動向と対象とした保健・医療・福祉政策について理解する。

【授業の概要】

成人各期（青年期、壮年期、向老期）の身体的・精神的・社会的特徴と成人を取り巻く社会的な環境や役割の変化により生じる健康課題を学び、成人看護の対象を理解する。また、成人の健康問題と保健・医療・福祉対策を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

学生の主体的な学習を進めるために、講義では学生が考え発言する機会をつくり、グループディスカッションを取り入れる。グループワーク・発表を通して発信力・協調性・傾聴力を高められるよう学習をすすめる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
1回目	1. 成人の定義 2. 成人期にある人の理解 3. 社会の姿とともに変化するライフサイクル	
2回目	1. 青年期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 青年期を生きる人々と健康	
3回目	1. 壮年期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 壮年期の人々と健康課題	
4回目	1. 向老期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 向老期の人々と健康課題	
5回目	1. ライフサイクルで変化する働くことの意味 2. 経済社会と密接な関係にある形	
6回目	1. 職業生活が健康に及ぼす影響 2. 仕事と生活の調和	
7回目	1. 成人期をいきる人と家族 2. 今日の家族の多様な姿と人生の選択	
8回目	1. 我が国の人口構成と成人期を生きる人々 2. 平均寿命、死亡数、死亡率、死因 3. 受療状況 4. 労働災害、業務上疾病 5. その他の健康問題	
9回目	成人期各期における特徴的な健康問題 1. 青年期に特徴的な健康問題 2. 壮年期に特徴的な健康問題	
10回目	成人期各期における特徴的な健康問題 3. 向老期に特徴的な健康問題	

11 回目	成人の健康状態に応じた看護 1. 成人期の人の健康を保持・増進するための支援 2. 急性期における成人の特徴と看護	
12 回目	成人の健康状態に応じた看護 3. リハビリテーション期にある成人の特徴と看護 4. 慢性期にある成人の特徴と看護 5. 終末期にある成人の特徴と看護	
13 回目	成人に対する健康学習支援 アンドラゴジー、自己効力感、エンパワーメント、	
14 回目	成人看護に活用される理論 ストレス・コーピング 危機理論：アギュララとメズイック、フィンク、コーン、 キューブラロス コンフォート理論：コルカバ	
15 回目	成人期の健康問題への対策 法律、保健・医療・福祉政策	
	終了試験 (45 分)	

【科目関連及び進度について】

看護学概論の授業が開講した後、5月後半頃より開講予定
2年次の成人看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにつながる科目である。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験・課題レポートを含み 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 成人看護学Ⅰ 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社

【参考文献】

国民衛生の動向 厚生労働統計協会

【授業外における学修方法及び時間】

1. 成人各期の特徴について、課題を提示するため、事前課題に取り組む。内容についてはグループでまとめ時間内に発表し、内容を共有する。
2. 授業終了後に配布する課題に基づいて復習して、授業内容の理解を深める。次回の授業時に課題を提出し、授業開始時に小テストを行うので準備しておく。

専門分野

【科目】成人看護方法論Ⅰ（慢性期にある患者の保健行動を促進する学習支援¹⁾、慢性期にある患者の看護過程⁶⁾、自己管理や生活の再構築に向けた看護^{1) 2) 3) 4) 5)}）
 【単位数・時間】2単位（60時間）
 【担当講師】脇田由紀子¹⁾、新地沙織²⁾、大浦恵³⁾、峯茉耶⁴⁾、濱地浩子⁵⁾、今田南生人⁶⁾
 【開講時期】通年 【配当年次】2年
 【所属・職位等】1) 6) 専任教員 2) 都城医療センター看護師 3) 4) 5) 宮崎東病院副看護師長
 【実務経験】1) 看護師 27年 6) 看護師 11年

【授業における到達目標】

1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
2. 慢性期にある対象のアドヒアランスや主体性を尊重した健康学習支援について理解できる。
3. 慢性期にある対象の生活調整に向けた自己モニタリングや自己管理への支援について理解できる。
4. 慢性期にある対象の療養生活にかかわる多職種連携と社会資源の活用、退院支援について理解できる。

【授業の概要】

慢性疾患や難病により、症状をコントロールし病気と共に生活を送るために、対象の心理・社会的変化を理解し、セルフマネジメントするための援助方法及び家族への支援について学ぶ

健康障害により日常生活が規制され、生涯にわたり身体機能障害とともに生きる対象の心理・社会的変化を理解し、身体機能障害への適応、残存機能の維持、社会復帰への援助方法及び家族への支援について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

グループディスカッション、シミュレーション、ロールプレイ

【授業計画】

回数		内容（方法）	講師	備考
1回	慢性期にある患者の保健行動を促進する学習支援	1. セルフマネジメントとは 学習援助型教育・3つのマネジメント （シンプトン・サイン・ストレス） セルフマネジメントの主要概念 （問題解決・意志決定・自己効力感） 健康学習支援の3領域 2. セルフマネジメントのための対象理解 ■本人と病気の位置関係モデル コンプライアンス・アドヒアランス、コンコーダンス ■健康信念モデル ■コミュニケーション理論 3. セルフマネジメントを推進する看護方法 ・共同目標（スモールステップ） ・アクションプラン ・シンプトンマネジメント、サインマネジメント、 ストレスマネジメント	脇田	

回数		内容（方法）	講師	備考
		・評価		
2回		慢性呼吸不全とともに生きる人へのセルフマネジメント支援 呼吸不全とはどのような状態か 慢性呼吸不全をもつ人への一般的対応 呼吸不全のクライアントのセルフマネジメント支援計画の作成（事例）		
3回		支援計画の実施、検討、評価		
4回		がんとともに生きる人へのセルフマネジメント支援 がん患者の痛みとはどういうものか がんの痛みのあるクライアントに必要なマネジメント 化学療法・放射線療法時の看護 支援計画の作成（事例）		
5回		支援計画の実施、検討、評価		
6回	慢性期にある患者の看護過程	糖尿病患者の看護過程① 情報収集、疾病受容、病状と生活習慣	今田	
7回		糖尿病患者の看護過程② アセスメント 症状コントロール、日常生活の規制と患者心理 自己管理、セルフモニタリング		
8回		糖尿病患者の看護過程③ アセスメント・看護問題 職場・家庭における役割の変更・喪失 家族および周囲のサポート体制		
9回		糖尿病患者の看護過程④ 看護問題・看護計画 生活の再調整に向けた支援		
10回		糖尿病患者の看護過程⑤ 看護計画 退院後の生活を支える社会資源と社会保障		
		終了試験 (45 分)		
11回	自己管理や生活の再構築に向け	慢性心不全とともに生きるへのセルフマネジメント支援 心不全をきたす病態 日常生活と増悪の要因	脇田	
12回		慢性心不全患者の看護 残存機能の維持、日常生活の再調整 自己管理と社会的役割との両立		
13回		慢性心不全患者の看護 自己管理にむけた患者教育 仕事を継続するための社会資源・社会保障制度		
14回		慢性心不全患者の看護 ロールプレイ演習 急性増悪した慢性心不全患者の看護 自己モニタリング・自己管理への支援		
15回		進行性慢性期・再燃と寛解を繰り返す慢性期の患者の特徴と看護の役割 ～障害受容と価値の転換～		

回数		内容（方法）	講師	備考
16・17回	た 看 護	難病とともに生きるへのセルフマネジメント支援 筋ジストロフィー 筋ジストロフィー患者の特徴 自己概念の揺らぎ・ボディイメージの変容 地域で生活するとりくみ 筋ジストロフィー患者の治療・看護の現状と政策医療	峯	16・17回を 1日で実施 病理学Ⅳ脳神 経終了後が望 ましい
18・19回		難病とともに生きるへのセルフマネジメント支援 筋萎縮性側索硬化症（ALS） 進行性の身体機能低下に対する看護、NPPV 日常生活の実際 神経難病・ALSの患者の意思決定への支援 神経難病・ALSの患者の治療と看護の現状と政策医療	濱地	18・19回を 1日で実施 病理学Ⅳ脳神 経終了後が望 ましい
20回		校外学習 進行性慢性期にある患者の看護の実際 ALS・筋ジストロフィー患者の看護の実際 施設：宮崎東病院・南九州病院	濱地	
21・22回		再燃と寛解を繰り返す慢性期にある患者の看護 感染症：結核 療養生活の長期化により自立や社会復帰への意欲の減退 結核感染症の治療・看護の現状と政策医療	大浦	21・22回を 1日で実施 病理学Ⅴ感染 症が終了後が 望ましい
23回		慢性腎不全とともに生きるへのセルフケアマネジメント 支援① 血液透析、腹膜透析	新地	
24回		慢性腎不全とともに生きるへのセルフケアマネジメント 支援② 血液透析、腹膜透析		
25回		糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援 糖尿病とともにある生活の特性と看護	脇田	
26回 27回		糖尿病患者の自己管理に向けた技術支援 技術演習 血糖自己測定・インシュリン自己注射		26・27回は 2コマ続き
28回		糖尿病患者の看護 シミュレーション演習 血糖コントロール不良患者の看護		
29回		糖尿病患者の看護 シミュレーション演習 血糖コントロール不良患者の看護		
30回		地域で生活する慢性期患者の社会資源 活用の現状と退院支援 慢性期にある患者の看護 まとめ		
		終了試験（45分）		

【科目関連及び進度について】

病理学総論、病理学Ⅰ腎・泌尿器系、病理学Ⅲ内分泌系、病理学Ⅱ循環器系の授業が1年次に終了している上で、4月より開講予定。病理学Ⅳ脳・神経講義の進捗状況に合わせて、進行性慢性期にあるALS患者・筋ジストロフィー患者の看護を計画する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【評価方法】

終了試験について①③100点と②100点の合計200点を100点換算とする

単元：①慢性期にある患者の保健行動を促進する学習支援：50点

単元：②自己管理や生活の再構築に向けた看護：100点

単元：③慢性期にある患者の看護過程：50点

【テキスト】

ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版

新体系看護学全書 経過別成人看護学3 慢性期看護 メヂカルフレンド社

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【参考文献】

看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 Gakken

【授業外における学修方法及び時間】

1. 糖尿病の事例を用いて、対象理解をすすめ看護計画立案及関する事前課題を提示するため、事前課題に取り組む。
2. 成人期にあるALS・筋ジストロフィの患者の看護の実際については、NH0 宮崎東病院 NH0 南九州病院で学ぶ。

専門分野

【科目】成人看護方法論Ⅱ(危機状態からの生命維持や適応に向けた看護¹⁾、急性期にある患者の看護過程^{1) 2)}、危機状態からの機能回復や自立に向けた看護¹⁾)
 【単位数・時間】2単位 45時間
 【担当講師】西裕也¹⁾、山菅詠子²⁾ 【開講時期】通年
 【配当年次】2年 【所属・職位等】1) 専任教員 2) 都城医療センター副看護師長
 【実務経験】1) 看護師 15年

【授業における到達目標】

1. 急性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる。
2. 生命の危機状態にある対象と家族の看護について理解できる。
3. 救急看護について理解できる。
4. 集中治療について理解できる。
5. 周手術期にある対象・家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護過程の展開ができる。
6. 突然病気を発症し、治療を受ける対象と家族の看護について理解できる。
7. 慢性疾患があり、急性増悪した対象と家族の看護について理解できる。

【授業の概要】

1. 急性期における対象や家族の看護について教授する。
2. 救急看護における対象や家族の看護について教授する。
3. 手術を受ける対象が、手術による身体のメカニズムを理解し、回復するための援助について事例を用いた演習を通して教授する。
4. 突然発症する病気を事例として、対象の身体的回復や検査時の看護、対象・家族の心理・社会的支援について演習を通して教授する。
5. 慢性疾患があり、急性増悪した対象、家族が、病気と向き合い、コントロールしながら、生活をしていくための援助について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義では、自らの考えを発言する機会を多くする。
- ・事例を用いた演習では、現場のイメージ化、知識をつなぐ、アセスメント力・判断力の強化、療養者の生活を踏まえた看護を思考する。
- ・主体的学習の促進

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
単元：危機状態からの生命維持や適応に向けた看護			
1	急性状態にある患者の身体的・心理的・社会的特徴 急性の状態にある患者の身体的反応 ・急性の状態を生じる原因 ・患者が体験する侵襲 ・侵襲とは ・侵襲に対する生体反応：神経系・内分泌反応 ・サイトカインによる生体調節機構 ・侵襲による病態	西	
2	急性の状態にある患者の身体的反応		

回数	内容（方法）	講師	備考
	ショック ・ショックとは ・ショックの分類：原因別分類、重症度による分類 ・ショックのゴールデンアワー ・ショックの5徴候 ・ショックの診断基準		
3	急性の状態にある患者と家族の心理的反応 ・不安 ・抑うつ状態 ・怒り ・パニック、せん妄などの精神状態 ・家族が示す心理的反応 急性の状態にある患者と家族を理解するための概念 ストレスコーピング・危機理論・自己概念、ボディイメージ・ インフォームド・コンセントと意思決定 急性の状態にある患者と家族に対する看護 ・患者と家族のニーズ ・患者と家族に対する看護		
4	集中治療を受ける患者の看護 集中治療の種類と場の特徴 ・集中治療の場の特徴 ・身体的、心理的、家族の特徴、集中治療を受ける患者に対する看護の実際 ・呼吸、循環機能の維持 ・苦痛緩和と援助 ・急性期のリハビリテーション		
5	周手術期にある患者の特徴 ・身体的特徴 ・心理的特徴 ・手術における侵襲とそれに対する生体反応 ・心理的回復過程 ・術後の回復過程への影響因子 周手術期にある患者の家族の特徴 周手術期看護とは ・周手術期とは ・手術の種類と適応 ・周手術期看護とは ・周手術期医療における倫理	西	
6	手術前期の看護 ・手術前期の看護とは ・看護目標と看護問題 手術前期の看護の実際 ・術前検査と看護援助 ・情報収集とアセスメント		
7	手術前期の看護の実際 ・術前準備 ・手術前日の看護 ・手術当日の看護		
8	手術期の看護 ・手術室看護師の役割 ・麻酔導入時の看護 ・手術中の看護 ・手術終了時の看護	山菅	
9	手術後期の看護 ・意識レベル、呼吸状態、循環動態のアセスメントと看護 ・疼痛、術後感染、消化管機能、術後せん妄のアセスメント	西	

回数	内容（方法）	講師	備考
	と看護		
10	手術後期の看護 ・ 早期離床の促進 ・ 日常生活の援助と心理的援助 ・ 退院に向けた指導・支援		
11	終了試験 (45 分)		
単元：急性期にある患者の看護過程			
12	事例紹介 情報整理、基礎情報・術前検査データの解釈と分析	西	隔週で講義
13	術前のアセスメント 術中の経過から術直後に起こりうるリスクのアセスメント		
14	関連図の作成、看護診断・共同問題の特定①		
15	関連図の作成、看護診断・共同問題の特定②		
16	術前の看護 ・ 術前の援助計画立案		
17	術前の看護（ロールプレイング） ・ 術前オリエンテーションの実施		
単元：危機状態からの機能回復や自立に向けた看護			
18	術後の観察・早期離床の実施 ・ 情報収集、アセスメント、看護計画立案	西	
19	術後の観察・早期離床の実施（ロールプレイング） ・ データ収集・データ解釈、離床に向けた安全・安楽な援助		実習室を使用 ロールプレイング
20	術後3日目の看護 ・ 前日までの情報収集・アセスメント、看護計画立案		
21	術後3日目の看護（ロールプレイング） ・ 呼吸状態の観察・データ解釈、呼吸訓練		実習室を使用 ロールプレイング
22	退院に向けた具体的な支援計画立案 前日までの情報収集・アセスメント、退院指導・支援計画の立案		
23	退院に向けた具体的なセルフケア支援（ロールプレイング） データ収集・データ解釈、退院指導・支援の実際		実習室を使用 ロールプレイング
	終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学、病理学、看護技術Ⅴを想起しながら、学習していく。

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

【評価方法】

①100点と②③100点の200点満点を100点換算とする。

単元：①危機状態からの生命維持や適応に向けた看護：100点

単元：②急性期にある患者の看護過程：50点

単元：③危機状態からの機能回復や自立に向けた看護：50点

【テキスト】

臨床外科看護総論 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院

成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂

成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア 南江堂

【参考文献】

病気がみえる 呼吸器 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 周手術期看護
2. 次回の講義に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する

専門分野

【科目】成人看護方法論Ⅲ(全人的苦痛の緩和や人生の最終段階に向けた看護^{1) 2) 3)}、
終末期にある患者の看護過程の展開¹⁾

【単位数・時間】1単位(30時間)

【開講時期】1学期

【配当年次】2年

【担当講師】田尻朝恵¹⁾、清武 香²⁾、児玉みゆき³⁾

【所属・職位等】1)専任教員 2)都城医療センター副看護師長 緩和ケア認定看護師
3) 都城医療センター副看護師長 がん性疼痛看護認定看護師

【実務経験】看護師 15年

【授業における到達目標】

1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的(スピリチュアル)特徴を述べることができる。
2. 痛みをはじめとする主な身体症状とその治療、看護について述べることができる。
3. 精神症状とその治療、看護について述べるができる。
4. 社会的苦痛やスピリチュアルペインに対する看護を述べるができる。
5. 終末期における対象とその家族とのコミュニケーションについて説明できる。
6. 在宅緩和ケアを受ける患者への支援や調整について述べるができる。
7. 緩和ケアにおける倫理的問題について述べるができる。
8. 患者家族・遺族の思い、生じる問題、支援方法について述べるができる。

【授業の概要】

終末期看護及び緩和ケアを必要とする成人とその家族を支えるために、人間の尊厳を考え、最期まで生きることを支えるケアについて学習する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・がんの終末期の経過期別の状況から、対象・家族の特徴について事例を通して意見交換や討議を行う。
- ・がんの終末期にある患者・家族の事例を用いて、全人的苦痛の理解と緩和ケアについて意見交換や討議を行う。
- ・がんの臨死期にある患者・家族の事例を用いて看取りのケアやグリーフケア、倫理的課題について意見交換や討議を行う。

【授業計画】

回数	内容・方法	講師	備考
単元：全人的苦痛の緩和や人生の最終段階に向けた看護			
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の考え方 終末期医療に関する制度 終末期における医療の目的と場の特性 ・終末期医療における看護の機能と役割 ・緩和ケアの考え方 歴史、定義、理念、分類、対象、 ・緩和ケアにおける看護の役割 全人的苦痛、包括的アセスメント、看護師に求められる役割 	田尻	
第2回	全人的苦痛の緩和 <ul style="list-style-type: none"> ・終末期の身体的苦痛へのケア 症状マネジメントと看護 	児玉	

回数	内容・方法	講師	備考
	症状マネジメントモデル 倦怠感、食欲不振、呼吸困難、悪心・嘔吐、腹部膨満、便秘（腸閉塞）、下痢、浮腫、悪疫質 疼痛マネジメント WHO がん疼痛ガイドライン（7つの基本原則、3段階除痛ラダー、鎮痛薬使用の4原則） オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬 痛みのスケール NRS、VAS、フェイススケール		
第3回	全人的苦痛の緩和 ・終末期の精神的苦痛へのケア 精神症状のマネジメントと看護 不安、抑うつ、不眠、せん妄 アセスメントツール つらさと支障の寒暖計、不安の評価尺度 ・終末期の社会的苦痛へのケア 社会的役割多様性、家族関係、経済的問題	児玉	
第4回	全人的苦痛の緩和 ・スピリチュアルケア スピリチュアリティとは スピリチュアルペイン 関係存在、自律存在、時間存在 スピリチュアルペインを和らげるケア 死にゆく人の心理過程（キューブラ・ロス）	清武	
第5回	・終末期における日常生活のケア 整容・清潔、口腔ケア、移動・移乗、体位変換（ポジショニング）、食事、排泄、睡眠、環境 気分転換	田尻	
第6回	終末期にある対象の尊厳を保つケア ・終末期における患者と家族とのコミュニケーション 悪い知らせを伝えるコミュニケーション 意思決定場面におけるコミュニケーション 患者の希望を支えるコミュニケーション アドバンスケアプランニング（ACP） ・終末期の在宅療養移行に向けての支援 退院支援・退院調整における看護の実際	清武	
第7回	・臨死期の看護 臨死期とは 臨死期の全身状態の変化、過ごし方、 臨死期における輸液療法 苦痛緩和のための鎮静、臨終後のケア ・臨死期の症状マネジメント 全身倦怠感、呼吸困難、痛み、せん妄、鎮静 ・臨終前後の看護 臨終までの経過 苦痛の緩和（痛み、死前喘鳴）エンゼルケア、臨終後の身体の変化 ・臨死期における急変時のケア	田尻	

回数	内容・方法	講師	備考
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族への緩和ケア グリーフケア、家族の危機、家族機能・家族システムの変化、ソーシャルサポート 臨終を迎えるまでの家族の心理過程 残された家族の家族機能の再構築への支援 悲嘆反応、悲嘆のプロセス、予期悲嘆、悲嘆と遺族ケア、看護師が行う全人的ケア 	清武	
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期における倫理 生命倫理、看護倫理、臨床倫理、意思決定支援、倫理的課題、倫理的課題への対応、アドバンスケアプランニング、看護者の倫理綱領、生命原理の原則、臨床倫理 4 分割法 ・ がんの終末期で直面する倫理的課題 IC、安楽死・尊厳死、延命治療の差し控えと中止、鎮静、倫理的ジレンマ 	清武	
単元：終末期にある患者の看護過程の展開			
第 10 回	肝臓がんの終末期にある成人期の対象を事例の看護過程展開 終末期の看護過程とは	田尻	
第 11 回	肝臓がんの終末期にある成人期の対象を事例の看護過程展開 アセスメント 行動のアセスメント		
第 12 回	肝臓がんの終末期にある成人期の対象を事例の看護過程展開 看護問題 刺激のアセスメント		
第 13 回	肝臓がんの終末期にある成人期の対象を事例の看護過程展開 看護計画		
第 14 回 第 15 回	肝臓がんの終末期にある成人期の対象を事例の看護過程展開 シミュレーション		
	終了試験(45 分)		

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。

【科目関連及び進度について】

臨床看護総論、フィジカルアセスメントに関する授業の学びを関連付け、臨床判断に基づいて思考する。

進度については、「終末期にある患者・家族の特徴と看護」の概要に基づいて、経過期に応じた対象の特徴と看護を開講する。また、看護過程については、緩和ケア認定看護師とがん疼痛看護認定看護師による講義が終了後、開講する。

【評価方法】

筆記試験

単元：全人的苦痛の緩和や人生の最終段階に向けた看護：70 点

単元：終末期にある患者の看護過程の展開：30 点

【テキスト】

新体系看護学全書 経過別成人看護学4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア（メジカルフレンド）

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図（学研）

看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント（学研）

看護診断ハンドブック（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器（医学書院）

【参考文献】

国民衛生の動向

系統看護学講座 別巻 緩和ケア（医学書院）

NiCE 看護学テキスト がん看護（南江堂）

【授業外における学修方法及び時間】

15 時間の自己学習時間は校外授業、本科目に関連するナーシングチャンネルの視聴、文献講読、看護過程の展開等の課題に取り組む。

専門分野

【科目】 老年看護学概論	【単位数・時間】 1 単位(30 時間)	
【担当講師】 永田歩	【開講時期】 第 1 学期	【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 専任教員	【実務経験】 看護師 18 年	

【授業における到達目標】

1. 高齢者の身体的、精神・心理的、社会的特徴がわかる。
2. 高齢者の生活状況がわかる。
3. 高齢者を取り巻く環境がわかる。
4. 高齢者に関連した保健医療福祉制度の現状と課題がわかる。

【授業の概要】

高齢者の自我発達に基本を置いたうえで、高齢者の身体的・心理的・社会的特徴や社会情勢の変化にともなう高齢者の生活の変化について学ぶ。さらに高齢者個々の状況に応じた看護の必要性や老年看護の理念や役割を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

グループワークや演習を行い考えや学びを共有する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	高齢者の理解 1. 人間発達論における老年期 ・ 人間発達論・発達段階・発達課題からとらえた老年期 2. 老いを生きることの意味 3. 加齢と健康 ・ 老性変化 ・ 加齢と疾病	永田	
第 2 回	高齢者体験		
第 3 回	高齢者をとりまく社会状況 1. 人口構成と政策 2. 社会的課題 ・ 経済状況 ・ 高齢者の孤立 ・ 差別と虐待 ・ ノーマライゼーション		社会福祉の 該当授業の 実施後に計 画する。
第 4 回	高齢者をとりまく社会制度 1. 社会制度 ・ 高齢者に関する保健・医療・福祉の変遷 ・ 医療保険制度 ・ 高齢化と医療制度		

回数	内容（方法）	講師	備考
	2. 社会制度 ・介護保険制度 ・介護保険制度の仕組みと動向 3. 地域活動 ・介護予防への転換		
第5回	高齢者の生活の実態（演習1）		
第6回	老年看護の理念と目標 ・老年者の自我発達の特徴 ・生かし生かされる地域づくり ・（高齢者の学習支援理論（ジェロゴジー））		
第7回	高齢者の尊厳を支える看護師の倫理的態度 倫理的課題と法的整備		
第8回	老年看護の対象理解 1. 高齢者特性 2. からだ 3. こころ 4. かかわり 5. 暮らし 6. 生きがい		
第9回	対象理解のための5つの側面の把握 ・健康歴 ・生活リズムと生活習慣 ・日常生活機能 ・生活環境 ・生きがい ・日々の役割、社会参加状況		
第10回	高齢者の生活の実態（演習2）		
第11回	高齢者の生活機能のアセスメント 1. ICF（国際生活機能分類） 2. 高齢者総合機能評価（CGA） 3. 基本的日常生活動作（BADL）と手段的日常生活動作（IADL） 4. 認知機能のアセスメント		
第12回	老年看護に活用できる理論 1. サクセスフルエイジング 2. ウェルネスアプローチ		
第13回	老年看護に活用できる理論 3. コンフォート 4. レジリエンス 5. エンパワメント		
第14回	高齢者の地域生活を支える多職種協働・連携 1. 予防のための多職種協働・連携 2. 療養生活のための多職種協働・連携 3. 地域包括ケアシステムの構築に向けた協働・連携		
第15回	まとめ、終了試験（45分）		

【試験・課題等の内容】

高齢者の理解を深めるために高齢者のライフサイクルや特徴を調べる課題等を示す。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

看護学テキスト NiCE 老年看護学概論改訂第3版～「老いを生きる」を支えることとは～（南江堂）

国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向 2022/2023（厚生労働統計協会）

【参考文献】

最新 老年看護学 第3版 水野敏子、水谷信子著

【授業外における学修方法及び時間】

次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】 老年看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】 1 単位・30 時間
【担当講師】 永田歩	【開講時期】 2 学期
【所属・職位等】 専任教員	【配当年次】 1 年次
	【実務経験】 看護師 18 年

【授業における到達目標】

老年期特有の生活機能障害をアセスメントし高齢者の健康生活を支援する援助方法がわかる。

【授業の概要】

高齢者に生じる特有の生活機能障害を取り上げて、アセスメントと予防・補完・代替・調整の視点で高齢者の自立を目指した具体的な援助方法を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

講義で示す事例から生活機能を整える援助について考えを述べる機会をつくる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
第1回	高齢者の生活と看護 1. 加齢変化による生活への影響 2. 高齢者のもつ能力（顕在的・潜在的）のアセスメント 3. 高齢者の健康生活の維持（向上）を支援する看護	永田	
第2回	高齢者の食生活を支える看護 ・ 高齢者における食事とは ・ 高齢者の摂食機能の特徴 ・ 高齢者の食生活の特性と生活への影響		
第3回	高齢者の食生活を支える看護（演習） ・ 高齢者の食生活を支援する上でのアセスメントと看護 ・ 口腔ケア（義歯ケア）、ポジショニング、食形態		
第4回	高齢者の排泄を支える看護 ・ 高齢者における排泄とは ・ 高齢者の排尿・排便の特徴と生活への影響 ・ 高齢者の排尿・排便のアセスメントと看護		
第5回	高齢者の排泄を支える看護（演習） ・ 高齢者のおむつ交換		
第6回	高齢者の動作と移動 ・ 高齢者における動作と移動とは ・ 動作と移動の特徴 ・ 動作・移動能力に影響する要因 高齢者に特有な症候と看護 ・ 起立・歩行障害 ・ 感覚機能障害		
第7回	高齢者の防御機能を支える看護（転倒予防ケア） ・ 高齢者の転倒の原因と転倒による生活への影響 ・ 高齢者の転倒の現状		

回数	内容（方法）	講師	備考
	・高齢者の転倒や転落を予防する看護		
第 8 回	高齢者の防御機能を支える看護（スキンケア） ・高齢者に皮膚の特徴と生活への影響 ・高齢者の褥瘡発生の原因 ・高齢者の日常的なスキンケアと専門的（褥瘡）のスキンケア ・褥瘡予防ケア		
第 9 回	高齢者の防御機能を支える看護（感染症） ・高齢者の感染に対する身体特性と行動特性（セルフケア） ・高齢者によくみられる感染症 ・高齢者の感染発生予防ケア ・施設における感染管理		
第 10 回	高齢者の生活リズムを整える看護 ・高齢者の生活リズムの特性と生活への影響 ・高齢者の生活リズムを捉える看護について		
第 11 回	高齢者における性 ・高齢者における性とは ・高齢者の性の特徴 ・高齢者の性機能に影響する要因 高齢者に特有な症候と看護 ・老年症候群にみられる特有の症状と看護		
第 12 回	家族の機能と家族への看護 ・日本の家族形態の変遷 ・介護家族にかかわる看護職者の視点 ・家族介護者の健康と介護力		
第 13 回	受療形態に応じた高齢者への看護 ・入院時 ・退院時 ・外来診療時 ・検査時		
第 14 回	介護保険制度を活用した退院後の生活調整 ・介護負担軽減に向けた社会資源の活用 ・退院調整と退院支援		
第 15 回	高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族への支援		
	終了試験 (45 分)		

【科目関連及び進度について】

解剖生理学で学習した知識を活かしながら高齢者の身体機能と生活に及ぼす影響を理解する。

【試験・課題等の内容】

終講後に試験を実施する。

【評価方法】

終了試験（筆記）100%

【テキスト】

看護学テキスト NiCE 老年看護学概論改訂第 3 版～「老いを生きる」を支えることとは～（南江堂）

看護学テキスト NiCE 老年看護学技術改訂第 3 版～最後までその人らしく生きることを支援する～（南江堂）

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）

生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版（医学書院）

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴等1時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目名】 老年看護方法論Ⅱ (高齢者の急性期からの回復過程にある患者の看護^{4) 5)}、
 高齢者の認知症・うつ²⁾、認知機能に障害のある高齢者の看護³⁾、健康障害のある高齢者の看護¹⁾)
 【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)
 【担当講師】 永田歩¹⁾、河野仁彦²⁾、田上淑子³⁾、堀田真奈⁴⁾、中神雪絵⁵⁾
 【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 2 年
 【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 医療法人一誠会 都城新生病院院長 3) 社会医療法人如月会若草
 病院理事 在宅部門部長
 4) 5) 都城医療センター看護師
 【実務経験】 1) 看護師 18 年

【授業における到達目標】

健康障害をもつ高齢者及びその家族が「もてる力」を活かし、その人らしい生活を支える援助を理解する。

【授業の概要】

本授業では、老年看護学概論や老年看護方法論Ⅰにて学習した高齢者の特徴や高齢者に応じた生活支援の方法を土台に、高齢者の療養生活の支援の在り方について学ぶ。高齢者の経過期に応じた看護、検査・治療を受ける高齢者の看護、高齢者特有の疾患のある対象の看護について学習する。その後、演習を行い高齢者の生活を支える援助について理解を深めていく。

【アクティブ・ラーニング】

グループワークや演習で自分の考えを述べて意見交換する。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	高齢者の急性期から回復過程にある患者の看護	経過期に応じた看護 ①急性期にある高齢者の看護 ・ 高齢者の疾患の特徴と急性期 ・ 回復期へとつなぐ看護 ・ 手術療法と看護 ・ 術前、術中、術後の看護 ・ 術後せん妄 ②回復期にある高齢者の看護 ・ 回復期の高齢者看護の特徴 (大腿骨頸部骨折) ・ 生活機能の維持と向上 ・ リハビリテーションを受ける高齢者の援助	堀田	

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第2回		<p>経過期に応じた看護</p> <p>③慢性期にある高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の慢性疾患の特徴（慢性閉塞性肺疾患） ・ 異常の早期発見、早期対応 ・ 治療継続と生活習慣の変容を支援する体制づくり <p>④終末期にある高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “老い”と死 ・ 終末期を迎える準備 ・ エンド・オブ・ライフ・ケア ・ 高齢者の看取り 	中神	
第3回	高齢者の急性期から回復過程にある患者の看護	<p>在宅療養移行時の看護</p> <p>①退院支援・退院調整</p> <p>②地域における多職種連携</p> <p>③意思決定支援</p>		
第4回	高齢者の認知症・うつ	<p>高齢者特有の疾患</p> <p>①認知症の病態・症状</p> <p>②脳血管性認知症、アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、ピック病</p>	河野	
第5回		<p>高齢者特有の疾患</p> <p>①精神障害</p> <p>②うつ</p>		
第6回	認知機能に障害のある高齢者の看護	<p>高齢者特有の疾患のある対象の看護</p> <p>①認知症高齢者の看護</p> <p>②高齢者のうつと看護</p>	田上	
第7回				
第8回	健康障害のある高齢者の看護	<p>治療を受ける高齢者の看護</p> <p>①安全・安楽な検査・治療の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢による検査結果への影響 ・ 検査を受ける高齢者への身体機能・認知機能に応じた援助 <p>②薬物療法を受ける高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の薬物動態の特徴 ・ 高齢者の服薬行動の特徴 ・ ポリファーマシー ・ 身体機能・認知機能に応じた服薬管理支援 	永田	

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第 9 回		高齢者特有の疾患のある対象の看護 ・脳血管疾患後遺症 脳血管疾患後遺症のある患者の看護【看護過程の展開】 情報収集		
第 10 回		脳血管疾患後遺症のある患者の看護【看護過程の展開】 情報収集・情報の分析		
第 11 回		脳血管疾患後遺症のある患者の看護【看護過程の展開】 情報の分析 ICF の視点で対象のもてる力を把握		
第 12 回		脳血管疾患後遺症のある患者の看護【看護過程の展開】 全体像把握、看護診断		
第 13 回		脳血管疾患後遺症のある患者の看護【看護過程の展開】 看護目標、看護計画立案 もてる力を活かした看護計画について		
第 14 ・ 15 回		脳血管疾患後遺症のある患者の看護 【演習】 もてる力を活かした看護の実践 脳血管疾患後遺症患者の自宅退院へ向けた生活支援		
		終了試験 (45 分)		

【試験・課題等の内容】

- ・講義の学びを深めるために事前学習を行う。

【評価方法】

- ・高齢者の急性期から回復過程にある患者の看護：終了試験 20 点
- ・健康障害のある高齢者の看護：終了試験 25 点+看護過程レポート 25 点（50 点）
- ・高齢者の認知症・うつ：終了試験 15 点
- ・認知機能に障害のある高齢者の看護：終了試験 15 点

【テキスト】

老年看護学概論（改訂版第 4 版）「老いを生きる」を支えることとは 南江堂

老年看護学技術（改訂版第 4 版）最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂

【参考文献】

生活機能からみた老年看護過程 + 病態・生活機能関連図 医学書院

病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

授業の振り返りと次回の授業の準備で毎回 1 時間ほどの時間を要する

専門分野

【科目】小児看護学概論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】今田南生人	【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師11年	

【授業における到達目標】

- ・小児各期における発達段階の特徴と、小児及び家族を取り巻く環境を理解できる。
- ・小児看護における看護師の役割について理解できる。

【授業の概要】

健康な小児の成長・発達について理解し、児が健やかに育つための支援について児と家族の特徴をふまえて理解できるよう教授する。講義では、VTR等も用いて児と家族がイメージできるように授業を行っていく。

【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークや生活援助に必要な看護技術を体験し、全体発表・検討会を行う。
- ・授業においては、自らの考えを述べる機会や他者の考えを聞く機会を設ける。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
1回目	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の変遷と小児看護の役割 3. 子どもの権利 4. 子どもの学び	週に1回のペースで計画する
2回目	1. 諸統計からみた小児と家族の健康課題 2. 小児と家族を取り巻く環境や施策 3. 子どもの健康増進のための社会資源の活用	
3・4回目	子どもの成長・発達（乳児期） ・形態的特徴 ・生理的特徴 ・感覚機能	
5・6回目	子どもの成長・発達（乳児期） ・運動機能 ・情緒、社会的機能	
7回目	乳児期の子どもの成長発達を支援する援助 ・日常生活の世話 ・遊び ・事故防止	
8回目	子どもの成長・発達（幼児期） ・運動機能 ・知的機能 ・言語の発達 ・情緒、社会的機能 ・遊びの発達と社会性	
9回目	学童期・思春期の健康問題の特徴と発達への課題	
10・11回目	小児各期における健康増進のための看護④ ・セルフケアと保健教育 (齲歯予防、近視予防、生活習慣病予防) 小児各期における問題行動の防止 ・メディア利用の影響 ・喫煙・飲酒の防止 ・いじめ・校内暴力の防止 ・自殺防止	・調べ学習 ・発表資料作成 ・プレゼンテーション ・意見交換

回数	内容・方法	備考
12 回目	小児を取り巻く家族の特徴 ・統計データからみる家族の特徴 ・社会と家族の相互作用 ・システムとしての家族	
13 回目	ヤングケアラーについて	
14 回目	小児看護における倫理 小児看護における倫理的課題と看護	
15 回目	まとめ 終了試験(45 分)	

【科目関連及び進度】

看護学概論や専門分野Ⅰの知識をもとに小児看護学について学ぶ。また、本科目における学びは、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱと関連させて、発展させる。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

筆記試験（配点：100 点）

【テキスト】

小児看護学Ⅰ－小児看護学概論・小児看護技術－ 改訂第4版（南江堂）
国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
国民福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】※15 時間

1. 小児看護学に関するナーシングチャンネルを事前に視聴する。
2. DVDを視聴し、小児の成長・発達についてイメージ化して理解する。
「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～0 歳児」
「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～1・2 歳児」
「乳幼児の発達と保育～こころとからだを育てるあそびの環境～3・4・5 歳児」
3. 生活援助に必要な看護技術に向けた課題への取り組み

専門分野

【科目】小児看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】入江 慎二	【開講時期】第1学期
【配当年次】2年	
【所属・職位等】都城医療センター周産期・母子医療副センター長、新生児集中治療室長	

【授業における到達目標】

小児の成長・発達及び各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

【授業の概要】

小児の正常な身体の成長・発達をふまえ、小児に特有の各疾患の病態・症状・診断・治療について教授し、小児看護学方法論Ⅱで学ぶ健康障害をもつ小児の看護につなげていく。

【アクティブラーニング】

- ・小児の成長・発達や解剖生理を想起しながら理解し、小児特有の疾患の学びにつなげる。
- ・事前学習を行い、授業で自発的に質疑する。

【授業計画】

回数	内容（方法）	講師	備考
1回目	正常な身体の成長・発達、形態的・機能的発達		週に1回のペースで講義を計画する。
2回目	呼吸器系疾患：肺炎		
3回目	感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎		
4回目	感染症：急性灰白髄炎、流行性髄膜炎、手足口病		
5回目	膠原病・アレルギー疾患：小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎		
6回目	循環器系疾患：ファロー四徴症、川崎病、乳幼児突然死症候群		
7回目	代謝系疾患：Ⅰ型小児糖尿病		
8回目	腎・泌尿器系疾患：ネフローゼ症候群、ウィルムス腫瘍		
9回目	運動器系疾患：先天性股関節脱臼		
10回目	内分泌系疾患：成長ホルモン分泌不全性低身長症		
11回目	血液・造血器系疾患：血友病		
12回目	脳神経系疾患：脳性麻痺		
13回目	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常：ダウン症候群		
14回目	精神疾患：発達障害、神経症性障害		
15回目	事故・外傷：頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症		
	終了試験(45分)		

【科目関連及び進度】

小児看護学概論で学んだ小児の成長・発達に関する知識や、解剖学や病理学での知識と関連させて学ぶ。なお、本科目における知識は小児看護学方法論Ⅱで活用する。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験（配点：100点）

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院

【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】※15時間（900分）

1. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病について理解する。
Vol.1 喘息発作で入院した小児の看護事例
Vol.3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例
Vol.5 川崎病で入院した小児の看護事例
2. 小児に特有な各疾患の病態・症状・診断・治療の理解を深めるための学習

専門分野

【科目】 小児看護方法論Ⅱ (健康障害のある小児の看護^{1) 2) 3) 5) 6)}、
小児におけるフィジカルアセスメントと看護^{1) 4)}、検査・治療を受ける小児の看護¹⁾
【単位数・時間】 2単位 (45 時間)
【担当講師】 今田南生人¹⁾、福丸和也²⁾、田中有希³⁾、三島友里恵⁴⁾、永迫里奈⁵⁾、加藤友章⁶⁾、
山田恵⁷⁾
【開講時期】 通年 【配当年次】 2 年
【所属・職位等】 1) 専任教員 2) 都城医療センター看護師副看護師長 3) 4) 5) 都城医療センター
看護師
6) 宮崎病院副看護師長 6) 都城医療センター新生児集中ケア認定看護師
【実務経験】 1) 看護師 11 年

【授業における到達目標】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴と必要な看護について理解できる。

【授業の概要】

成長・発達及び健康障害のある小児と家族の特徴について、代表的な疾患を用いながら講義・演習を交えて授業を展開する。各疾患については、小児看護方法論Ⅰで学んだことを活用し、VTR等も用いて健康障害をもつ小児をイメージ化できるように授業を行っていく。

【アクティブラーニング】

事例を用いたグループディスカッションや発表、ロールプレイをとおして、自ら思考したり、他者の意見を聞いたりすることで学習を深められるよう進める。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	担当	備考
1	健康障害のある小児の看護	病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護 入院中の子どもと家族の看護	今田	週に1回のペースで講義を計画する。
		地域、外来、病院における看護と保健・医療・福祉システム 看護・他職種の役割と連携		
2		・外来における看護 ・在宅療養中の小児と家族の看護 先天的な問題を持つ患児と家族の看護	三島	
3		小児の急性期における看護 ・手術を受ける患児と家族の看護	田中	
4		小児の慢性期における看護 ・喘息をもつ患児と家族の看護		
5		小児の終末期における看護 ・白血病の患児と家族の看護		
6		低出生体重児と家族の看護 ・NICU・GCU に入院している患児の特徴 胎外生活適応促進に向けた看護 ディベロップメンタルケア ・NICU・GCU に入院している患児の家族の特徴と看護	永迫	
7	重症心身障害児（者）とその家族の看護	加藤		

回数	単元	内容（方法）	担当	備考
8		重症心身障害児（者）とその家族の看護（校外実習）		
9		健康障害のある小児の看護（看護過程の展開） ネフローゼ症候群の患児の看護 ・小児の看護過程とは ・行動のアセスメント	今田	19 回目講義終了後から計画可。 12 回目はロールプレイを行うため、教員 4 名が演習で指導できるよう調整する。
10		健康障害のある小児の看護（看護過程の展開） ・事例の全体像の把握 ・看護診断・看護計画の立案		
11		健康障害のある小児の看護（看護過程の展開） ・腎生検を受ける患児の看護		
12		健康障害のある小児の看護（看護過程の展開） ・プレパレーションを取り入れた検査時の援助（演習）		
13	終了試験（45 分）			
14	小児における トと看護 フィジカル アセスメン	小児のフィジカルアセスメントと看護 ・小起こりやすい症状（発熱、痙攣）のアセスメントと看護	福丸	1 回目講義終了後から計画可。 14・16・18 回目は講義、 15・17・19 回目は演習とする。
15			今田	
16		小児に起こりやすい症状のアセスメントと看護 ・起こりやすい症状（脱水、嘔吐、下痢）のアセスメントと看護	福丸	
17			今田	
18		小児に起こりやすい症状のアセスメントと看護 ・起こりやすい症状（呼吸困難、痛み）のアセスメントと看護	福丸	
19			今田	
20	検査・ 看護 治療を受ける 小児	検査・処置を受ける小児の看護 ・与薬（経口投与、持続点滴） ・吸入（演習）	今田	5 回目講義終了後から計画可。 「看護技術Ⅴ」 与薬、検査時の 看護の終了後に計画。
21		検査・処置を受ける小児の看護 ・腰椎穿刺 ・骨髄穿刺 ・吸引（演習）		
22		子どもの成長・発達を促す遊びの援助（演習、ロールプレイ）		
23		先天異常のある患児の看護・家族の看護		
	終了試験(45 分)			

【科目関連及び進度】

小児看護学方法論Ⅰ 3 回目終了後から本科目を開始し、小児特有の疾患と関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

【評価方法】

単元① 100 点と単元②③で 100 点の合計 200 点満点を 100 点換算とする。

単元：①健康障害のある小児の看護（配点：100 点）

単元：②小児におけるフィジカルアセスメントと看護（配点：60 点）

単元：③検査・治療を受ける小児の看護（配点：40 点）

【テキスト】

小児看護学Ⅰ—小児看護学概論・小児看護技術—改訂第4版(南江堂)

小児看護学Ⅱ—小児看護支援論—改訂第4版(南江堂)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 次回の授業に対する事前課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

2. 小児看護学に関するナーシングチャンネルを事前に視聴する。

3. DVDを視聴し、気管支喘息の患児の看護、川崎病の患児の看護について理解する。

Vol. 1 喘息発作で入院した小児の看護事例 Vol. 3 急性胃腸炎で入院した小児の看護事例

Vol. 5 川崎病で入院した小児の看護事例

【科目】母性看護学概論	【単位数・時間】1 単位(30 時間)
【担当講師】内村美子	【開講時期】第 2 学期
【所属・職位等】元鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校副学校長	【配当年次】1 年

【授業における到達目標】

1. 母性の概念と母性看護の役割を理解できる。
2. 母性各期の特徴を理解し、健康の保持増進のための保健の必要性を理解できる。
3. 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。

【授業の概要】

広い視野で母性看護の役割や生命倫理について学べるように教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・文献やニュース等の事例を用いてグループワーク (GW) を行い、意見交換を行うことで、全体発表・検討会を行い、様々な視野や考え方の理解を深める。
- ・授業においては、自らの考えを発言する機会を設定し、他者の意見も聞き、視野を広げられるように進める。

授業計画

時間	学習内容	学習方法
1	I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性とは 1) 母性の概念 2) 親になること	講義
2	I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性とは 3) 親子の結びつき理論 4) 家族発達 2. 看護学における母性看護学の位置づけ	講義
3	I. 母性看護の基盤となる概念 3. セクシュアリティ 1) 人間の性 2) 性的マイノリティ	講義
4	4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性看護における安全・事故防止	講義
5	II. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護の歴史的変遷 1) 母性看護の起源 2) 公衆衛生的活動の開始 3) 母子保健の基盤整備 4) 近代社会と母性看護	講義

6	II. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 2. 母子保健統計の動向 1) 出生 2) 死亡(死産、周産期死亡、妊産婦死亡、乳児死亡) 3) 人工妊娠中絶	講義
7	5. 母性看護における倫理 1) 不妊と看護 2) 性と生殖に関する倫理的問題 (生殖補助医療、着床前・出生前診断、先天異常、人工妊娠中絶) 3) 倫理上の問題に対する看護職者の役割	講義
8	4) 性と生殖における倫理的問題	GW
9	3. 母性看護に関する組織と法律 1) 主な組織 2) 法律(母子保健法、児童福祉法、母体保護法、労働基準法、戸籍法、死産の届け出に関する規程等) 3) 母性看護の場と職種 4. 災害時の母性にかかわる看護	講義
10	III. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護 1. 思春期の看護 身体的特徴 月経と女性ホルモン 基礎体温と月経周期	講義 GW
11		
12	2) 心理・社会的特徴 3) 思春期における健康教育(初経準備教育、月経教育、性教育) 4) 健康問題(月経異常、性感染症、人工妊娠中絶、摂食障害、貧血)と看護	講義
13	III. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護 2. 成熟期の看護 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴(結婚、出産、育児、就業) 3) 成熟期における健康教育 4) 健康問題(月経随伴症状、月経困難症、生殖器悪性腫瘍)と看護	講義
14	III. 女性のライフサイクル各期の健康問題と看護 3. 更年期の看護 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴(空の巣症候群) 3) 健康問題(更年期障害、尿失禁、骨粗鬆症、うつ)と看護 4. 老年期の看護 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴 3) 健康問題(生殖器悪性腫瘍、精神疾患)と看護	講義
15	IV. リプロダクティブヘルス/ライツに関するケア 1. 家族計画 2. 人工妊娠中絶 3. 性感染症 4. AIDS 5. ドメスティックバイオレンス 6. 児童虐待	講義 GW

	終了試験	
--	------	--

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰの知識をもとに母性看護学を学ぶが、母子関係や思春期については小児看護学との関連、女性のライフサイクル各期の特徴と看護は、成人看護学および老年看護学と関連する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 80% 課題レポート 20%

【テキスト】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社

【参考文献】

病気が見える(9)婦人科・乳腺外科 メディックメディア
病気が見える(10)産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

- ・講義内容に関連したナーシングチャンネルの視聴
- ・次回の授業に対する事前の課題や内容を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】母性看護学方法論Ⅰ(妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護 ¹⁾ 、 新生児期の特徴とその看護 ²⁾ 、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護 ³⁾)	
【単位数・時間】2単位(45時間)	
【担当講師】西畑久美子 ¹⁾ 山田恵 ²⁾ 一柳明日香 ³⁾	
【開講時期】第1学期	
【配当年次】2年	
【所属・職位等】1)みまた助産院 助産師 2) 都城医療センター新生児集中ケア認定看護師 3)専任教員	
【実務経験】3)看護師7年	

【授業における到達目標】

正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥・新生児期の特徴と看護について理解する。また、母子愛着形成や新たな役割獲得に向けた支援について理解する。

【授業の概要】

妊娠・分娩・産褥期における身体的・心理的・社会的特徴と看護、新生児の生理的特徴と看護について教授する。また、母性看護学における対象理解と必要な看護について考えるため看護過程を展開し、母親のセルフマネジメントを支援するための学習支援について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

- ・母性看護学概論における学びを想起し、事例を用いながら学びを深め、グループワークや発表において自発的に質疑する。
- ・他者の学びや意見を聞くことで、自身の視野を広げられるよう意見交換を取り入れる。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	備考
1	妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護	1. 妊娠期の身体的特徴 1) 妊娠の生理 2) 妊娠の成立 3) 胎児の発育とその生理および付属物 4) 妊婦の身体的変化	西畑	
2		2. 妊婦の理解と看護 1) 妊娠期の心理・社会的特性 (1)妊婦の心理 (2)妊婦と家族・社会		
3		2) 妊婦と胎児のアセスメント (1)妊娠の経過と診断 (2)胎児の発育と健康状態診断 (3)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (4)妊娠期のアセスメントの重要性		
4		3) 妊婦と家族の看護 (1)妊婦の保健相談 (2)妊婦の保健相談の実際 (3)親になる為の準備教育		
5		3. 分娩の要素 1) 分娩とは 2) 分娩の3要素		
6		3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
7	妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護	4. 産婦の理解と看護 1) 分娩の経過 (1)分娩の進行と産婦の身体的変化 (2)産痛 (3)胎児に及ぼす影響 (4)産婦の心理社会的変化 2)産婦・胎児・家族のアセスメント (1)産婦と胎児の健康状態アセスメント (2)産婦と家族の心理社会面のアセスメント (3)産婦・家族における看護上問題点の明確化	西畑	
8		3)産婦と家族の看護 (1)産婦のニードと看護目標 (2)安全分娩への看護 (3)安楽な分娩への看護 (4)出産体験が肯定的になるための看護 (5)基本的ニードに関する看護 (6)家族発達を促す看護 4) 分娩期の看護の実際 (1)分娩第1期の活動期の看護 (2)分娩第1期の活動期終盤の看護 (3)分娩第2期の看護 (4)分娩第3・4期の看護		
9		5. 産褥経過の理解 1) 産褥の定義 2) 産婦の復古現象 3) 乳汁分泌 4) 全身の変化		
10		6. 褥婦の理解と看護 1) 褥婦のアセスメント (1)産褥経過の診断 (2)褥婦の健康状態のアセスメント		
11		2) 褥婦と家族の看護 (1)身体機能回復及び進行性変化への看護 (2)児との関係確立への看護 (3)育児技術に関わる看護 (4)家族関係再構築への看護 3) 退院後の看護 (1)育児不安と育児支援 (2)職場復帰		
終了試験（妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護）(45 分)				
12	新生児の特徴とその看護	7. 新生児の生理 1) 新生児の生理 2) 新生児の健康診断	山田	
13		8. 新生児の理解と看護 1) 新生児のアセスメント (1)新生児の診断 (2)新生児の健康状態のアセスメント		
14		2) 新生児の看護 (1)出生直後の看護 (2)出生後から退院までの看護		

回数	単元	内容・方法	講師	備考
15	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の看護	1. 母性看護学における看護の特徴 1) ウェルネス診断 2) セルフケア確立に向けた援助 3) 愛着形成・役割獲得に向けた看護目標・看護計画	一柳	
16		2. 妊娠期の看護 1) 妊婦のアセスメント * 正常な経過と比較し、正常な経過をたどっているか ハイリスク要素があるかを検討する。		
17		2) 妊娠期の看護計画立案		
18		3) 妊婦の看護（演習） ※技術演習 レオボルド触診法 腹囲・子宮底測定		演習を行うため、実習室で教授する。
19		3. 分娩期の看護 1) 産婦のアセスメント 2) 産婦の看護		
20		4. 産褥期・新生児の看護 1) 褥婦のアセスメント 2) 新生児のアセスメント 3) 褥婦と新生児の看護		
21		新生児の沐浴（演習）		演習を行うため、教員3名で指導する。 クラスをAクラス・Bクラスの2グループに分けて実施。
22		産褥5日目の母乳育児指導（ロールプレイ） 1) 母親のニーズに合わせた育児指導 2) 学習支援（指導計画立案）		演習を行うため、実習室で教授する
23		技術チェック：沐浴（時間：1時間計上）		
終了試験（新生児の特徴とその看護、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護）(45分)				

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。
- ・グループディスカッションの際には事前にレポート課題を提示する。
- ・沐浴の技術チェックは、評価基準に則り、評価を行う。学生は、技術チェックについては、必ず年度内に合格する。

【評価方法】

①100点と②③100点の200点満点の100点換算とする。

単元：①妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護一筆記試験（配点：100点）

単元：②新生児の特徴とその看護一筆記試験（配点：30点）

単元：③妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護―（配点:70 点）

【テキスト】

新体系看護学全書 母性看護概論／ウィメンズヘルスと看護 母性看護学① メヂカルフレンド社
新体系看護学全書マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② メヂカルフレンド社
母性看護学Ⅱ(周産期各論)質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版株式会社
根拠と事故防止からみた 母性看護技術 医学書院

【参考文献】

写真でわかる母性看護技術 インターメディカ
病気が見える (9) 婦人科・乳腺外科 メディックメディア
病気が見える (10) 産科 メディックメディア
ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版
ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回 1 時間程度の事前学習を要する。
- ・ ナーシングチャンネルの視聴

専門分野

【科目】母性看護方法論Ⅱ（異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム¹⁾、異常な妊娠・分娩・産褥の看護^{2) 3)}）
 【単位数・】1単位(30時間) 【担当講師】古田 賢¹⁾ 甲斐小百合²⁾ 小野純佳³⁾
 【開講時期】第2学期 【配当年次】2年
 【所属・職位等】1)都城医療センター産婦人科医師 2)3)都城医療センター助産師

【授業における到達目標】

妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常な経過をたどる対象を理解し、適切な看護の知識と援助方法を学ぶ。

【授業の概要】

遺伝相談と看護、不妊治療と看護、妊娠の異常と看護、分娩の異常と看護、新生児の異常と看護、産褥の異常と看護、児を亡くした褥婦と家族の看護、精神障害がある妊婦・産婦・褥婦の看護、継続看護（妊娠期から産褥期にかけて）を教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・母性看護学概論における学びを想起し、事例を用いながら学びを深め、グループワークや発表において自発的に質疑する。
- ・他者の学びや意見を聞くことで、自身の視野を広げられるよう意見交換を取り入れる。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法	講師	
1	異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム	1.遺伝相談 1)遺伝相談とは 2)出生前診断 3)出生前診断の実際 4)着床前診断 5)胎児治療と遺伝子治療 2.不妊治療 1)不妊とその原因 2)不妊検査 3)不妊治療	古田	母性看護方法論Ⅰ（妊娠期・分娩期・産褥期の特徴とその看護）が終了後から開始 週1回目のペース
2		3.妊娠の異常 1)ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2)妊娠期の感染症 3)妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)妊娠合併症 7)子宮外妊娠 8)胎児および附属物の異常		
3		4.分娩の異常 1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害(胎位・胎向・回旋の異常) 4)胎児の付属物の異常 5)分娩時損傷 6)分娩第3期および分娩直後の異常 7)分娩時異常出血と処置 8)産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)		

回数	単元	内容・方法	講師	
4		5.新生児の異常 1)新生児仮死 2)新生児呼吸窮迫症候群 3)分娩外傷 4)低出生体重児 5)新生児溶血性黄疸		
5		6.産褥の異常 1)産褥熱 2)支給復古不全 3)乳房・乳頭の異常 4)産褥血栓症 5)精神障害		
6	異常な妊娠・分娩・産褥の看護	1. 遺伝相談と看護 1)出生前診断を受ける人への看護 2. 不妊治療と看護 1)不妊治療を受けている対象の心理・社会的特徴 2)不妊夫婦の看護	小野 甲斐	1回目が終了後
7・8		3. 妊娠の異常と看護 1)ハイリスク妊娠(妊娠糖尿病を含む) 2)妊娠期の感染症 3)妊娠疾患(妊娠悪阻を含む) 4)多胎妊娠 5)妊娠持続期間の異常 6)妊娠合併症 7)子宮外妊娠 8)胎児および附属物の異常		2回目が終了後
9・10		4. 分娩の異常と看護 1)分娩の異常時の看護 2)産科処置と手術(分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、帝王切開術)時の看護 3)異常のある産婦の看護 (1)破水が生じた産婦の看護(前期破水) (2)分娩遷延のリスクがある産婦の看護 (3)胎児ジストレスを生じる恐れのある産婦の看護 (4)急速遂娩の産婦の看護 (5)緊急帝王切開を受ける産婦の看護 (6)分娩時異常出血のある産婦の看護		3回目が終了後
11		5. 帝王切開を受ける対象の看護 1)妊娠期(産前) 2)手術中 3)産褥期(術後)		4回目が終了後
12		6. 新生児の異常と看護 1)新生児仮死 2)分娩外傷 3)低出生体重児 4)高ビリルビン血症		5回目が終了後
13		7. 産褥期の異常と看護 1)産褥熱 2)子宮復古不全 3)乳房・乳頭の異常 4)産褥血栓症 5)精神障害		6回目が終了後
14		8. 児をなくした産婦・家族の看護 1)グリーフケア 9. 精神障害がある妊婦・産婦・産婦の看護 1)マタニティーブルーズ 2)産後うつ病		

回数	単元	内容・方法	講師	
15		10. 継続看護(妊娠期から産褥期にかけて) 1) 女性のライフサイクルと周産期の看護 2) 妊娠・分娩・産褥期の継続看護		
		終了試験(45 分)		

【科目関連及び進度について】

専門分野Ⅰ及び母性看護学概論の学びを想起し、母性看護方法論Ⅰ・Ⅱに関連させて学ぶ。
産後うつ病については、精神看護学方法論の学びに関連させて学ぶ。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元: 異常な妊娠・分娩・産褥のメカニズム—筆記試験(配点: 30 点)

単元: 異常な妊娠・分娩・産褥の看護—筆記試験(配点: 70 点)

【テキスト】

新体系看護学全書マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 母性看護学② メヂカルフレンド社
母性看護学Ⅱ(周産期各論)質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得 医歯薬出版株式会社
根拠と事故防止からみた 母性看護技術 医学書院

【参考文献】

病気が見える(9) 婦人科・乳腺外科 メディックメディア
病気が見える(10) 産科 メディックメディア

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門分野

【科目】精神看護学概論	【単位数・時間】1 単位・15 時間
【担当講師】田上 博喜	【開講時期】2 学期
【所属・職位等】国立大学法人 宮崎大学医学部看護学科 教授	【配当年次】1 年次

【授業における到達目標】

1. 精神（心）の健康について、脳の構造・機能や精神分析理論から説明できる。
2. ライフサイクル各期におこりやすい精神保健上の問題を説明できる。
3. 現代社会における精神保健上の主な問題と社会・環境との関係について説明できる。
4. ストレス反応・危機理論について説明できる。
5. 精神科医療において起こりやすい患者の人権と倫理的問題について歴史的経緯や法律・制度に関連付けて説明できる。

【授業の概要】

精神（心）の健康について脳科学や精神分析理論、成長発達、社会・環境との関連から学習する。また精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的変遷を踏まえて人権尊重・権利擁護・リハビリテーションについて学習し精神看護実践の基礎となる考え方や態度を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

授業において、自分の考えを発言する機会をつくる。

【授業計画】

回数	内容（方法）	備考
1	1. 精神保健 1) 精神の健康 2) 精神保健の現状 3) 地域精神保健 2. 精神看護の分野 1) 精神看護の役割 2) 精神看護の専門性	
2	精神医療保健福祉の歴史	
3	精神（心）の発達 1) 自我 2) 防御機制 3) 発達理論 ・エリクソン ・マズロー	
4	家族と精神（心）の健康 1) 家族の機能 1) 現代の家族の特徴 2) 家族ライフサイクル 3) 家族システム	
5	暮らしの場と精神（心）の健康 1) 学校と精神（心）の健康	

回数	内容（方法）	備考
	いじめ、不登校 2) 職場・仕事と精神（心）の健康 過労、ハラスメント 3) 地域における生活と精神（心）の健康 虐待、ひきこもり、自殺、依存症、非行	
6	危機状況と精神（心）の健康 1) 危機理論 2) ストレスとコーピング	
7	精神障害をもつ人を守る法・制度	
8	終了試験(45 分)	

【科目関連及び進度について】

解剖生理学と心理学の終了後に開講する。

【試験・課題等の内容】

課題レポート

【評価方法】

客観試験 100 点（課題レポート評価 出席状況〔講義・演習の参加状況を含む〕）

【テキスト】

新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健（メヂカルフレンド社）

【参考文献】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎（医学書院）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習、復習や課題レポート等に講義前後 1 時間程度の学習は必要である。

【科目】精神看護方法論Ⅰ	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】河野 仁彦	【開講時期】第1学期
【所属・職位】医療法人一誠会 都城新生病院 院長	【配当年次】2年次

【授業における到達目標】

1. 主な精神疾患/障害にみられる症状・状態像が理解できる。
2. 精神疾患/障害の診断のための検査が理解できる。
3. 精神疾患/障害の特徴と治療法が理解できる。

【授業の概要】

主な精神疾患/障害の症状と状態像、主な検査と治療法を学習する。

【アクティブ・ラーニング】

授業中に発問・討議するため、自らの意見を述べる。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	1. 精神の働きと精神症状・状態像 精神症状の分類と状態像 2. 精神科的診察 1) 診察 2) 一般検査・画像検査 3) 心理検査	
第2回	3. 精神疾患/障害の診断基準・分類 4. 主な精神疾患/障害 1) 神経発達症群/神経発達障害群 2) 統合失調症スペクトラム障害	
第3回	3) 双極性障害および関連障害群 4) 抑うつ障害群 5) 不安症群/不安障害群	
第4回	6) 強迫症及び関連症群/強迫性障害及び関連障害群 7) 心的外傷およびストレス因関連障害群 8) 解離症群/解離性障害群 9) 身体症状症及び関連症群	
第5回	10) 食行動障害群及び摂食障害群 11) 睡眠-覚醒障害群 12) 物質関連障害及び嗜癖性障害群	
第6回	13) 神経認知障害群 14) パーソナリティ障害群 15) てんかん	
第7回	5. 精神疾患の主な治療法 1) 薬物療法	

回数	内容・方法	備考
	2) 電気けいれん療法 3) リハビリテーション療法 ①精神科作業療法 ②SST ③心理教育 ④精神科デイケア 4) 精神療法 ①支持的精神療法 ②認知行動療法	
8	終了試験 (45 分)	

【科目関連及び進度について】

精神看護学概論終講後に開講する。

【試験・課題等の内容】

試験範囲は、授業の全範囲

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社

【授業外における学修方法及び時間】

本単元は 30 時間の自己学習を必要とする科目である。したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野

【科目】精神看護方法論Ⅱ(精神障害をもつ人の経過に応じた看護¹⁾、
精神疾患・症状をもつ人の看護²⁾、精神障害をもつ人の特徴と看護・看護過程¹⁾)
 【単位数・時間】2単位(45時間)
 【担当講師】後藤広行¹⁾、中山秋子²⁾
 【開講時期】1学期 【配当年次】2年次
 【所属・職位等】1)専任教員 2)一般社団法人 藤元メディカルシステム藤元病院 看護部長
 【実務経験】看護師 16年

【授業における到達目標】

精神障害をもつ人とその家族と援助的な関係を形成し、その人らしい生活を送るために必要な知識と援助技術を修得する。

【授業の概要】

精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰで学習した、精神看護の基盤及び精神疾患と治療の理解を基づいて、精神看護に必要な看護の方法を学ぶ。対象と援助的な関係形成するための技術から地域社会生活への適応に向けた援助技術を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

グループワークや演習での他者との意見交換を積極的に行う。そのために必要な学習や準備して授業に臨む。

【授業計画】

単元	回数	内容・方法	講師	備考
精神障害をもつ人の経過に応じた看護	第1回	経過の特徴と看護 ・急性期 ・回復期 ・慢性期 ・退院準備期	後藤	
	第2回	行動制限を必要とする患者の看護		
	第3回	治療を受ける患者の看護 ・薬物療法 ・心理社会的療法（認知行動療法、SST）		
	第4回	治療を受ける患者の看護 ・電気けいれん療法 ・リハビリテーション療法		
	第5回	精神看護のコミュニケーション		
	第6回	精神看護における自己理解・他者理解 プロセスレコードと再構成		
	第7回	精神障害をもつ人の看護 セルフケアの援助		
	第8回	精神障害をもつ人の看護 ストレングスへの着目		

単元	回数	内容・方法	講師	備考
	第9回	リエゾン精神看護		
		終了試験 (45 分)		
精神疾患・ 症状をもつ 人の看護	第10回	精神医療におけるリスクマネジメントと権利擁護	中山	
	第11回	精神障害をもつ人の看護① 統合失調症		
	第12回	精神障害をもつ人の看護② 気分障害		
	第13回	精神障害をもつ人の看護③ 精神作用物質関連障害		
	第14回	精神障害をもつ人の看護④ ・ストレス関連障害 ・神経性障害 ・パーソナリティ障害		
	第15回	精神障害をもつ人の看護⑤ ・神経発達障害 ・てんかん		
	第16回	精神障害をもつ人の看護⑥ ・身体合併症 慢性の身体疾患をもつ患者の看護 手術療法を受ける患者の看護		
	第17回	終了試験 (45 分)		
精神障害をもつ 人の特徴と 看護・看護 過程	第18回	情報収集 ・データ収集の視点 ・観察方法	後藤	
	第19回	行動のアセスメント～ロイ適応看護モデル～		
	第20回	行動のアセスメントの実際（演習）		第19回から 2週間あける
	第21回	刺激のアセスメント		第20回から 2週間あける
	第22回	・関連図 ・看護問題（演習）		第21回から 2週間あける
	第23回	看護目標と援助計画の検討（演習）		

【科目関連及び進度について】

精神障害をもつ人の障害の理解は、脳神経の解剖生理、薬理学の知識を用いる。その人を取り巻く社会の理解は、公衆衛生、社会福祉の知識を用いる。看護過程においては本科目で新規に学習する。

【試験・課題等の内容】

随時課題レポート

【評価方法】

①100点と②③100点で200点満点の100点換算とする。

単元：①精神障害をもつ人の経過に応じた看護：配点100点

単元：②精神疾患・症状をもつ人の看護：配点50点

単元：③精神障害をもつ人の特徴と看護・看護過程：配点50点

【テキスト】

- ・新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社
- ・新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社

【参考文献】

- ・看護学テキスト NiCE 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 南江堂
- ・看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 対象の力を引き出し支える 南江堂
- ・ストレングスに基づく看護ケア テクニック編 監訳：白石裕子 看護の科学社
- ・リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 萱間真美 医学書院
- ・ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 著：シスター・カリスタ・ロイ 監訳：松本光子 医学書院
- ・セルフケア概念と看護実践 監修：南裕子 稲岡文昭 編集：粕田孝行 へるす出版

【授業外における学修方法及び時間】

45時間の自己学習を必要とする科目である。したがって、授業中に提示する課題に取り組むこと。

専門分野

【科目】看護研究	【単位数・時間】1単位(30時間)
【担当講師】山本 真由美	【開講時期】第1学期
【配当年次】2年	【所属・職位】教育主事
【実務経験】看護師 16年	

【授業における到達目標】

看護研究の意義と研究方法を理解し、看護研究に取り組み発表することができる。

【授業の概要】

1. 看護研究の意義が理解できる。
2. 研究に取り組み、研究計画書の作成、データ収集、論文作成、研究発表ができる。

【アクティブ・ラーニング】

研究チームをつくり、実際に看護研究に取り組む。

【授業計画】

回数	内容	演習
第1回	看護研究とは 研究疑問の導き	
第2回	研究疑問の焦点化	
第3回	研究倫理 看護研究のプロセス 研究計画書とは	
第4回	研究における文献検索 文献検索と文献検討	クリティーク
第5回	研究の種類と方法 調査研究 実験研究	
第6回	研究計画書作成	研究計画書作成
第7回	データ分析方法	統計処理
第8回	データ分析方法	質的データの分析
第9回	考察	
第10回	論文作成	論文作成
第11回	研究の発表、研究の講評	
第12回		研究活動

回数	内容	演習
第 13 回		研究活動
第 14 回	研究発表	
第 15 回	研究発表	

【科目関連及び進度】

本科目までに学んだ看護学の分野からテーマを決定していく。論文の記述に関しては、「日本語表現」で学んだことを活かすこと。

3 年次には、「課題研究演習」で各自、事例研究に取り組むこととなる。

【研究の進め方】

研究テーマに従いグループを編成する。各グループに指導教員が指導を担当する。

指導教員から指導を得ながら、それぞれ研究活動を行う。

【評価方法】

評価表 (ループリック評価) に基づく研究活動に対する評価 60%

課題レポート 40%

【テキスト】

看護と研究 根拠に基づいた実践 南江堂

看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理 保健・医療データの活用 実教出版

【参考文献】

黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院

新 楽しい統計学 ヘリシティ出版

看護における研究 日本看護協会出版会

【授業外における学修方法及び時間】

講義時間にグループで研究活動を行う時間もある。

専門分野

【科目】医療安全(医療事故のメカニズム¹⁾、事故防止と対策²⁾
 【単位数・時間】1 単位 (30 時間)
 【担当講師】藤内千夏¹⁾、西元智子²⁾ 【開講時期】通年 【配当年次】3 年
 【所属・職位等】1) 都城医療センター医療安全管理部副部長、2) 専任教員
 【実務経験】2) 看護師 18 年

【授業における到達目標】

1. 医療安全の基本的な考え方を理解する。
2. 看護場面で遭遇する機会が多い事故の発生要因を分析し、防止対策を考えることができる。

【授業の概要】

医療事故や医療事故訴訟に関する事例を用いて、医療安全対策としての組織的な取り組みについて学ぶ。また、医療事故の構造の総合的な理解と事故予防のためのメタ認知能力を養うために、医療事故事例の分析やりフレクションを行う。

【アクティブ・ラーニング】

事例を用いたグループワークを行い、全体で意見交換を行う。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第 1 回	医療事故のメカニズム	1. 医療安全に関する動向と基礎知識 1) 医療安全に関する法的規定 (1) 医療法 (2) 保健師助産師看護師法 2) 看護事故の構造 (1) 看護事故の構造 (2) 事故防止の考え方 3) 医療安全管理者の役割 (1) 医療安全管理者の創設と配置、位置づけ (2) 医療安全管理者の役割	藤内	
第 2 回		2. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 1) 看護委が直面する様々な職業感染と予防行動 2) 抗がん剤、放射線の被爆防止 3) ラテックスアレルギー 4) 院内暴力 3. 看護場面で起こりやすい事故 1) 診療の補助に関する場面 2) 療養上の世話における場面		
第 3 回		4. 組織的な安全管理体制への取り組み 1) 組織としての医療安全対策 2) システムとしての事故防止（具体例） 3) 重大事故発生時の医療チーム及び組織の対応 4) 厚生労働省の取り組み 5) 日本医療機能評価機構の取り組み 6) 医療品医療機器総合機構 (PMDA) の取り組み 7) 日本看護協会の取り組み 5. 医療事故後の対応 1) 医療事故の報告制度 2) 医療の質の評価		
第 4 回		6. 事故発生メカニズム 1) 事故発生メカニズム		

		(1) 人間特性：生理的特性、認知的特性、集団的特性 (2) エラーを誘発しやすい環境 7. コミュニケーションエラーによる医療事故 (1) 医療事故に関するコミュニケーションエラーとは (2) 医療現場でのコミュニケーションの特徴とエラー防止 (3) チーム STEPPS (4) I-SBAR-C を用いたコミュニケーション		
第 5 回 第 6 回		8. 事故分析の方法① 1) 時系列の構造による分析 (1) 根本原因解析 (RCA) とは (2) RCA を用いた事例分析と対策		
第 7 回 第 8 回		9. 事故分析の方法② 1) フレームワークを用いた分析 (1) 4M-4E、pm-SHELL モデルとは (2) pm-SHELL モデルを用いた事例分析と対策		
第 9 回 第 10 回	事故防止と対策	1. 危険予知トレーニング (KYT) 1) KYT 基礎 4 ラウンド法を用いた事例演習 (1) 診療の補助場面: チューブ類の管理 (点滴、経管栄養、胸腔ドレーン)	西元	
第 11 回 第 12 回		2. 危険予知トレーニング (KYT) 1) KYT 基礎 4 ラウンド法を用いた事例演習 (1) 診療の補助場面: 与薬		
第 13 回 第 14 回		3. 危険予知トレーニング (KYT) 1) KYT 基礎 4 ラウンド法を用いた事例演習 (1) 診療の補助場面: 輸血 (2) 療養上の世話場面: 入浴場面、摂食中の窒息・誤嚥		
第 15 回		終了試験 (45 分) まとめ		

【科目関連及び進度について】

医療安全の概要については、看護技術Ⅰで学習しているため関連させて教授する。また、組織的な安全管理体制などについては、看護マネジメントとも関連させて教授する。
医療事故分析、対策については、看護技術Ⅰ～Ⅶ、臨床看護総論、各専門分野実習等の科目と関連させて、具体的事例を用いて教授する。

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

単元：医療事故のメカニズム—配点 50 点

単元：事故の原因分析と対策—配点 50 点

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 (医学書院)

新体系 看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント／医療安全 (メジカルフレンド)

医療安全ワークブック 第4版 (医学書院)

【参考文献】

看護の統合と実践② 医療安全（ナーシンググラフィカ）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回 1 時間程度の事前学習を要する。

専門分野

【科目】災害看護(災害看護の概念と構造²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾、対象別看護¹⁾²⁾)
 【単位数・時間】1単位 (30時間)
 【担当講師】一柳明日香¹⁾ 田上博喜²⁾ 西裕也³⁾ 後藤広行⁴⁾ 小林浩平⁵⁾
 【開講時期】第1学期 【配当年次】3年
 【所属・職位等】1)3)4)専任教員 2) 国立大学法人宮崎大学医学部看護学科 教授
 5)都城医療センター診療看護師
 【実務経験】1)看護師7年 3)看護師14年 4)看護師16年

【授業における到達目標】

我が国は多くの災害に見舞われる国であり、災害時に医療職の果たす役割は大きい。そのため、法制度、支援体制、医療体制を理解し、あらゆる対象に看護を実践するための基礎的知識を習得する。

【授業の概要】

授業開始の課題として自分の住む町に想定される災害と地域防災計画を調べ、災害を身近なものとして認識し授業に臨む。

【アクティブ・ラーニング】

課題に取り組みグループ内で発表することで、人々が災害を意識して生活していることを実感し、考えながら授業に臨んでもらいたい。また、演習では、実際に避難所でどのような準備と看護が必要となるのかを考えることで、授業で学んだ内容を紙上で実践する。

【授業計画】

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第1回	災害看護の概念と構造	災害の定義 災害時の倫理原則と課題 災害看護の役割	後藤	
第2回		災害時の医療体制、法律、政策 災害対策基本法、災害救助法、災害拠点病院		
第3回		災害と健康被害（感染症制御支援チーム等） 災害医療の支援体制 （災害派遣医療チーム：DMAT、災害派遣精神医療チーム：DPAT、災害時健康危機管理支援チーム：DHEAT）		
第4回		災害時の情報収集と連携支援システム CSCATTT		
第5回		災害各期の看護 超急性期・急性期・亜急性期の看護（トリアージ）	西	
第6回		災害時に必要な技術（演習） ・一次救命処置技術 ・トリアージ	小林	
第7回		災害各期の看護 慢性期・静穏期の看護	西	
第8回		医療機関における防災・減災 災害時の対応、アセスメント	西	
第9回		災害とこころのケア 被災者のケア、遺族のケア、支援者のケア	田上	

回数	単元	内容（方法）	講師	備考
第10回		災害対応訓練（紙上演習）	後藤	
第11回	対象別看護	要配慮者への看護 高齢者の看護 障害者の看護	一柳	
第12回		要配慮者への看護 小児への看護、妊娠婦の看護		
第13回		要配慮者への看護 継続治療が必要な人の看護 （糖尿病、慢性腎不全、慢性閉塞性肺疾患、がん）		
第14回		要配慮者への看護 継続治療が必要な人の看護（てんかん、精神障害） 在日外国人への看護 要配慮者を含むすべての被災者への看護	田上	
第15回		まとめ 終了試験（45分）		

【科目関連及び進度について】

要配慮者への看護については、成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学で学んだ看護を基盤とし、災害時の看護を考える。

【試験・課題等の内容】

講師の提示に応じて課題に取り組む

【評価方法】

単元：災害看護の概念と構造（配点 60 点）

単元：対象別看護（配点 40 点）

【テキスト】

災害看護学 看護の専門知識を統合して実践につなげる 南江堂

【参考文献】

- ・東日本大震災、熊本地震のドキュメント
- ・ナースィング・グラフィカ 看護の統合と実践③災害看護 メディカ出版

【授業外における学修方法及び時間】

1. 課題に取り組むことで、法律・政策の理解を深める。
2. 災害看護に関するナースィングチャンネルを事前に視聴する。（60 分）
3. 避難所での準備・看護について自己学習し演習に取り組む。

専門分野

【科目】看護マネジメント論(マネジメントの諸理論・法制度¹⁾、看護マネジメントの実際²⁾)

【単位数・時間】1単位(30時間)

【担当講師】山本真由美¹⁾、田中久美²⁾

【開講時期】第1学期

【配当年次】3年

【所属・職位等】1) 教育主事 2) 都城医療センター看護部長

【実務経験】看護師16年

【授業における到達目標】

看護におけるマネジメントの様々な考え方を知り、自らの考えを述べることができる。

【授業の概要】

患者/・家族に看護を提供するためには、組織的にマネジメントする必要がある、その視点を学ぶ。また、これまで学んだ知識を統合し、看護の質の保証について実践することができる。

【アクティブ・ラーニング】

課題レポートや事例を用いた検討会を行う。

【授業計画】

回数	単元	内容・方法		担当	備考
第1回	マネジメントの諸理論、法制度	マネジメントに必要な理論	マネジメントとは何か マネジメントの考え方の変遷 古典的組織論、人間関係論、近代組織論、動機づけ理論	山本	
第2回			目標による管理、システム論		
第3回			リーダーシップの各理論		
第4回			看護管理とは何か		
第5回		看護ケアのマネジメント	看護ケア提供の仕組みと機能		
第6回			患者の権利の尊重と法制度		
第7回			チーム医療と多職種連携		
第8回		看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア形成 看護専門職としての成長		
第9回	看護マネジメントの実際	看護サービスのマネジメント	看護サービスとは 組織目的達成のマネジメント	田中	第4回終了後から本単元を開始する。
第10回			看護サービス提供のしくみ 人材のマネジメント		
第11回			施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント		
第12回			情報のマネジメント 看護サービスの質の保証		
第13回		マネジメント	事例を用いた看護マネジメント(演習)	山本	

回数	単元	内容・方法		担当	備考
第 14 回		トの実際	事例を用いた看護マネジメント(演習)		
第 15 回		まとめ 終了試験 (45 分)		山本	

【科目関連及び進度】

これまで学んできた看護についての知識をもとに管理という立場で統合した学びとする。ここでの学びは、総合看護実習につながる。

【試験・課題等の内容】

課題レポートは、授業で提示する。

事例を用いた看護マネジメントに関する演習を行う。

試験は授業全般である。

【評価方法】

単元：マネジメントの諸理論、法制度（配点 50 点）

単元：看護マネジメントの実際（配点 30 点）

課題レポート（配点 20 点）

【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理 医学書院

看護の統合と実践 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社

【参考文献】

看護管理学習テキスト 看護マネジメント論 日本看護協会

【授業外における学修方法及び時間】

講義開始前に、看護師国家試験の出題基準を確認する。また、講義後には看護師国家試験の過去問を解答し課題を明確にして学習する。

専門分野

【科目】統合看護技術(多重課題への対応・複数の対象への看護 1) 2) 3) 4) 5) 6)、課題研究演習 1)
 【単位数・時間】1単位(30時間)
 【担当講師】山本真由美¹⁾、一柳明日香²⁾、濱畑まりな³⁾、大西聡美⁴⁾、田牧茉佑子⁵⁾、清唯⁶⁾
 【開講時期】第1学期 【配当年次】3年
 【所属・職位等】1)教育主事 2)専任教員 3)4)5)6)都城医療センター看護師
 【実務経験】1)看護師16年 2)看護師7年

【授業における到達目標】

1. 多重課題への対応、複数の対象への看護
 対象の状態・状況に応じて、看護技術を組み合わせ応用して提供するための考え方が理解できる。
2. 課題研究演習
 科学的根拠に基づいて、自己の看護実践を検証する。
 実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。

【授業の概要】

1. 事例から臨床判断モデルを用いて、臨床判断を高めるための判断や実践について学ぶ。
2. 臨床実習で受け持った患者の事例を取り上げ、実施した看護について事例研究を行う。

【アクティブ・ラーニング】

臨床に近い状況の設定、模擬患者及びPCタブレット端末による撮影を用いたシミュレーション教育を行い、演習後の振り返りを行うことで自己の課題を発見し改善に向けて取り組む授業である。

課題研究では、自己で研究テーマを探求し、計画的に指導をもらいながら進める。

【授業計画】

回数	単元	内容(方法)	講師	備考
1・2	多重課題への対応、複数の対象への看護	多重課題とは 多重課題発生時の対応(事例検討) 優先順位の考え方・判断基準について(事例検討)	一柳	
3		タナーの臨床判断モデルを用いた看護師の思考・判断		
4		臨床判断一気づくトレーニング		
5・6		シナリオシミュレーターを用いたシミュレーション演習 ー臨床判断演習① 気づき・成り行き予測ー		
7・8		複数患者への看護実践 ー事例の対象理解、演習課題提示ー		
9		複数患者への看護実践 ー患者の状態アセスメント・成り行きの予測・計画立案ー		
10・11		複数患者への看護実践・評価 ー模擬患者への看護実践(シミュレーション)ー	一柳 病棟看護師	
12		まとめ・終了試験	一柳	
13	課題研究演習	事例研究とは、事例研究のまとめ方	山本	
14・15		研究活動		

【科目関連及び進度について】

専門分野における学びを統合し、事例における臨床判断、臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げた事例研究について学ぶ。

【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題する。

演習課題及びレポート課題は、授業中に提示する。

【評価方法】

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 多重課題、複数の対象への看護 | 60 点 |
| 2. 課題研究演習 | 40 点 |

【テキスト】

看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社
看護学テキストシリーズ NiCE 看護と研究 根拠に基づいた実践 南江堂

【参考文献】

系統学看護講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理 医学書院
よくわかる中範囲理論（第3版）学研

【授業外における学修方法及び時間】

本科目は、統合分野であり、これまでの知識・技術を活用して学びを深めていく。よって、授業時間以外にも学習時間を確保し、主体的かつ計画的に学べるよう課題を提示する。

専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅰ（見学実習）		
【単位数・時間】日常生活援助と併せて2単位（60時間）		
【開講時期】5月	【配当年次】1年	
【担当講師】脇田由紀子	【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師27年

【授業における到達目標】

1. 患者の入院生活の実際を知る。
2. 看護師が行っている看護活動の実際について理解する。
3. 対象との接し方の基本を学ぶ。

【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅰ（見学実習）では、患者の療養生活や看護活動の実際を知り、患者の生活や看護師の役割についての理解を深める。

【実習期間】

令和7年5月28日（水）

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅰ（見学実習） 要項参照

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習前に実習内容に関する事前学習を行う。
2. 実習前に実習内容に関する看護技術の練習を行う。

専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習）		
【単位数・時間】見学実習と併せて2単位（60時間）		
【開講時期】1月	【配当年次】1年	
【担当講師】脇田 由紀子	【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師27年

【授業における到達目標】

1. 健康障害が日常生活に影響を及ぼすことを理解し、患者が必要とする日常生活援助を理解できる。
2. 患者の必要とする日常生活援助技術を原理・原則に基づいた実践と評価ができる。
3. チーム医療の一員として求められることを能動的かつ主体的に行動できる。
4. 看護者としての姿勢・態度を身につけることができる。

【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習）では、患者の必要とする援助を明らかにして、原理・原則に基づいた日常生活援助を実施し評価し、その人らしく生活することを支える援助を学ぶ。

【実習期間】

令和8年1月14日（水）～令和8年1月23日（金）

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅰ（日常生活援助実習）要項参照

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習前に実習内容、受け持ち患者の疾患、治療、看護に関する事前学習を行う。
2. 実習前に対象に必要な日常生活援助の看護技術の練習を行う。

専門分野

【科目】基礎看護学実習Ⅱ	【単位数・時間】2単位（60時間）
【開講時期】7月	【配当年次】2年
【担当講師】西元 智子	【所属・職位等】専任教員 【実務経験】看護師18年

【授業における到達目標】

1. 受け持ち患者のアセスメントができる。
2. 受け持ち患者の看護問題を明確にできる。
3. 看護計画を立案できる。
4. 患者の状態に応じた援助を実施できる。
5. 実施した看護の評価ができる。
6. 受け持ち患者との関わりから自己の傾向・課題がわかる。
7. 看護チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者を1名担当し、看護過程の思考過程を用いて対象を理解し、必要な看護を実践する。

【実習期間】

令和7年7月14日～令和7年7月25日のうち連続する8日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター

【授業計画】

詳細は、基礎看護学実習Ⅱ 要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習

専門分野

【科目】地域看護論実習Ⅰ	【単位数・時間】2単位（60時間）
【担当講師】西元 智子	【開講時期】第2学期
【配当年次】2年	【所属・職位等】専任教員
	【実務経験】看護師18年

【授業における到達目標】

1. 地域で生活する高齢者の特徴が理解できる。
2. 高齢者の生活機能（もてる力）を活かした援助が見学または一部実施ができる。
3. 高齢者に関わる保健・医療・福祉専門職の役割と機能が理解できる。
4. 多職種チームの一員であることを自覚し、看護者として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

地域で生活する高齢者の特徴を理解し、それぞれの生活状況に応じた支援や看護を学ぶ。

【実習期間】

令和7年11月25日～令和7年12月12日のうち10日間

【実習施設】

【介護老人福祉施設】	
社会福祉法人 恵愛会特別養護老人ホーム恵寿苑	都城市社会福祉事業団特別養護老人ホーム 白寿園
社会福祉法人 観音の里特別養護老人ホーム高城園	宮崎県社会福祉事業団特別養護老人ホーム霧島荘
【介護老人保健施設】	
医療法人 魁成会 介護老人保健施設こんにちわセンター	
【デイサービス】	
社会福祉法人恵愛会恵寿苑デイサービスセンター	都城市社会福祉事業団庄内デイサービスセンター
社会福祉法人観音の里高城園デイサービスセンター	高齢者総合支援センターきりしま 霧島荘デイサービスセンター
【グループホーム】	
社会福祉法人まりあ グループホーム まりあ	社会福祉法人 恵愛会 グループホーム めぐみ
有限会社 未来企画 グループホーム オルゴール	
【養護老人ホーム】	
たちばな荘	友愛園

【授業計画】

詳細は、地域看護論実習Ⅰ要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、地域看護論実習Ⅰ実習要項参照

専門分野

【科目】地域看護論実習Ⅱ	【単位数・時間】2単位（60時間）
【担当講師】西元智子	【開講時期】第2学期
【配当年次】3年	【所属・職位等】専任教員
	【実務経験】看護師18年

【授業における到達目標】

＜地域保健活動、居宅介護支援事業所＞

1. 多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々をアセスメントできる。
2. 人々が暮らす地域の特性をアセスメントできる。
3. 地域で暮らす人々のセルフケア能力を高め、自らが望む暮らしを実現できるように支援する看護について理解し、指導者とともに実施できる。
4. 地域で暮らす人々を支援するための多職種連携・協働・調整の方法を理解できる。

＜在宅療養者とその家族への看護＞

1. 地域で生活している療養者とその家族を理解できる。
2. 地域で生活している療養者とその家族の状況に応じた看護が指導者とともに実践できる。
3. 保健医療福祉チームの一員として行動できる。

【授業の概要】

地域や在宅で療養している人と家族が持つ健康及び生活上の課題を理解し、その人に応じた看護について学ぶ

【実習期間】

令和6年8月20日～令和6年10月18日のうち連続する10日間

【実習施設】

【市町村】	
都城市役所	三股町健康管理センター
【居宅支援事業所】	
ケアプランサービス ゆう	霧島荘居宅介護総合支援事業所
【訪問看護ステーション】	
都城市郡医師会立訪問看護ステーション	くぼはら訪問看護ステーション
訪問看護ステーション優癒	三股町訪問看護ステーションなごみ
訪問看護ステーションほほえみの園	リハケアステーション都城
訪問看護ステーション手と手	訪問看護ステーションCOCORO美

【授業計画】

詳細は、地域看護論実習Ⅱ要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、地域看護論実習Ⅱ実習要項参照

専門分野

【科目】成人・老年看護学実習Ⅰ

【単位数・時間】3単位（90時間）

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】永田 歩

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師18年

【授業における到達目標】

1. 回復期にある成人期・老年期の患者および家族の特徴について理解できる。
2. 回復期にある対象が地域で生活するための機能回復や自立に向けた看護が実践できる。
3. 対象の退院支援について考えることができる。
4. 医療チームの一員であることを自覚し、多職種連携のあり方や看護師の役割が理解できる。
5. 看護実践を通して、患者を尊重した態度がとれる。

【授業の概要】

病棟において成人期・老年期にある患者を受持ち、回復期にある対象の機能回復に向けた看護の実践を学ぶ。また、地域医療連携室実習においては、多職種連携における看護師の役割について学ぶ。

【実習期間】

令和7年2月3日(月)～令和7年10月23日(金)のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 在宅サポート病棟、地域医療連携室

【授業計画】

詳細は、成人老年看護学実習Ⅰ要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う実習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前学習を行う。

専門分野

【科目】成人老年看護学実習Ⅱ

【単位数・時間】3単位（90時間）

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】西 裕也

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師14年

【授業における到達目標】

1. 病気を告知され治療に向かう成人期・老年期の患者の特徴が理解できる。
2. 手術前期の全身状態を把握し、術後合併症予防のための身体的援助ができる
3. 病気告知から手術を受けるまでの対象・家族の危機的心理状況を理解し、安楽に向けた援助ができる
4. 手術期の対象に生じる身体的影響を理解し、安全・安楽に向けた援助ができる。
5. 手術療法によって生じた機能低下や障害の程度に合わせた対象・家族への援助ができる
6. 看護者として必要な態度を身につけることができる

【授業の概要】

病棟において、急性期にある成人期・老年各期の対象とその家族との関わりを通して危機的状态からの生命維持や適応に向けた看護について学ぶ。

【実習期間】

令和7年2月3日～令和7年10月23日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・3病棟・手術室・外科外来

【授業計画】

詳細は、成人老年看護学実習Ⅱ要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う実習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前学習を行う。

【科目】成人・老年看護学実習Ⅲ

【単位数・時間】3 単位(90 時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2 年・3 年

【担当講師】田尻朝恵¹⁾ 今田南生人²⁾ 【所属・職位等】1) 2) 専任教員

【実務経験】1) 看護師 15 年 2) 看護師 11 年

【授業における到達目標】

＜慢性期＞

1. 慢性的な経過をたどる対象及び家族に必要な支援を総合的に理解することができる。
2. 長期にわたる自己管理や症状コントロール能力を中心としたアセスメントができる。
3. 対象の自己管理や生活調整に向けた看護を実践できる。
4. 自己管理や生活調整に必要な社会資源や多職種連携について理解できる。
5. 受け持ち患者や家族と良い人間関係を築くことができる。
6. 医療チームの一員であることを自覚し、多職種の連携の在り方や看護師の役割が理解できる。

＜終末期＞

1. 終末期の成人期・老年期にある対象の特徴が理解できる。
2. 終末期にある成人期・老年期の患者に安全・安楽な看護を実践できる。
3. 終末期にある家族への看護が理解できる。
4. 終末期における医療チームの一員として自己の役割を認識し、多職種連携や社会資源の活用について述べるができる。
5. 受け持ち患者や家族と良い人間関係を築くことができる。
6. 医療チームの一員として、看護者の役割を自覚し責任ある行動をとることができる。

【授業の概要】

慢性的な病とともにある成人期・老年期にある対象や家族の特徴をとらえ健康問題・生活上の課題を理解しその人に応じた看護について学ぶ。

終末期にある成人期・老年期にある対象や家族の特徴をとらえ対象の全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的）の 4 側面からの苦痛を理解し、安全・安楽な看護が実践することを学ぶ。

【実習期間】

1. 令和 7 年 2 月 3 日(月)～10 月 23 日(木)連続する 12 日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 5 病棟、外来

【授業計画】

詳細は、成人・老年看護学実習Ⅲ実習要項（慢性期・終末期）参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。（配点：100 点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患者の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患者に必要な看護技術の事前練習を行う。

専門分野

【科目】小児看護学実習

【単位数・時間】2単位(60時間)

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】今田 南生人

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師11年

【授業における到達目標】

1. 小児看護学実習（地域で生活する小児の理解）
 - 1) 小児の成長・発達について、身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。
 - 2) 小児の成長・発達に応じた援助が実践できる。
 - 3) 小児の成長・発達に応じた健康教育と事故防止の実際を理解できる。
 - 4) 保健医療福祉チームの一員として、小児を尊重し、看護師の役割を自覚し責任ある行動を取ることができる。
2. 小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）
 - 1) 健康障害のある小児の特徴について理解できる。
 - 2) 患児及び家族の健康障害に応じた看護が実践できる。
 - 3) 小児をとりまく保健医療福祉チームの連携と活用する社会資源を理解できる。
 - 4) 小児を尊重し、保健医療福祉チームの一員として、責任ある行動を取ることができる。
 - 5) 小児とその家族との関わりを通して、小児看護観を深めることができる。
3. 小児看護学実習（子育て支援）
 - 1) 子育ての現状とその支援について理解することができる。
 - 2) 保健医療福祉チームの一員として、小児を尊重し、看護師の役割を自覚し責任ある行動を取ることができる。

【授業の概要】

小児看護学実習（健康な小児の理解）では、保育園・保育所において地域で生活する小児とのかかわりをとおして、小児の特徴や成長・発達に応じた援助について学ぶ。

小児看護学実習（健康障害のある小児の看護）では、病棟・外来において健康障害のある児を担当し、患児と家族に対して、成長・発達及び健康障害に応じた看護について学ぶ。

小児看護学実習（子育て支援）では、都城市ファミリー・サポート・センターにおいて子育ての現状とその支援について学ぶ。

【実習期間】

令和7年2月3日(月)～令和7年10月23日(金)のうち連続する10日間

【実習施設】

社会福祉法人しらゆり福祉会 幼保連携型認定こども園 早水保育園
社会福祉法人 都北保育園 とほく認定こども園
社会福祉法人小鳩会 志比田こども園
社会福祉法人エンゼル会 こおりもと保育園
独立行政法人国立病院機構都城医療センター NICU
独立行政法人国立病院機構都城医療センター 2病棟・小児科外来

【授業計画】

詳細は、小児看護学実習要項参照

【評価方法】

評価基準をもとに看護実践や実習態度、実習記録を評価する。(配点：100 点)

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち患児の疾患及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 受け持ち患児に必要な看護技術の事前練習

専門分野

【科目】母性看護学実習

【単位数・時間】2単位（60時間）

【開講時期】通年

【配当年次】2年・3年

【担当講師】一柳明日香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師7年

【授業における到達目標】

1. 周産期にある対象の身体的特徴および心理・社会的特徴を理解できる。
2. 新生児の特徴が理解できる。
3. 周産期にある対象の健康上の課題を明らかにできる。
4. 周産期の対象の健康の維持増進に向けた援助を実践できる。
5. 新生児の安全・安楽な援助が実践できる。
6. 母子とその家族の愛着形成・役割の獲得に向けた看護が実践できる。
7. 母性における継続看護と社会資源の活用必要性が理解できる。
8. 保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

妊産褥婦及び新生児の特徴を理解し、母子とその家族の健康を維持・増進するために必要な看護を学ぶ。

【実習期間】

令和7年2月3日～令和7年10月23日のうち連続する10日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター
都城市子育て世代活動支援センター「ふれびか」

【授業計画】

詳細は、母性看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。（配点：100点）

【授業外における学修方法及び時間】

1. 実習要項に示している実習前の事前学習、受け持ち妊婦の病態及び症状、検査、治療、看護に伴う学習を行う。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児にまつわる必要な看護技術の事前練習
3. 褥婦の退院後の生活で利用可能な社会資源

専門分野

【科目】精神看護学実習		
【単位数・時間】2単位（60時間）	【開講時期】通年	【配当年次】2・3年
【担当講師】後藤広行	【所属・職位等】専任教員	
【実務経験】看護師16年		

【授業における到達目標】

1. 患者の状況を総合的に理解できる。
2. 精神の健康回復を促す看護が実践できる。
3. 看護実践の振り返りから自己の課題を述べることができる。
4. 医療チームの一員として責任ある行動がとれる。

【授業の概要】

精神に障害のある人との関わりから精神に障害をもつ人の生活の困難を理解し、社会生活適応に向けた支援の方法を学ぶ。

【実習期間】

令和7年2月3日(月)～7月11日(金)うち連続する10日間

【実習施設】

一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院

【授業計画】

精神看護学実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

精神看護学実習要項参照

【科目】看護総合実習

【単位数・時間】3単位(90時間)

【開講時期】2学期

【配当年次】3年

【担当講師】一柳明日香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師7年

【授業における到達目標】

1. 複数の受け持ち患者の状態や周囲の状況を判断し、その状況に応じて必要な看護が実践できる。
2. 看護チームの一員として、受け持ち患者に必要な看護を安全に実践できる。
3. 24時間看護が継続されるよう、看護を実践することができる。
4. 患者に必要な資源を活用し、看護を実践することができる。
5. 看護師としての倫理観を持ち、看護師としての役割と責任について理解できる。

【授業の概要】

チームの一員として、看護実践に必要なマネジメントを理解し、対象を取り巻く人々との調整や連携を学ぶ。

【実習期間】

令和7年10月30日(木)～11月18日(火)のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 1病棟～5病棟

【授業計画】

詳細は、看護総合実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

授業ノートの整理と見直しを行い、実習期間中は学習したノートを持参する。学習内容に不足がある場合は、追加学習を行う。

1. 実習病棟に特徴的な疾患について（病態・治療処置・看護目標や看護の方法）
2. 看護マネジメント論で学習した病棟での看護マネジメント
3. 医療安全で学習した医療安全対策と管理
4. 統合看護技術